岩崎 純 著

『岩崎純一全集』

第十四巻「人文科学 (一の四)」

編纂、 監修 日本思想、日本の仏教、日本神話・神道および日本史、日本の地理(二)

岩崎純一 学術研究所 『岩崎純一全集』 編纂局

巻頭言

のうち、日本思想、 本巻は、 『岩崎純一全集』の第十四巻を成し、岩崎の言語の著作物 日本の仏教、日本神話・神道および日本史、

本の地理、とりわけ神話・神道に関する述作を収める。

巻頭言

目次

第一編 ○歳~十九歳

巫女さんの共感覚と私の対女性共感覚 二十歳~二十九歳

第一部 現代の巫女と一般女性とに共通する潜在的古代的共感

覚について

第二部 (編集中)

神道と現代日本社会と私

神道と現代日本社会と私

日本文化へのオープンアクセス化

閉ざされた一部の日本文化

高度な学識 スマホやりたり

日本文化の間隙巫女との接点

巫女への連絡と交流開始 本職巫女が SNS を楽しむ時代

日本神道観察史

神道周辺の諸思想

陰陽道

山岳信仰と修験道

御霊会と天神信仰 天道思想

道祖神、地蔵菩薩

地鎮祭 えびす信仰

神仏習合

神宮寺

本地垂迹

巫女神道

巫女神道としての日本神道

女系女子の家系

身分・家柄、年齢、 人口、 居住地

旧皇族、旧華族の女子と内掌典、斎王

畿内の女系の日の巫女、岡山の女系巫女

中山太郎の巫女観

男系神道、 国家神道

折口信夫の巫女観

日本神道の男系男子化

天皇と神道

天皇・皇族の仏教徒化

神社神道

国家神道と教派神 道

神道の近代化と社格

神道の軍事利用

神道と戦後日本

宗教行政 神社本庁と単立法人

現代の日本神道における巫女の立場

神道と巫女文化の分離

許嫁(いいなずけ)制度の現在 女系女子継承と現代の皇室

サブカルチャー文化と神社参拝の変質

三十歳~三十九歳

『巫女神道探訪記

第一部 「岩崎純一のウェブサイトで扱う巫女神道の比較表

第二部 - 日本的アニミズム感覚の源流

訪ねて - 」

第一章 「巫女神道」 とは何か

第二章 巫女の自己紹介 ●●社家の巫女神道の概要

第三章

第四章 巫女の方々への岩崎純 一の自己紹介

第五章 家系の遺伝子と巫女の神託能力・共感覚との関

第七章 第六章 神懸り体験の正体、「合気」としての共感覚 神懸りと物理学上の電磁波動の関係について

> 第八章 巫女が詠む和歌の呪力・魔力につい

7

第九章 宮中祭祀と巫女神道との距離感

岡山の神道系新宗教の隆盛

第十二章 第十一章 天孫系巫女神道の秘儀・秘伝化および皇室神道や 日の巫女の王の伝承と日本最古の皇別系巫女神道

皇別・天神系巫女神道との別れ

第十三章 ホトをめぐる秘儀と現代日本社会

第三部 神道・仏教研究

第四部 『巫女神道探訪記 日本的アニミズム感覚の源 流を

訪ねて・』紹介ページ

第五部 神道・仏教関連リンク

第六部 岡山県巫女特別協力資料(一)

『日本神道道統図』

比較年表 吉備系巫女神道とヤマト系神社・国家・ 教派神道

口県など山陽地方) 旧吉備王国 (郷里岡山県および兵庫県、 系巫女神道・巫女歌道 広島県、 令和新時 Ш

最終協力版

第七部 岡山県巫女特別協力資料

『吉備・ヤマト相関図』

旧吉備王国・吉備王国系巫女神道とヤマト王権連

合・『記紀』神話・六国史の歴史観の比較年表 旧吉備王国 (郷里岡山県および兵庫県、広島県、

Ш

口県など山陽地方)系巫女神道・巫女歌道 令和新時

代 最終協力版

第八部 岡山県巫女特別協力資料(六)

『吉備巫女神道に対する弾圧策の実相とその再興計画』

吉備系巫女神道に対するヤマト系神社・国家・教派

神道の対応の比較 -

旧吉備王国(郷里岡山県および兵庫県、広島県、山

口県など山陽地方) 系巫女神道・巫女歌道 令和新時

代 最終協力版

第九部 岡山県巫女特別協力資料(七)

『巫女神道吉備派道統総覧』

近現代の巫女弾圧策で壊滅、逃亡、秘教神道化した

吉備系巫女神道の理論的再興 -

旧吉備王国(郷里岡山県および兵庫県、広島県、山

口県など山陽地方)系巫女神道・巫女歌道 令和新時

2 最終協力版

第十部 「定説への叛乱 in 岡山(吉備) 岡山・東京歴史

究交流初シンポジウム」の後援

第四編 四十歳~四十九歳

第五編 五十歳~五十九歳

第六編 六十歳~六十九歳

第七

七十歳以降

第八編 著作者の一部および著作権者が岩崎純一であるも

第九編 著作権者が岩崎純一であるもの

第一部 巫女神道ノート

第一章 「巫女神道の比較表」

第二章 『巫女神道探訪記 - 日本的アニミズム感覚の源流

を訪ねて・』

第三章 巫女神道史観の比較

第四章 日の巫女の王(斎皇)伝説

第五章 ●●社家の祭祀・神事

第 福 ○歳~十九歳

編纂中。 収録を待たれよ。

二十歳~二十九歳

巫女さんの共感覚と私の対女性共感覚

二〇〇九年七月八日 起筆、 擱筆、 公開

らっしゃるけれども、「多くの巫女さんに囲まれて生活しているはず や芸術家が共感覚的なのではなくて、共感覚的な人こそが本物の巫 このフレーズは、「よくできたトリック」なのだろうと感じる。巫女 ない」という孤独感と同じなのだろう。ああ、日本の現状も、 楽家に囲まれて生活しているのに、自分の共感覚や性格が理解され もう一人、旅館の仲居さんにも同じような共感覚者がいる。これは、 なのに、自分の共感覚が理解される気が全然しない」と訴えてくる。 女や芸術家なのだ。 いうフレーズも、 にここまで来たかと思うと涙が出る。「共感覚者は芸術家に多い」と ピアノなど音楽をされている女性の方々の、「多くのピアニストや音 交流している共感覚者女性の中に、一人だけ巫女(みこ)さんがい (おかんなぎ) と言う。) 共感覚者を褒める方便として多用されるが、 (巫女・女巫(めかんなぎ) は女だが、男は男覡 つい

持ちがよく分かる。そういう女性は、神職や芸術の世界にいなくて や仲居さんや音楽家にはない気がする、 を見る。 が出そうになる、あるいは、 鳥居をくぐるだけで、美しい赤紫の風が心をよぎって、なぜだか涙 るだろう」という淡い期待も、 神域や芸術界に身を置けば自分と同じ心を持った人に多く出会え 巫女の心、 そういう共感覚や人間らしい心が、どうも周りの巫女さん 芸術家の心を持って生きていけるはずだ。 あるピアノの音に、素敵な黄色の流れ 全然成り立たない世相なのだと思う。 と訴える。 僕には、 (今の巫女 その気



は、厳密には神職ではなく、神職の補助という位置付け。)

そもそも、 メッセージを人々に伝えること」。 付けるということになるわけだけれども。 も問われないし、西洋下着を付けていようが全然かまわないらしい。 れられる体、 を舞うなどして喜ばせること、怒らせないようにすること」、 巫女装束自体がかつての下着だから、 巫女の つまり処女でなければならない。 本来の役割は、 「主に男神である自然の神々 だから、 本来、 今は、 下着の下に下着を 巫女は神を受け入 処女かどうか 、 「神 の を、 舞

以外の、 は、 人女性のピアスというのは、 言葉にならない「女の変化」 身 という感覚が、 先 ら身を守りたければ、 してよいも る防衛反応であったはずである。 スをされると、とたんに排卵や月経が感知しづらくなる。 も僕にはよく分かる。 0 の 気持ちで巫女さんになっていて悲しい」と言うが、この気持ち 共感覚巫女さんは、 血流が変わるともホルモンバランスが変わるとも言えるような もってのほかで、 対女性共感覚を持った僕のような若い男性たちから身を守 のなのである。 多くの巫女さんには無いらしい。 何が日本の女性として「はしたない」ことか、 自宅でしてくるべきだと思う。 条例で罰するべきだと思う。 「普段は茶髪にピアスであるような女性が、 僕からすれば、 として知覚される。 今のようなファッションではなく、 する必然性があってこそ、 電車内で化粧をするなど 僕は、 つまり、 対女性共感覚か 女性にピア 女性の全 原始日本 初めて 夫

> 声 卵 性共感覚」に当たるものを持っているに違いない かないのだろうが、 声 以 、なり眼力なりミラータッチ共感覚なり、 に変化する。 (をコントロールでき、 前も書いたように、 科学の世界では、 調べていけば、 チーター 繁殖期直 0 各種の動物ごとに解明していくし 前には、 オスは、 人間以外の動物 何かしら僕 メスが排卵しやすい鳴き 自分の鳴き声 のオスは、 \mathcal{O} 持つ 、でメスの 「対女 鳴き

う、 明しきれないが、 色や排卵の様子が、 神である太陽) と広くあったがために、 が処女かどうかを感知する僕のような能力が、 ならない」というのは、 深いポイントとなると思う。 なった(自分の実感では十~三十人に一人?)」ということが、 今もできるが、 ここで、「僕の対女性共感覚は、 極めて筋の には、 その女性が処女かどうかの感知は時 通った論理であっただろうということ。 僕には、 やはり異なって見えることがある。 明らかに処女を捧げなければならない」とい 迷信ではなく、「女性を見ただけでその女性 主に我々と同じく男性である神々 処女とそうでない女性とでは、 もっと言うと、「巫女が処女でなければ 女性に対して排卵 原始人男性にはもっ |感知と月 々しかできなく 言葉では説 共感覚 経 (特に男 感 知

う事実は、実はとても「すさまじい」ことだということ。今だったいる紫式部や清少納言という名前が彼女たちの本名ではない、とい以前も、その巫女さんや仲居さんとの話で出たのは、僕らが知って

を許します、 友 まいだ」という不安感が尋常ではない。 以外には教えてやるものか」という決意、 いうこと。 《人・同: かし、 突然見ず知らずの女性に名前を尋ねるのは別にしても、 悠久の人類史からすれば、このことは 僚 上古代当時の女性が本名を男性に教えるというのは、 の女性の 結婚を承諾します、 名前、 を知るなんてことは、 という合図で、 「知られたら私はもうおし 別 「異常な」 「絶対に特定の男性 に異常では 事態だと 知 な 人

> \mathcal{O} \mathcal{O} \mathcal{O} \mathcal{O}

 \mathcal{O}

今の くの それら 抜 に起こさせたのは、 う解釈は耳にタコができるくらい聞くけれども、 あることがある、 性がそこまで慎重になったんだという話。それは、「迷信」でもなく、 仕草を見聞きしただけで女性の生理現象を読み取るくらいの力が多 「男覡の能 . 共感覚者男性が言ってみるべきなんだ、ということ。 かれることだ。 男性にあって、 非常に大きな情熱と勇気が湧いてきた。 女にとっては、 「名前占い」とも違い、 が いったいどこから来るのかについて、「女性の 力 だったのだろう、という話。 「迷信」「呪術」と思われていることで「本物」で ということ。 当然男性で、それこそ「男性の対女性共感覚」、 女性が本気でそれを恐れ、 本名を知られることは、 本当の そのことを、 「言霊の力」なんだ、 男のもとに魂を引っこ 今生き残っている対女 女性の本名や泣き声、 敬ったがために、 その道徳心を女性 道徳心」 それを聞い というこ とい 女

古今和 歌集の仮名序には、 「力ひとつ入れずに天地を動 かし、 あ \mathcal{O}

世

歌を体現できる男性は、 ていくのが惜しくて仕方がない。 ん時代が下るまで、 が 霊魂 ような心を持っていただろう。 が が和歌の本性だと書いてある。 「巫女の能力」ではなかったか。凛々しく美しい日本が失われ 「対女性共感覚」 を感嘆させ、 和やかな男女の関係を作り、 女性は皆が巫女であった。 であり、 ほとんどいなくなった。 「力ひとつ入れずして神々を動 「力ひとつ入れずして女を動 和歌は詠めても、 皆が、 、武士の 琉球では、 自らの 先の巫女さん 心を慰める」 肉体で和 ずい ジかすし . Š

ういう覚悟があってのそれらとは思えない。 う道具は、 今の \mathcal{O} 容が無い 肉体を失う覚悟があっての「自死」 は自殺はしない。 を知る最高の場である。 力を「自分の肉体の内部」に持っている。 る主体」と るために 上古代の男性・男覡や、 部」に持っている。 日 先進 本は ように見えて、 国や日本の男性は、 「体温計」 「オス」を失いつつあるのだと思う。 自ら 「射精を行う主体」が全くの別物になっている。 Ō 逆を言えば、 肉体である。 を使う。 例えば、 僕や、 寂しい。 そんな肉体を失うのは惜し だから、「女性の生理現象の情報を物 女性 排卵や月経を知るには、 動物の 昔の日本の男の自殺とは、 自らの肉体こそが、 「男=オス+人間」 だった。 0) 性的 オスの場合、 に能力を 排卵や月経を知るのに使 そもそも、 今の自殺も犯罪も、 自 女性の 女性 だとすると、 基礎体温 分の 覚悟する内 だ へ の それが、 そうい 肉体情報 たから、 肉 性的 体 を計 0 そ 僕 報

だ。鳥居をくぐるときに感じるものは、いつもそういうものだ。サルのオスの能力の崇高さと偉大さの前には、ひれ伏すしかないのしかしながら、僕の対女性共感覚でさえ、自然の神々やチーターや

http://ij-art-music.sblo.jp/article/28533556.html(参考記事:チーターのオスなど)

第一部 現代の巫女と一般女性とに共通する潜在的古代的共感

二〇一一年六月二十六日 起筆、擱筆、公開

現代の世相なのだろうか、私が普段、「巫女の共感覚を研究してい現代の世相なのだろうか、私が許良、「巫女の共感覚を研究している正は、本当の巫女(大神宮巫女・大社巫女・内掌典経験者など)のこは、本当の巫女(大神宮巫女・大社巫女・内掌典経験者など)のこは、本当の巫女(大神宮巫女・大社巫女・内掌典経験者など)のこは、本当の巫女(大神宮巫女・大社巫女・内掌典経験者など)のこれが、私が普段、「巫女の共感覚を研究してい現代の世相なのだろうか、私が普段、「巫女の共感覚を研究していまれている。

ている。 いなずけ)」のお相手が決まっているような女性の方々のことを言っいなずけ)」のお相手が決まっているような女性の方々のことを言っ格」は戦後に廃止されたが、事実上残っている)、本当に「許嫁(いいわゆる「社格(神社の格)」が高い神社に生きていらっしゃり(「社

ではない。であり、とてもサブカルチャー的な興味から扱ってよいような存在であり、とてもサブカルチャー的な興味から扱ってよいような方々要するに、著者の私も恐れ多すぎてひれ伏してしまうような方々

は十代・二十代が多い。
は十代・二十代が多い。
世が存在する。拙著を読んで下さったり私のサイトへご訪問下さっ
性が存在する。拙著を読んで下さったり私のサイトへご訪問下さっ
明社家や旧公家の血を引き、ほとんど自動的に巫女の人生を送る女

の目標の何割かは達成できたと思っている。分のライフワークである共感覚を語り合えるだけでも、共感覚人生和歌をやり取りさせていただいている。私は、このような方々と自そのような皆様とは、「文字や言葉の共感覚色」についてのお話や

安心できる。

安心できる。

それについては、私は残念には思わない。むしろ、いるわけである。それについては、私は残念には思わない。むしろ、たが、それと同じで、もはや巫女とて、普段はお掃除にいそしみなたが、それと同じで、もはや巫女とて、普段はお掃除にいそしみなたが、それと同じで、もはや巫女とて、普段はお掃除にいそしみなから、プライベートではパソコンに向かって何やらカチャカチャカのでもる。

味を成さない問いではあるが、ともかく、拙著を読んで下さった巫問いは、「ニワトリが先か卵が先か」というのと同じで、ほとんど意覚・解離性体質だから巫女なる仕事に似合っている」のか、という「巫女をやっていたら共感覚や解離性障害が身につく」のか、「共感

私が今の問いを「意味を成さない問いだ」と思う理由は、私の考女さんの中に共感覚者や解離性障害者が数人いるのは確かである。

「事実において、我々が溯(さかのぼ)れる限りの古代に実在したえが民俗学者の折口信夫と同じだと自分で思うからである。

られるわけがなかったのである」
者はなく、神事に関係せなかった女の身の上が、物語の上に伝誦せされてきたものと見てよい。(中略) 女として神事に与らなかった女性の生活は、一生涯あるいはある期間は、かならず巫女として費「事実において、我々が溯(さかのぼ)れる限りの古代に実在した

(『最古日本の女性生活の根柢』より引用

http://www.aozora.gr.jp/cards/000933/files/24436_14407.html)

とになる。のではなく、「女性とは巫女のことであった」と言うほうが正しいこのではなく、「女性とは巫女のことであった」と言うほうが正しいこ要するに、かつての日本では、「女性の仕事の一つに巫女があった」

なる。 考えなのである。 巫女だからといって古代巫女的感性の持ち主とは限らない」ことに 的感性を持った一般女性が生き残っている」かもしれないし、 害」や ということは逆に、 そして、 「鬱病」という名を与えているにすぎないというのが、 前者に対して、 現代日本には、「本職巫女でなくとも古代巫女 精神科医は 「共感覚」 Þ 「解離性障 「本職 私の

に思いきり引っ張り上げて、なおかつそれを「昔はこちらがごく普どが指す何物か」を、それらをあまりよく思わない社会人の意識上「今の一部の女性に対して与えられる共感覚・解離性障害・鬱病な

やってみたい意地悪の一つである。通の女性の感性だったらしいですよ」と言うこと、これが常々私が

てくる可能性がないとは言えないことになる。 鎮守の杜の中で舞や神事や掃除でもさせれば、古代的共感覚が蘇っ 文明生活をしている普通の主婦を神社に強制的に移住させて、毎日 率がかなり高いということは言えるのだから、逆に言えば、現代的 の生婦を探ってみると、現実に共感覚や解離性障害を持っている確 先述のような、身分・出自の事情から本職巫女であらざるを得な

か」ということのはずである。
「現代日本女性の全員が潜在的巫女でいられるにはどうすればよいいかに体の奥底にだけは古代的感性を残したまま生きるか」、つまりのは、「木の香りもしないコンクリートのマンションで生活する中で、のはしかし、そんな暴挙はできない現代なのだから、問題にすべきなしかし、

保持し得たのか」ということになる。き声や女性の生理現象に色が見えるなどという共感覚を、なぜ体に逆に言えば、私の場合は、「そういう生活の中で、言葉や動物の鳴

を、そのまま「巫女」と言ったのではなかろうか。の共感覚のそっくりそのままの裏返し、私の感性の女性バージョン「巫女的感性の裏返し」ではなかろうかと思っている。つまり、私私の持つ「女性の生理現象を色で見る」共感覚は、一言で言えば

ないのである。
共感覚を持つ巫女さんたちのお話を伺っていると、そうとしか思え共感覚を持つ巫女さんたちのお話を伺っていると、そうとしか思え

『岩崎純一全集』第十四巻「人文科学 (一の四)」

第二部

編纂中。収録を待たれよ。

第三編 三十歳~三十九歳

第一部 「岩崎純一のウェブサイトで扱う巫女神道の比較表」



作成:岩崎純一

情報提供、監修:岡山県の社家の巫女数名

二〇一二年九月十六日 起筆

二〇一七年八月六日 公開

二〇一七年九月二十四日 最終更新

特設サイト:「神道・仏教研究」

- が中心になっていますが、他県の巫女神道の情報も岩崎のサイトの◆現在のところ、代表的な巫女神道と我々の故郷岡山県の巫女神道◆ 『巫女神道探訪記』の参考資料としてもお使いいただけます。
- 掲載情報は、以下のいずれかに基づきます。

メールにて受け付けています。

● 学術的知見として存在する情報(公表されているもの)す。)(ここでの岩崎の研究の中心は、伝承内容の真実性の追究以上に、(ここでの岩崎の研究の中心は、伝承内容の真実性の追究以上に、

- して公表している情報 巫女が自身の一族・社家の伝承や私蔵する神典の記載内容と
- 巫女への岩崎による直接の取材で得た情報
- 載しています。) 特に、「歌道及び勅撰和歌集の成立」のページに斎王歌壇について掲の旧派歌道関連の資料もご参照下さい。(俗名・歌人名でのご協力。◆ このほか、岩崎が巫女の方々のご協力を得て作成している以下
- ▼ 誤りなどのご指摘も、岩崎のメール宛にお送り下さいますよう

お願いいたします。"

『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』

総覧』・・・http://iwasakijunichi.net/ronbun_ippan/kado.htm

「和歌・古典」 和 歌

の特設サイ

古

典

 \mathcal{O} 特 設 サ イ

http://iwasakijunichi.net/waka/

岩崎の立ち位置	史実との整合性の検証を主に行います。(取材経験もあります。)
二〇一三年現在の呼称	内掌典 ◆ 現存する巫女神道
本拠地	東京都千代田区
詰所、祭祀の場所	宮中三殿(賢所、皇霊殿) ※ 八咫鏡(三種の神器の一つ)および天皇の霊を祀る。
現在の人数	同時に五名、うち一名は御頭(おかしら)
現行法上の位置付け	明治四十年皇室令第三号「宮内省官制」による新設の巫女制度。現憲法下では、天皇(内廷)の私的使用人
巫女禁断令(明治四年)、神道指令(昭和二十年)、	巫女禁断令の影響はない。巫女禁断令が淫祠邪教とする神事(有言の託宣・神降ろし・神霊憑依など)を排除して成立した近代巫
「天皇の人間宣言」(昭和二十一年)の影響	女制度である。神道指令と「天皇の人間宣言」により、巫女神道色をいっそう喪失。
interest in the second	男系:現皇統に縁のある男子のもとに生まれた女子
事実上の資材	女系:世襲とは限らない(未婚の皇女、皇室関係女子、旧宮家女子、皇室側が指名した一般女子)
処女性	基本的に必要だが、内掌典どうしの管理はない。
処女性の確認とその喪失時の対応	内掌典どうしで処女性の有無を事前確認しないが、処女性の喪失が知れた場合、暗黙裡に自主的に、または周囲の助言により退下。
巫女の期間	十五歳前後より二十代末または生涯
秘儀・秘伝の例	国民に公表されていない宮中祭祀全般(ただし、奉納中心の神事で、神懸り神事ではない。)
伝承する神話	近代に成立した制度であるため、神話は存在しない。
託宣の言葉	託宣は、巫女禁断令での禁止や神道指令以降、宮中祭祀では行われていない。
巫女の脳の実態大学などの研究機関が検証した、神懸り神事中の	多くの内掌典が、巫女禁断令が禁止した神事に伴ういかなる変性意識状態や症状を伴わない。
神託を告げる主な対象	天皇
『記紀』または地元・社家に伝承されている男系	▼神世七代▼イザナギ、イザナミ▼天照大神▼ニニギ▼神武天皇▼北朝 ※ ただし、これは天皇(男系)の神話上の出自であっ
男子の祖先・出自	て、巫女(内掌典)の出自と重ならない点で、これらが重なる下記の女系巫女の社家とは異なる。
現皇室・皇統に対する主張	基本的には、斎王制度の途絶や天照大神の神託の有無に関係なく、現皇室・現皇統の神道上の正統性を肯定している。

岩崎の立ち位置	史実との整合性の検証を主に行います。
二〇一三年現在の呼称	斎の巫女、斎女、日の巫女、斎王、斎皇、アカルヒメ ※ 「姫」姓を名乗る。 ◆ 現存する巫女神道
本拠地	兵庫県芦屋市 その他、岡山県総社市福谷・秦、広島県福山市、滋賀県などが古い本拠地か。
詰所、祭祀の場所	所轄神社、霊山、磐座、姫社(播磨、吉備)
現在の人数	斎皇は一名、一族の巫女は同時に約二十名、「御三家」と呼ばれる三家に分かれる。
現行法上の位置付け	家業(宗教法人、大学役員の地位にある。) 崇敬会も組織している。
巫女禁断令(明治四年)、神道指令(昭和二十年)、	1000000000000000000000000000000000000
「天皇の人間宜言」(昭和二十一年)の影響	伯家神道の没落と相まって、皇室との縁を失う。ただし、巫女神道色の根幹には影響なく、斎の巫女の秘儀と神話技術を継承。
事実上の資格	世襲(一族の未婚・既婚女子)
処女性	基本的に必要であることが巫女自身の報告から観察される。
処女性の確認とその喪失時の対応	様々(母系一族であるため、神職にならない男子が家から出される。)
巫女の期間	様々
必要, 必完 0 引	オボ信仰や高句麗(一族の巫女の一部はこれを高天原とする)の東盟祭に由来する、隧穴信仰や纏向型祭祀(土坑祭祀)
元僧・元右の名	巫女舞、剣舞、湯立など
伝承する神話	『記紀』にない神話を多く伝承。
Septemby C purg Tay	ご一族の間で「高天原言葉」と呼ぶ扶余・高句麗系の言葉
	※ 託宣和歌も詠む。 ※ 日本語が扶余語族に属する説は確かにあり、岩崎が言語学的に検証中。
大学などの研究機関が検証した、神懸り神事中の	自己催眠の暗示効果
巫女の脳の実態	(統合失調症や転換性ヒステリーなどの精神障害とは異なっている。)
神託を告げる主な対象	一族男王、氏子(本来は天皇であるとする。)
『記紀』または地元・社家に伝承されている男系	▼神世七代▼イザナギ、イザナミ▼天照大神▼ニニギ▼神武天皇▼皇別▼皇親(真人)▼多氏系息長氏
男子の祖先・出自	※ ご一族は、多氏系息長氏は天之日矛(天日槍)の子孫だとし、天之日矛の妻が阿加流比売だとする。
	先代・当代の斎皇は、当家の巫女神道の見地から、明治天皇以降の天皇が真の天皇と言えるか疑わしいと述べている。(日本国憲
現皇室・皇統に対する主張	法上の象徴天皇や現皇室のあり方をめぐる議論ではない。)
	現皇統の仏教徒化の歴史全体や、明治政府による巫女神道への扱いに対して、極めて批判的である。

岩崎の立ち位置	主な研究対象です。
二〇一三年現在の呼称	斎の巫女、斎女、八乙女、神子座 ◆ 現存する巫女神道
本拠地	岡山県総社市、高梁市、新見市、倉敷市、岡山市、瀬戸内市、備前市、広島県庄原市(神郷、神代、姫社などの地)
詰所、祭祀の場所	な小川の上中流 ※ 一族の
現在の人数	五名(多産の場合、卜定で下記の分家へ。)
現行法上の位置付け	400
巫女禁断令 (明治四年)、神道指令 (昭和二十年)、	禁断とされた巫女舞・剣舞による神懸り神事を、国家神道に隠れて行ってきたため、秘儀・秘伝化が進んだ。神道指令や「天皇の
「天皇の人間宣言」(昭和二十一年)の影響	人間宣言」の影響は微少。巫女神道色の根幹に影響なし。
事実上の資格	希望者の世襲(一族の未婚女子)(長女が辞退した場合は次女、次女が辞退した場合は三女、などと順繰りに筆頭斎女が決まる。)
処女性	巫女期間中は必要(多くは事実上、生涯に渡って守る。)
しても)質ないこうさきテンナス	巫女になるに当たり、事前確認あり、または周囲が当初からそれを確証できている女子のみが巫女となる。喪失の場合、退下。
女女性の確認とその妻失明の女応	(ただし、喪失によって家から出る必要はない。)
巫女の期間	幼少期より二十代末または生涯
	隧穴信仰・ホト崇拝、巫女舞、剣舞、湯立、水中神事、鳴釜神事など
利僧・利位の存	※ 鳴釜神事は地元民のイベントとしても別に行われており、これには当家の巫女も一般参加者として参加する。
伝承する神話	『記紀』にない神話を多く伝承。
託宜の言葉	日本古語、吉備方言 ※ 託宣和歌も詠む。岩崎との歌合で巫女が詠む歌は、秘伝部分を隠した歌風で、ほぼ託宣和歌ではない。
大学などの研究機関が検証した、神懸り神事中の	以下の症状などを自ら誘発できる自己催眠(自由意志で症状の離脱もできるため、病的な状態や精神障害と言うことが難しい。)
巫女の脳の実態	●転換性障害、身体表現性障害、身体化障害、憑依障害、カタプレキシー(情動脱力発作)、カタレプシー(強硬症)
神託を告げる主な対象	一族当主、氏子、巫女となる娘・姉妹・従姉妹の相互神託による技術の伝授
	▼神世七代▼イザナギ、イザナミ▼天照大神▼ニニギ▼天孫 と ▼神代七代および天孫降臨以前からの吉備土着の地祇家系 の
『記紀』または地元・社家に伝承されている男系	混血と伝承される。巫女たち自身は、現皇統と自分たちとの血縁関係が確認できず、『記紀』神話とは別の伝承を多々含む吉備土
男子の祖先・出自	着の巫女神道であるだろうとする。
	※ 中世の『一宮社法』に見られる一神子・宮神子・神子もそれに当たり、当社家もこのうちの一族と思われる。
	現皇室・現皇統の神道上の正統性については中立的、現皇室のあり方については肯定的である。神仏習合についても批判的でなく、
現皇室・皇統に対する主張	学究的である。ただし、明治政府以降の国による巫女神道への扱いや、男系男子神職の奉納型祭祀を中心とする現神社神道には批
	判的で、岡山県内の旧教派神道のニューエイジ宗教化の現状には、極めて批判的である。

岩崎の立ち位置	主な研究対象です。	主な研究対象です。
二〇一三年現在の呼称	斎の巫女、斎女、八乙女、神子座 ◆ 現存する巫女神道	斎の巫女、斎女、八乙女、神子座 ◆ 現存する巫女神道
本拠地	同前(上記の社家の分家)	同前(上記の社家の更なる分家)
詰所、祭祀の場所	同前	同前
現在の人数	同前(多産の場合、巫女選定から漏れて一般の主婦や社会人とな	司前
五石の人物	వ _°)	- [6]
現行法上の位置付け	同前	同前
巫女禁断令 (明治四年)、神道指令 (昭和二十年)、	司介	司 打
「天皇の人間宣言」(昭和二十一年)の影響	同前	同
事実上の資格	希望者の世襲(一族の未婚女子)	希望者の世襲(一族の未婚女子)
処女性	同前	同前
処女性の確認とその喪失時の対応	同前	同前
巫女の期間	幼少期より二十代末または三十代末	幼少期より二十代末または三十代末
秘儀・秘伝の例	同前	同前
伝承する神話	『記紀』にない神話を多く伝承。	『記紀』にない神話を多く伝承。
託宜の言葉	同前	同前
巫女の脳の実態	同前	同前
神託を告げる主な対象	同前	同前
『記紀』または地元・社家に伝承されている男系	同前	同前
現皇室・皇統に対する主張	同前	同前

岩崎の立ち位置	主な研究対象です。	は、巫女神道色が皆無であるため、対象としません。主な研究対象です。ただし、現代になって復活した斎王代
	斎王、斎宮、斎内親王、斎女王、御杖代	斎王、斎院、斎内親王、斎女王、御杖代
二〇一三年野石の四秋(学術研究上)	◆ 消滅した巫女神道制度	◆ 消滅した巫女神道制度
所在地	伊勢国、山城国	山城国
詰所、祭祀の場所	伊勢神宮の斎宮寮	賀茂別雷神社、賀茂御祖神社の紫野斎院
当時の人数	同時に一名、追従する群行五十~五百名	同前
現行法上の位置付け	_	
巫女禁断令 (明治四年)、神道指令 (昭和二十年)、		
「天皇の人間宜言」(昭和二十一年)の影響		l
事実上の資格	ト定で選定された未婚の内親王・女王	同前
処女性	歴大期間中は必要(多くは事実上、生涯)	同前
処女性の確認とその喪失時の罰	密通は退下。侍女が秘匿に協力した場合、見逃しか。	同前
スで)月月	ト定で便所(潔斎所)を定める(初斎院)。数ヶ月~一年ののち、	ト定で便所(潔斎所)を定める(初斎院)。数ヶ月~2 年
A ちの 其間	野宮に入る。その後、伊勢へ。	ののち、野宮に入る。その後、賀茂へ。
秘儀・秘伝の例	斎殿における祭祀	同前
伝承する神話	『記紀』神話を中心に伝承した。	同前
託宜の言葉	日本古語 ※ 歌道伝授あり。	同前
	検証不能だが、斎王によっては自己催眠の憑依による私的な託宣が	
神懸り神事中の脳の実態	あったと推定される。ただし、多くの時期で斎王の地位は低く、天	同前
	皇・宮中への託宣は存在しないか、形骸化していたと考えられる。	
申毛と与げるとなけれ	表向きは天皇。実際は、斎王は内宮に入れず、託宣の権利もほとん	表向きは天皇。実際は、斎王は託宣の権利がほとんどなく、
本書を作りる三丈文義	どなく、生贄の要素が濃い。(例:嫥子女王の斎王託宣事件)	生贄の要素が濃い。
『記紀』または地元・社家に伝承されている男系	▼申世七代▼イザナギ、イザナミ▼天飛大申▼ニニギ▼申弐天昌▼	司前
男子の祖先・出自	ATT AND DESCRIPTION OF THE PROPERTY OF THE PRO	1 1 1 1
現皇室・皇統に対する主張		ı

◆インタビュー

元内掌典の方々二名

女子大学同窓会役員の社家の方々四名 岡山県の社家の巫女の方々三名 新社、一九九五~二〇〇二 ◆参考文献 『日本巫女史』中山太郎、国書刊行会、二〇一二 『折口信夫全集 新版』全三十七巻・別巻三巻

折口信夫、

中央公論

『我が国民間信仰史の研究』 『日本のシャーマニズム』 堀一郎、

堀一郎、 講談社現代新書、一九七一 創元社、一九五三

『南方熊楠全集』全十二冊 南方熊楠、 平凡社、 一九七五

『定本柳田国男集』全三十一巻・別巻五巻 柳田国男、筑摩書房、

九六二~一九七一

"Copyright (C) 2012-2013 岩崎純

http://iwasakijunichi.net/" All Rights Reserved.

17

ねて‐』 常二部 『巫女神道探訪記 - 日本的アニミズム感覚の源流を訪

第一章 序 「巫女神道」とは何か

二〇一七年七月三十日 公開二〇一三年三月二日 起筆、擱筆

特設サイト 「神道・仏教研究」

ネット用改訂版)です。の巫女(いつきのみこ)の方々との交流の記録(議論交換ノートのの巫女(いつきのみこ)の方々との交流の記録(議論交換ノートのこの記録は、私(岩崎純一)による巫女神道の探訪記録、特に斎

いるほか、上記サイトにも簡単に掲載しています。 巫女神道と関わるようになった経緯は、これ以降の本文で述べて

はよく見ますので、私もこの用語を採用しています。室神道」や「神社神道」との対比としてお使いになっているケースすが(巫女は一般に神職ではありません)、巫女の方々ご自身が「皇語をお使いになっている神道関係者、特に神職は少ないと思われまけ、見稲荷大社(京都への一人旅で岩崎が撮影)「巫女神道」という用伏見稲荷大社(京都への一人旅で岩崎が撮影)「巫女神道」という用

全神社の神道、 女文化も探究してきました。 性が神前で祝詞を唱え一定の所作を行う祭祀を中心とする神道の巫 部などが含まれます。 これまでに私は、 単立神社の神道、 近現代の一 これには、 般的な神社神道、すなわち、 旧国家神道の全部、 皇室神道、 神社本庁所轄の 旧教派神道 神 -職男 \mathcal{O}

ズムを指します。 民俗学者が「巫女教」、「女巫の教」などと呼んだ一種のシャーマニ宿らせて託宣する(とされる)原始神道、すなわち、中山太郎らの女舞(巫女神楽)によって日本の八百万の神々を自らの体に降ろし しかし、ここで扱う巫女神道とは、斎の巫女・神子(斎女)が巫

と考えるべきか、 質や感覚能力を有する場合に事実上の隠れた斎の巫女と認められる 子大学生・女子高校生のアルバイト巫女については、どのような体 めます。 般国民の日常からかけ離れた生活を継承している巫女は、 ただし、 方、神道色を廃し、 の手法を採用した 現在の巫女の9割以上を占める、社家出身でない 上記の神社神道の巫女であっても、 斎の巫女の方々と岩崎が本文中で議論しています。 部の教派神道系教団の儀式を行う巫女は ニューエイジ系の思想やマインドコントロ 神懸りの秘儀など一 ここに含 一般の女



ここから除きます。

5 じ法的なお立場として、 ついては、 天皇や公家の私的使用人として、 私の私的見解で研究対象に含めます。 神懸り神事を行っていませんが、 皇室神道の巫女を務めている現在の内掌典 つまり、 その特殊なお立場か 般家庭の家政 気婦と同

除きます。 い地位の場合、 て戦後に意図的に元女性皇族ばかりが連続で就任しているにすぎな その一方、 神宮祭主のように、 巫 女神道の一役職とは言えませんので、ここからは 勅旨=天皇の 私的命令などによっ

たはほとんど伴っていないと考えられますが、 代の精神病理学・脳神経学上で「転換性障害」、「身体表現性障害」、 験では、これらが激しく伴います。 力発作)」、 「憑依障害」、「カタレプシー 多くのご 神 「共感覚」などと呼称される意識・知覚の変容を全く、 社神道の祭祀・ 儀式においては、 (強硬症)」、「カタプレキシー 神職および巫女は、 斎の巫女の神懸り体 (情動脱 ま 現

によって自己催眠現象であると分析され、 る部分もある一方で、) など)に陥った女性の意識混濁や「うわごと」とは、 らに陥ったりこれらから脱したりできる身体技術を身につけていま している点です。 ただし、注意すべきは、 いわゆるパワハラやセクハラ、 (不安障害、 PTSD' つまり、 紙 急性ストレス障害など)や精神障害 斎の巫女たちは、 斎の巫女の神懸り体験は、 重のところで異なっています。また、 犯罪被害などによって神経症性 巫女たち自身もそう自覚 半ば随意的に自らこれ 様相が 多くの科学者 (重な (鬱病 斎

> 性格の女性の暴言や暴れ方とは根本的に異なっています。 巫女たちの転換性・ 身体化型のヒステリーは、 単に傲慢で 凶

 \mathcal{O}

思惟の世界それ自体) 的な巫女神道 私の場合、 故郷岡山 (特に斎の巫女による祭祀・儀式の最中の への関心が主となっています。 (日本神話・古代吉備王国時代以 知覚 来 0 秘

第 章 巫女の自己紹介

二〇一二年九月十六日 取材、 発言、

二〇一七年七月三十日 擱筆、 公開

特設サイト 神道・仏教研究

吉備の 斎の巫女 į 二〇一二年九月十六日

皆様には大変お世話になっております。

ます。 11 性がありますので、 .ません。) 私たちの文章だけは岩崎純一様のサイトで公開していただく可能 (巫女舞や託宣については、 そのつもりで、 秘儀であるため公開はお願いして 詳しく自己紹介させていただき

で斎の巫女 私は、 岡山県の備中・備前、 (V つきのみこ)をしています。 特に総社・高梁の神社や霊山や古墳 吉備 播磨地方には

ままにさせていただいています。 をとらせていただいたときのニックネー もちろん私以外にも斎の巫女がいますが、 ムがこれでしたので、 最初に岩崎純 様に連絡 その

せんし、 になることでしょう。 しで定年であがる予定です。私ももうすぐ、ごく一般の三十代女性 宣などは減っています。 今はたいてい、一か所に詰めていまして、 私の社家の女子たちもずいぶん育ってきましたので、 私は生涯現役巫女という道を考えておりま 巫女舞、 神降ろし、 今少 託

ても心配になります。 たりするのに慣れている女性が、 でも、 磐座 (いわくら) が歪んで見えたり、 普通に女性業をできるのかと、 それが泣くのを聞 لح い

らず、 明らかに思うこの頃です。 弁)」と言われる始末です。 は男性たちよりも「ぼっけーきょーてー(とても恐ろしい、 病気にしたりヒステリーにできるのは、 その気になれば、というよりもそこまで望んでいないにもか 今でもそれなりの割合で、 それで、私を含む、私の家系の女子たち 近所の素行のよろしくない 色々と望ましくないものと、 の岡山 方々を かわ

玉 孫降臨神話 は、 とされる家系で、 の 私の家系は、『記紀』神話以 0 神話が必ずここを通るためです)、岡山県内の社家は古代吉備王 神 おそらく現在は兵庫県・岡山県内に集中的に存続していて(天 - 懸り の中心地であり、 託宣文化を伝承しています。 真偽のほどは検証が必要ですが、そのような家系 また、 前 皇統誕生以前からのルーツを持つ 神武東征神話やそれ以前 ただ、 実際は、 県外にお の東進

> している、という社家もあります。 もな居を構えてそこから岡山県内の 古代吉備王国時代の 神 社 を管理

す。ですから、「いつきのみこ」という読みでも、 から直接に、 女」とは書けず、「斎の巫女」と書きます。 元に伝わる伝説や代表的な日本神話(『記紀』など)に出てくる神 私たちの社家は、 神武天皇の系統とは無関係に生まれ出た家系とされま 神別氏族(天孫・ 地 祗) を祖に持ちますから、 「斎皇」 Þ 「斎皇

地

原氏の近縁とされます。 名乗ったケースも多いようです。 ていますが、 代表的な神別氏族と言えば藤原氏で、 直接の子孫というよりは、 現在、 兵庫・岡山県に 私たちの社家も藤原氏や菅 虎の威を借りて 「藤原」 姓 藤 が集中し 原」

中心に、全国にも散らばっています。 吉備には現在もいくつか存在しています。 その皇統から分かれ出た高貴な社家で、これを名乗る社家も、 一方で、皇別氏族を祖に持つ社家は、神武天皇が登場したのちに、 もちろん、奈良・京都 播磨

母、 室神道が母系女子の巫女神道だった頃の源流に近いものを遺してい との意味以上に、 女などですが、 るとの意味でもあります。 私の家は、皇室とは今や無縁となっていますが、血族関係にな 私の家では、基本的に女系女子が斎の巫女になりますので、祖 姉妹、 従姉妹などが巫女です。 一部は女性神職や各神社の事務員になります。 私の家や近隣地域の数家のほうが、 ほぼ皆、 斎の巫女、 父系男子の皇 神子、 母 Z

日 本の 神道その ŧ のの最初の姿は、 東アジアの他のシャー -マニズ

期だったと見なしています。 史から見るも、 神道」にも、 制 たくないかによって、 から見るも、 女神道でした。 ム文化と同じで、 度の消滅そのものに批判的な) も原理的に見る その巫女神道が崩れた時期については、 「我国の原始神道が巫女教であったことは、 古代社会史から見るも、更に巫女史から見るも、 疑うべからざる事実である。」とあるのがそれ 中山太郎の 今の父系男子の皇統とは別に、母系女子による巫 (皇室神道の男系男子化、 社家ごとに見解が違いますが、 _日 本巫女史』 社家の巫女の方々よりは、 現皇統を認めたいか認め 0) 仏教の日本流入、 「巫女教としての 私としては、 神道発達史 遅い時 っです。 斎王 民俗 原始

ています。した勢力であると解釈できるような、神話の時代からの伝承に生きした勢力であると解釈できるような、神話の時代からの伝承に生き定とは別に、現皇統があくまでも日本神道の一部で、政治的に勝利ただ私も、日本国の象徴が現皇統の天皇であるという憲法上の規

面のことはあまり書きません。
もちろん、ここは政治思想の話の場ではありませんから、その方

降は特に、 治体、 っていると思います。 今でも岡 私有地以外は、 神社本庁、 埋蔵物も巫女神 山は、 日 岡山県神社庁などの方針で決まるため、 発掘してよいかどうかが国 本最古の古墳が発見されているような土地です 道側の伝承の証拠を示すものに偏って埋 (政府、 宮内庁) 明治以

れている方で、岩崎様より、「巫女が神懸り神事をしているときに、ところで、岡山のご出身でもある岩崎純一様は、共感覚者と呼ば

て頂いて以来、私からも岩崎様の知覚を探るようになりました。がどのように起きているかを知りたい」という内容のご連絡を初めどのような知覚と意識の変容が起きているか、共感覚に当たる感覚

たちにも岩崎様の知覚世界や体質が興味を持たれたようです。出でいらっしゃいますので、そのこともあって、私どもの若い巫女いらっしゃいませんが、たまたま私たちの社家に極めてお近い所の陸軍将校、郷土文学者、漢籍教育者の曹洞宗家系で、社家系統では話題を持ち込むようになりました。岩崎様は、地元吉備の近衛兵・たちにも岩崎様のの巫女にも共感覚のそして、私の社家の他の巫女や、知人の社家の巫女にも共感覚の

覚論』などだったそうですが、最終的に上記になったそうです。すけれど。二冊目のタイトルは、岩崎様の第一希望は『対女性共感が、これまでのご著書よりも良い文章だと思うところもかなりありのご活動はありません。私としては、サイトやブログの文章のほうのご活動はありません。私としては、サイトやブログの文章のほうという二冊のご著書をお出しになっていますが、このほかには単著という二冊のご著書をお出しになっていますが、このほかには単著という二冊のご著書をお出しになっていますが、このほかには単著という二冊のご著書をお出しになっていますが、最終的に上記になったそうです。

男神の依代(よりしろ)という存在です。
女に準じる神託能力を持つ男性で、盲目・聾唖の場合も多いですが、人と見ている巫女もおります。私たち社家に伝わる「男覡」は、巫拝見した結果、岩崎様を事実上、現代の「男覡(おかんなぎ)」の一拝見した結果、岩崎様を事実上、現代の「男覡(おかんなぎ)」の一手見した結果、岩崎様を事実上、現代の「男覡(おかんなぎ)」の一

に男覡の能力や、私たち巫女の神降ろしや託宣の実情を説明していこの二冊が扱った「共感覚」は、一般論でもありつつ、それ以上

神社や社家の巫女の間で読まれています。る可能性があることは確かだと感じますし、私を含め、まだ色々な

じられ、これらは斎の巫女にとって最重要の知覚原理です。 聴く・利く (きく)」、「神々を見る・観る (みる)」という原理が感 岩崎様の論からは、明らかに「神々を匂う (にほふ)」、「神々を聞く・は、新書での出版という伝え方の問題ですが。それでも、日本文化 本として良本かと言うと、それはわかりません。内容というより

そのようなことですので、よろしくお願い申し上げます。の巫女文化の未来にとっても重要だと考えています。は意義深いと思いますし、議論の記録を残すことは、私たち社家側私たちの神降ろしや託宣を「共感覚」の視点からも説明すること

つくりつくり姫 --- 二〇一二年九月十七

ら来ています。でのニックネームの「つくりつくり姫」は、造山古墳と作山古墳かでのニックネームの「つくりかくり姫」は、造山古墳と作山古墳かる出場内の巫女、託宣歌人(神託で和歌を詠む巫女)です。ここ

私は八乙女として舞を舞ってきましたし、十代の頃は、外からい私は八乙女として舞を舞ってきましたし、十代の頃は、外からい、二十歳を過ぎてからは、家に伝わる神懸り・託宣の儀式ちました)、二十歳を過ぎてからは、家に伝わる神懸り・託宣の儀式ちました)、二十歳を過ぎてからは、家に伝わる神懸り・託宣の儀式を中心に行っています。吉備に定着する前(といっても古代)は、外からいを中心に行っています。吉備に定着する前(といっても古代)は、外からいを中心に行っています。

よろしくお願いいたします。

神代の巫女 --- 二〇一二年九月十六日

お正月です。
一年に三度あると言えます。冬至と、新暦のお正月と、旧暦の切い頃からほぼ旧暦で生活しながら、巫女舞を舞っています。お正幼い頃からほぼ旧暦で生活しながら、巫女舞を舞っています。お正りの社家の娘として生まれました。一番の特徴はと申しますと、神代(こうじろ)の巫女と申します。よろしくお願いいたします。

沼三章 ●●社家の巫女神道の概要

特設サイト 「神道・仏教研究」二〇一七年七月三十日 擱筆、公開二〇一二年九月十六日 取材、発言、起筆

吉備の斎の巫女、神代の巫女、つくりつくり姫 --- 二〇一二年九

月十六日

は大まかにしか書いていません。分家ごとの細かな違いも省きます。訳ございませんが、名前は伏せておりますのと、秘儀・秘伝の要素●●社家(私たちの本家・分家)の祭祀・神事の概要です。申し

事の概要です。申し 【氏子・参拝者の方々にごく普通にお目にかかるとき】

失礼)、

足元が不安定な大自然の中で動きやすく舞いやすくするため。

白衣、

袴

※ いわゆる一般の巫女装束。

○ 暦 ::

【社家内の生活で使用する暦】 旧暦(太陰太陽暦の宣明暦

【巫女舞、神託の儀式で使用する暦】 旧暦 (太陰太陽暦の元嘉暦、

 \bigcirc

音楽

雅楽

儀鳳暦、大衍暦、五紀暦など)

※ 外向けには新暦(グレゴリオ暦)を使用

【普通の外出時】 洋装

※ 外出時以外は、稀に平安装束を着る。

 \bigcirc

小道具

榊

幣、

神剣、

神鏡、

鉾、

鈴、

笹など

〇 装束

【巫女舞(巫女神楽)、神託の儀式のとき】 千早、水干、裳、

白足袋または裸足

※ これらを身につけるのが斎の巫女の特徴。

記(の略装)に裸足

【磐座、

神座、

遺跡、

古墳、

川の中などの場所での儀式のとき】

上

※ 略装にするのは、簡略化のためではなく(それは神々に対して

【神社、舞台で舞う】

舞衣、

 \bigcirc

巫女舞の場

所

れが起きないような動きをしています。)に起きず、また、自分にも氏子・参拝者の方々にも感化によってそ(これのみ、公開神事です。非公開神事のような意識変性はめった

【川の水に浸かったり潜ったりして舞う】

己催眠である点でそれらとは違います。)ところ、カタレプシー=強硬症に似た状態が観測されましたが、自場合もあります。じっとしている状態を医学的に調べていただいたおなどでの巫女舞とは動きが違い、小道具を持ってじっとしている水に宿る神に処女として一体化する秘儀です。舞うと言っても、舞水に宿る神に処女として一体化する秘儀です。舞うと言っても、舞

【山、磐座、土の上、雪の上で舞う】

からある地名の霊山で舞うことが多い。)(甘南備、神代、荒神、鬼、雨乞、天柱など、二千年や千年以上前

感• 大、 が観測されましたが、 性障害や身体化障害、 **※** 虚脱感が出始めます。 旋回の仕方があり、 女舞では、 伝承されている一定の重力の用い方、 自己催眠である点でそれらとは違います。 カタプレキシー(情動脱力発作)に似た状態 それらを繰り返すと、 医学的に調べていただいたところ、 最初は巨視感・ 手足の運び 転換 離人

この動きが一番苦手な(何度舞っても変性意識の入口にかからな「神懸り」とか「憑き物」と呼びます。「神懸り」とか「憑き物」と呼びます。かれなどが声や神託だと思える状態になり、そのことを私たちはやがて、完全な自己催眠状態になって、風、木々の揺れ、雷、川

います。このため、岩崎純一氏の述べる「共感覚」と私たち巫女のまでに強く、五感の鋭さや直観能力には乏しいことだけはわかってい)女性を調べたところ、前頭葉のはたらきだけがアンバランスなこの動きが一番苦手な(何度舞っても変性意識の入口にかからな

|神懸り感覚| の一部とが、とても近いものであると見ています。

その他の儀式

磐座での着座による神懸り、禊、滝

時々、鳴釜神事のような地域の公開神事にも参

※

※ 男性がする修験道のような荒行まではしない。

注意点 :

 \bigcirc

こととされています。
ても、私たちの巫女舞、託宣の姿を写真や映像に撮ってはいけない客との遭遇などの偶然を除いてはありませんが、身内の人間であっ楽。非公開神事については、一般の方々がご覧になることは、登山

第四章 巫女の方々への岩崎純一の自己紹介

特設サイト 「神道・仏教研究」二〇一七年七月三十日 擱筆、公開二〇一二年九月十六日 発言、起筆

掲載用改訂版) (●●社家の斎の巫女の方々に二○○九年に送ったメールのネット

岩崎純一 --- 二〇一二年九月十六日

●社家の巫女各位

皆様とのご データとして残すことは、 神 きたいと考えております。 道 最近 巫女文化と日本人の知覚・感覚世界の話をこうしてテキスト は 対話の場) 和 歌ばかり詠んでいまして、しばらくここ(【注】: に登場しておらず、 大変意義深く、私も積極的に参加してい 失礼いたしました。 日 巫 女の 本の

になった経緯を簡単に書いておきます。
巫女文化、とりわけ故郷岡山の古代吉備王国や巫女文化を探るよう新たな巫女の方もいらっしゃいますので、私が日本全国の神道・

まずは、共感覚から説明させていただきます。

能力が自分にあることに気づいており た経験もあります。 ば、「空気の色の味を見たり聞いたり触ったりする」というような感 るとき以降は特に女性) っていることを直接的な理由に、 は幼少の頃から、 時空間を自由自在に見回し、 五感が共同・混交する感覚や、 の身体や自然現象に対する察知能力 聞き回り、 小 • (具体例は後述)、 中学校時代にいじめを受け 触って回るような感覚 人間や動 この感覚を 物 (例 え あ

> それらの大学での共感覚実験やインタビューにも参加・協力してお 感覚」と呼ば 経学系の学者・研究者に提出し、 を知ったため、 ンターネット 上京した二十 私自身が共感覚関連での講義・講演も行っています。 れ、 検索で調べている中で、それが脳神経学分野で主に 自らの共感覚の記録を開始し、母校や他大学の脳神 ·歳前後に 欧米ではかなりの研究実績がある分野であること (当時、 研究の催促を始めました。今では、 東大で哲学を学んでいました) 共

か。 界中にあります。 声」はなぜ「黄色い」のか、「心の汚い人物」の腹はなぜ 現に代表される感覚がそれです。 出てくると思いますが、 の赤色に染まることに由来しているでしょうし、 挙げますと、「赤っ恥」や「黄色い声」や「腹黒い」という共感覚表 共感覚という概念は、 恥が赤いのは、 ーズが多々ありますが、 恥ずかしい思いをすると顔・頬がヘモグロビン 日本人が最もよく共有している簡単な例を ネット上で調べていただければいくらでも 各民族特有の共感覚的 「恥」はなぜ「赤」 他言語にも なことわざも世 なの か、 「黒い」の 類似の 「高い

感覚者というのは、「ドレミのレは黄色に聞こえる」、「三百ヘルツのところが、科学実験の対象となるような、脳神経学上の真正の共

は、 相手が共感覚者であるかどうかを判断する際の鍵であるということ 的 0 味だ」といった一見奇異な報告をします。 かつ具体的な言語表現による報告であることが、 は青緑色 よく言われるところです。 の匂いに見える」、「ひらがなの" な。 私がそうです。 はいじわるな紫色 まず素人の目で 非日常

と呼んでいます。 実 わ っており、 覚野それら自体が後頭葉、 に側頭葉 数の人間の脳と異なった五感の機序を持っており、音波を聴いたと きに後頭葉 験 ゆるペンフィール **、際に、これらの共感覚者の脳活動計測をしてみると、** が成立しないことさえあります。 (聴覚野) 強度共感覚者(ほとんどが発達障害者です) (視覚野) が反応したりしており、 ドの実験 が反応したり、電磁波 側頭葉、 (大脳の機能分化を立証する電気刺激 その他の部位にまで茫漠と広が 私はこれを、 あるいは、 (可視光) 「知覚の遍在」 の場合、 を見たとき 視覚野や聴 般大多

という説も、 あるため、 性に多いことが示されており、 失を恐れてその特殊感覚を研究者に安易に告白しがたい男性社会で 高 そして、 確率で生まれるため、 現代社会が、 共感覚の発現には幼少期の教育・学習環境が影響している 現在のところ、 共感覚者男性が社会の陰に隠れている可能性があるとい よく見られます。 特殊感覚を持つ男性が職業などの社会的地位 遺伝する可能性が指摘されてい 九割以上の実験において、 また、 共感覚者は同一・近縁家系に 共感覚者は女 ます。 ただ の喪

感覚は現状では、 世界保健機関 (WHO) 0 ICD に定義されて

> \mathcal{O} 1 ないことから病理 DSM にも定義されていないことから精神障害・行動障害でもな ・疾病ではなく、 また米国精神医学会

いとされています。

私もこれらの全てを持っています。 列・カレンダーに一 文字に、それらとは別の色が付いて見える」、「音に色が見える」、 世界的に最多の、いわば三大共感覚と言える共感覚は、 定の形状・空間内配置が見える」というもので、 「黒や白

や特殊知覚を有しています。 覧いただくのが 私の共感覚の全貌については、 一番ですが、 私はこのほかに、 私のサイトやブログを網羅的にご 以下のような共感覚

ある。 ●時空間を自由自在に見回し、 これは、 下記の全ての知覚様態において発揮されます。 聞き回り、 触って回るような感覚が

自然災害 (特に、 地震と台風) の前兆を時 Þ 察知できる。

地磁気や電離層の変化などに一致している。 かる」といった表現にならざるを得ないが、実際に調査してみると、 日 本語表現としては、 「空気の匂いの変化を見たり聞 いたりして分

での台風の発生の察知後に衛星画像を見ることで、 てある地 確さを確認できている。 ただし、全てが当たるわけではない。 磁気計や電離層のデータ掲載サイトなどで、 また、 地震については、 台風については、 世界中に設置し 自分の 自分の共感覚 太平洋上 共感覚の

正

0 正確さを確認できている。

するなどの未来予知はできない。この点、極めて大勢の人から勘違 主張する未来予知能力と、私の知覚能力との、決定的な違いである。 いされる。)まり、 現在の日本の霊能者やスピリチュアル・カウンセラーが保持を この点は、アブラハムの一神教の預言者たちの預言能力 年始に「今年は地震や台風がいくつやって来る」と予言

る。 人間 や動 物の生理現象 (とりわけ、 女性の生理現象) を察知でき

ない。 言い当てたと思われる男性・男児がいるが、私はそこまでの能力は ついて彼らが見た共感覚色の変化によって明らかに乳ガンの発症を る。このような感覚を、私自身は「対女性共感覚」と名付けている。 色に変化した、 た経験があり、 ただし、 の判断を行っているため、 これも、 私の知人である自閉症の成人男性や男児の中に、 様々な女性にご協力いただいて私の共感覚で観察してみ といった共感覚情報を得て身体状況 最初の十数日間は青紫色だったが次の数日間は赤紫 共感覚の一種と見ることが可能であ (排卵、 女性に 月経周

た女性 死ぬまで幸せか、 また、よく見られる勘違いとして、「私がいつ結婚できるか、 当てる予知能力は私にはない。 (学生・OL・主婦) あなたの共感覚で私を見て占って下さい」といっ からの依頼が来るが、これについても 私はただ、 女性の身体が発する 私は

化学物質や電磁波の変化を動物的に感知しているのみである。

回答が った。 うな四則演算が色や匂いで解けたり、 面積が、 + ∞ 「見える」「聞こえる」「匂う」ことで解けたりすることがあ のような単純な四則演算よりも、 本来ならば積分で求めるところを、 複数のグラフで囲まれた部分 534072瞬目視しただけで × 3205980)

 \mathcal{O}

O1

論の世界で計算しているということである。 ことは、「繰り上がり」などの概念とは別の数学大系、 の足し算が難しいのに桁数の多い計算が瞬時にできるという 公理系、

なすことができる能力は残っている。 Þ ヴァン症候群の人は、この能力を一生涯持ち続けることで知られる。 んだ頃にはほとんど消失したが、現在もそのような能力の痕跡と見 (この能力は、十代のうちにほぼ消失。一部の重度の自閉症者やサ このような特殊な数学・物理学的能力(自分は「一足飛び計算 「逆算的達観」と称している) に関しては、大学で哲学にいそし

理学、 で達することがある。 頃に「匂って」分かった感覚は現在でも続いているほか、 例えば、無限の自然数・偶数よりも無限の実数が多いことを十歳 超数学、 量子論 素粒子物理学が達した結論に 「一足飛び」 数理論

●これらに関連して、

直観像記憶(映像記憶

不思議の国のアリス症候群(AIWS

絶対音感

超音波知覚

閃輝暗点と呼ばれる視覚的な前兆(アウラ)を伴う片頭痛

(超音波知覚研究:http://iwasakijunichi.net/choonpa/)

など、様々な特殊知覚を有している。

月五日に追記) 十巻や芸術(一)十巻を見よ。:二○一八年七集』の人文科学(二)十巻や芸術(一)十巻を見よ。:二○一八年七(全部は書ききれないため、サイトをご覧下さい。)↓(現在は『全

いう大層なものではない)」ということです。思考を全く逸脱していない(非科学的・疑似科学的な超能力などとこれらは、「私の脳と身体にすでにインプットされている感覚、知識、ご覧いただければお分かりかと思いますが、端的に申しますと、

社会問題として取り上げるためです。が疑問視され、政府機関によるメーカーへの処分も下されており、体に極めて不快に感じられるほか、ネズミ駆除装置については効果ネズミ駆除装置や駐車場の超音波センサーなどの人工超音波が耳や超音波知覚について特設サイトを設けている理由は、超音波式の

ついては、不快には感じられません。私の可聴音域は、平均的な人ただし、私にとって、自然音や動物の鳴き声に含まれる超音波に

100,000Hz=100kHz)であることが分かっています。間のそれ(20Hz~15,000Hz。幼児期には20Hz~20,000Hz、ある間のそれ(20Hz~15,000Hz。幼児期には20Hz~20,000Hz、あることが分別と極めて広いですが(胎児や幼児は皆、聴覚だけでもこえる」という聴覚のみの話で、「超音波が見える」、「超音波が聞こえる」という聴覚のみの話で、「超音波が見える」、「超音波が聞これ道ではった。 知覚可能な超音波の音域は、10Hz~80,000Hz(場合によっては知覚可能な超音波の音域は、10Hz~80,000Hz(場合によっては知覚可能な超音波の音域は、10Hz~80,000Hz(場合によっては知覚可能な超音波の音域は、10Hz~80,000Hz(場合によっては知覚可能な超音波の音域は、10Hz~80,000Hz(場合によっては知覚可能な超音波の音域は、10Hz~80,000Hz(場合によっては知覚可能な超音波の音域は、10Hz~80,000Hz(場合によっては知覚の形式と同じとの形式と同じます。

い性質のものとなっています。 記識について議論する場と言えるかといえば、そこからは極めて遠 記さんどは、昨今言われるところのいわゆる「女子会」やフェミ のほとんどは、昨今言われるところのいわゆる「女子会」やフェミ がはとんどは、昨今言われるところのいわゆる「女子会」やフェミ がはとんどは、昨今言われるところのいわゆる「女子会」やフェミ がはこれら、当時人気だった mixi で共

りません。
りません。
りません。
りません。
りません。
りません。
のまでしており、私個人としては、これらに見るべきところはあり、カーアル・ビジネスと結びついて、虚構の共感覚者を名乗る者もり、オーラ・ビジネス、スピジネス」と言ってよい動きを見せており、オーラ・ビジネス、スピジネス」と言ってよい動きを見せており、オーラ・ビジネス、スピリチュアル・ビジネスと結びついて、定構の共感覚者を名乗る者もりません。

と同じような知覚・認識様態を有する日本人(や外国人)に出会いそのような流れの中で、私個人は何を試みたかと申しますと、私

たいと渇望 くべきスピードで完成させたりします。 わらずルービックキューブを簡単に解い 交流してきたわけです。 やサヴァン症候群の人たちの能力に私との類似点を見 例えば、 Ļ まずは、 発達障害 彼らは、 いわゆる健常者・定型発達者とは呼ば (とりわけ自閉症、 一桁の足し算ができないにもかか たり、 ジグソーパズルを驚 アスペルガー 出 症 候群 れな Ļ

この 反論があったのですが、 を探究するにふさわしいテーマである」旨を書いた際には、 ら見るに、 私が一冊目の著書で「私は科学者ではないが、 知見は欧米では共有されつつあります。 自閉症者には共感覚者が多い」旨の論文がいくつか出て以来、 共感覚と自閉症の発生機序は似ており、 二〇一三年に「共感覚者には自閉症者が多 私の経験と直 人間の原始感覚 相当な 観 カコ

横に置きます。 と言ってもよいのですが、このような愚痴は今は本題ではない 大学・学者の れるべき事実、 私としては、 「閃き」のなさに実に辟易しており、 本能的な見識で、 このような知見は自閉症児の目を見てすぐに達観さ 共感覚や自閉症を研究する日本の 心底困っている ので、

な勢 わけ一 間 ヴァン症候群の そしてさらに、 知 継承している斎の巫女など) 一○○八年から二○一一年にかけて、京都を初めとして、 覚 神 0)通時態 社仏閣、 人間 人々など)と同時に関心を持つに至ったのが、人 (日本古来の自然信仰) 日本庭園、 の知覚の 共時態 社家、 であったわけです。 歌道を訪れる一人旅をして参 (同時代に生きる自閉症 アニミズム的世界観を体 そこで、 大変 とり 者

> Þ, 歌人との交流は、 ´ました。 京都、 東京) 現在私をめぐって形成されている巫女 この頃に始まったものです。 や旧公家・ 華族の子女の方々、 古典 (特に、 和 地 歌 0 元岡 女 山

ŋ

象への関心から始まったわけです。 伝統的家系の子女にばかり偏って読まれているかという不思 にしてみれば、 時期は内掌典のご退職者や尼門跡の関連神社の巫女 私の二冊の著書は、中小規模神社の巫女の間で読まれている の方々にも読まれるなどして、 どうしてこの新書形式での私的体験の報告が日 それは大変光栄なのですが、 (十~三十歳 議 ほ な現 本の 私

代

は、 その一人の子孫が私です。 リピンで戦った、 巫女の社家があったことです。 若年者を教育する立場でしたから、 つどちらも教育者の家系で、 これには、 私の父方の家系は近衛兵、 いくつかの幸運が重なっていると考えてい 戦死率九十五%の陸軍歩兵部隊から数名が帰還し、 むしろ社家の子女・巫女の方々を含む 母方の家系は陸軍将校を輩出 九四六年まで終戦を知らずにフィ 畄 山では私の家をご存知 、ます。 の斎の まず か

(追記:二〇一六年五月二十三日

連隊 巫女の方々にご協力いただいて作成した『大日本帝国陸軍 に掲載しております。 (岡山県) (岡 Щ 研究」 鉄 五. 四四四 (現 在は第三十四巻:二〇一八年七月五日に追記 八部隊 戦史調査資料』 を、 サイト 歩 'n 兵第十

(追記終わり)

はいいではない。 はいかすると、何の根拠もない話ですが、私は生まれながらにして、 で、誰がいつ戦死するとも分からず、従って、私とてこの世に偶然で、 誰がいつ戦死するとも分からず、従って、私とてこの世に偶然で、 進を受けた人間に過ぎません。本土帰還後、戦争の延長で暴力的人生を受けた人間に過ぎません。本土帰還後、戦争の延長で暴力的人 はいすると、何の根拠もない話ですが、私は生まれながらにし、 はいましたが、そうではなくて、人間の不条 で、誰がいつ戦死するとも分からず、従って、私とてこの世に偶然 はいましたが、そうではなく、 当然ながら、これらは天照大神に選ばれし帰還兵などではなく、

が 0 華 古書・漢籍にも親しんでおり、 や日本文化に舵を切り、 て独特の感覚の保持者たる宿命は背負っているのかもしれません。) たことから、 また、 でき、その記録内容に私の感覚世界との類似点を見出すだけの実 族の子女の方々とも和歌を交わして遊ばせていただいた経験もあ 私は大学で西洋哲学に飽きて東洋哲学 社家が数百年に渡って伝承してきた古書を読むこと 結局は東大を中退して以来、 至極光栄なことに、 (神道、 巫女や旧公家・ 和歌を詠 仏教哲学) み、

ったということです。日本的共感覚の良き唱道者のように認識して下さる土壌ができてい日本的共感覚の良き唱道者のように認識して下さる土壌ができていそうしているうちに、恐縮ながらも、これらの巫女の方々が私を

技術が何とかあったことが奏功しました。

(追記:二〇一三年四月二十八日)

家元・団体の総覧』もサイトの「和歌・古典」(現在は第九十二巻巫女の方々にご協力いただいて作成した『旧派歌道・歌学の流派・

二〇一八年七月五日に追記)に載せております。

(追記終わり)

おります。を融合したもので、私の人生それ自体を「日本的実存」と名付けて教哲学(中観・唯識・曹洞禅)とニーチェ哲学・ベルクソン哲学とましたが、私の哲学的価値観は結局、日本的アニミズム・神道と仏ま談ですが、私は一時期は、やや政治的天皇論にも首を突っ込み余談ですが、私は一時期は、やや政治的天皇論にも首を突っ込み

います。 ら巫女にこのような議論を投げかける男性自体が全国的に限られ データを採ったところで、 れを歌人の共感覚や総合感覚の発露だとは読まないわけで、 Ŕ 分け入ることは不可能です。 それはそれとして、 古書・漢籍を読解するだけの技術的・ 和歌・古書を読む習慣のない脳科学者が被験者の巫 例えば、 それ以上の神道的・文学的な奥義の道 和歌に 光 精神的基盤がなけ B 音 \mathcal{O} 語が 最初 女の脳 ればそ あ って 7

っていたものだったのだと思われます。
は、確かに日本の共感覚界では、私の著書が最も巫女世界に寄り添会から隔絶されて生きる斎の巫女の方々が、初めて外界の一般国民会が、隔や月や星や神々を生涯の恋人とする処女として現代日本社このことは、巫女の側からも同じように認識されていたようで、

出する正真正銘の斎の巫女(つまり、一時期限りの女子学生アルバーそのような運命の中、いざ蓋を開けてみると、伝統ある社家が輩

うことができて、唖然としたわけです。イト巫女などは除く)の中には、共感覚を有する女性に容易に出会

東洋的アニミズムの最高遺産です。ブラハムの一神教的二元性(「聖」と「俗」の別)から超然とする、わるような代物ではなく、文化人類学的価値です。西洋哲学的・ア私の中では、巫女の持つ共感覚は、脳科学の対象として扱って終

して下さっている巫女の方々もいます。神道的立場から『古事記』・『日本書紀』と照らし合わせることまで方々の中には、むしろ私の二冊目の内容を男性の原始感覚と見て、方々の中には、むしろ私の二冊目の内容を男性の原始感覚と見て、どの共多くも含む)が私の二冊目の著書の内容に嫌悪感を覚えて、どの共また、一般国民女性の多く(悲しいかな、私の友人・知人女性の

という点で東洋哲学、 ました。 に見解を尋ねながら、 のと考えます。 という私の共感覚については、 「(先ほど申し上げた)"一足飛び計算 ここに来て、 先ほど「知覚の遍在」と書きましたが、 「自然現象を察知できる」、「女性の排卵を察知できる」、 その源流を探るほかないと考えるようになり ひいては日本の巫女神道の精神に直結するも 古代東洋・日本精神を継承する巫女 P. 逆算的達観, これは 神の ができる」 逼在」

本当に亡くなるという、そういう特殊能力を持った人です。来る、「三日後に眼鏡を掛けた女性が家の裏で亡くなる」と言ったらしておらず、母自身が「そろそろ大地震が来る」と言ったら大抵は実は私の母は、これまでの巫女の方々と同様、私の共感覚を嫌悪

変化を体感できていると考えるわけです。

ただし、母は素粒子物理学や地球電磁気学を学んだわけでもなく、ただし、母は素粒子物理学や地球電磁気学を学んだわけでもなく、ただし、母は素粒子物理学や地球電磁気学を学んだわけでもなく、ただし、母は素粒子物理学や地球電磁気学を学んだわけでもなく、ただし、母は素粒子物理学や地球電磁気学を学んだわけでもなく、ただし、母は素粒子物理学や地球電磁気学を学んだわけでもなく、ただし、母は素粒子物理学や地球電磁気学を学んだわけでもなく、

けです。
が行き着く結論が「一足飛び」に見えている究極の科学者であるわが行き着く結論が「一足飛び」に見えている究極の科学者であるわ神道の発祥時の精神の保持者であると同時に、またいずれ現代科学私にしてみれば、このような巫女や母は、科学以前の原始感覚や

持つ私でさえ驚くことが多いです。 きるなどの事態も、 例えば、車で出かける当日の朝に母が い」と必死で主張した場合、 は、 母が予測できる出来事のうち、 現在のところは地震と人間・動物の これまでに何度も発生しており、 通行予定だった場所で夕方に事故が起 ある時点から最も日数が 死ですが 「今日は出かけないほうが (数日後~十日 強 共感覚を 遠 でも 後)、

ですが、母が言うには、そこに差があると感じないらしいのであり、からはオカルト科学であると一蹴されるおそれがある)と感じるの知であるにもかかわらず、私とて後者の事故の予知のほうが科学的知く考えてみれば、前者の地震予知のほうが現在から遠い未来予

が苦手なんだろう」という自虐的な答えが返ってきたため、 笑してしまいました。 差があるという発想もしたことがないから、 自分は物理学や数学 私は苦

ル

ことを、 お分かりいただけるのではないかと自負しています。 にあるのだと思い知らされた良い例です。私が長年、 科学を科学だと勘違いしている」意識領域にまだ没入している状態 自信のある(と自分では思っている) 科学的に正当である可能性があるわけです。 .的な畏怖の対象として拝見し、観察させていただいている意味を、 ともかくこれは、母が述べていることやその予知能力のほうが、 熱狂的・祝祭的にではなく、 私の脳と身体でさえ、 あくまでも冷静に、 共感覚や総合知覚には 巫女の皆様の アニミズ 実は 非

 \mathcal{O}

あります。 私の女性生体察知能力を共感覚として扱う際には、 性障害、 こういった、 身体化障害、 巫女の神懸り・ 憑依障害、 託宣 解離性障害などと診断される) (現代の精神病理学では、 やや難しい点も 転換 Þ

わけです。その中で、「女性の身体の色や音を察知して排卵を当てる」、 \mathcal{O} 覚者には赤色に聞こえ、 は 空気の かという問題です。 個別具体的、 つまり、 一人として同じ共感覚例はない、すなわち「正解」 味や匂いで地震を当てる」といった「正 般的に共感覚体験 千差万別であり、 別の共感覚者には青色に聞こえるといった (音の色、 同じ三百ヘルツの音が、 味の音、 解 色の匂いなど) がなぜ生じる ある共感 が ない

れは極めて簡単なことで、三百ヘルツの音が赤だとい

うの 皆が共感覚者であるというのが、 とりわけ幼少期には、 は、全人間、 後天的・学習的ですが、 などで遊んでいて脳裏に記憶が染みついたからで、 は、 幼少期に三百 全動物が共有している可能性があるということです。 皆そのような知覚未分化の脳を持っており ヘルツの音を聞いた際に偶然にも赤色 そのような五感の混交を生み出 主流の学説です。 その点 す脳の機序 …のみは の ボ

と考えてしまうのが私の性です。 のか、現在でも女性に普遍的な動物的能力である可能性はないのか ているとは言え、巫女的共感覚が本当に後者だけの専権事項である 斎の巫女のほうがいくら私が思う通りの共感覚を有して現代を生き 女子学生がいくら共感覚に乏しくて、 ただし、「巫女的なるもの」に憧れてアルバイト巫女を勤めただけ 古来の社家が輩出している

うな共感覚がうまく記述できれば、 「日本」や 聖母マリア的 「日本人」としての民族的自覚におい 神教的母性愛への 私は本望です。 憧れとは全く異なりますが て普遍的であるよ

Ŕ あるのだから、 して探究しないわけにはいかない衝動に駆られます。男神といえど 共感覚も、 や女性の排卵の察知、 1 などの古書それ自体もまた、 と考えます。 同様に、 つまりは古代日 史書が記録したような男性や男神の普遍的動物的能力と 前述のような、 斎の巫女の社家に残る八百万の神々の伝承や『記紀』 本人が実在の男性をモデルに生み出 各種の超数学的 ある種の神懸りの状態で自然現象の察 科学論文と同様に扱わなければならな 処理などができてしまう私の した存在で

何卒よろしくお願い申し上げます。意識の変容が起きているかについては、目下私の最大の関心事です。介とします。巫女の皆様の舞や神降ろしの最中にどのような知覚と簡単にと申し上げながら長くなりましたが、これにて私の自己紹

第五章 家系の遺伝子と巫女の神託能力・共感覚との関係

特設サイト 「神道・仏教研究」
二〇一七年七月三十日 擱筆、公開
二〇一二年九月十七日 取材、発言、起筆

吉備の斎の巫女 --- 二〇一二年九月十七日

にも伝わったのではないかと思います。岩崎様、自己紹介をありがとうございます。他の新しい巫女たち

お話をさせていただければと思います。
ネットに文章を掲載できる巫女は限られますが、なるべく色々な

に影響されるかどうかですが、私もこの点に同様に関心を抱いていに影響されるかどうかですが、私もこの点に同様に関心を抱いてい人間は、自分が持つ知覚能力が、自分が生まれた家系や生育環境

よくアルバイト巫女さんたちの面倒を見ますが、平時は普通の女

す。どうかが、その女性の醸している表情と身体を見てすぐにわかりまます。巫女舞と神降ろしを伝授しようとして身につく女性であるかし、わからないだろうということが、こちらから見てすぐにわかりういうことかを説明しても、ほとんどの場合は、まずわかりません子大生や女子高生である彼女たちに、神憑りして神託することがど

女と言ってよいと思っています。私たちと神道上の知識が異なるだけで、私の見方ではすでに斎の巫私たちと神道上の知識が異なるだけで、私の見方ではすでに斎の巫らから見てわかる女性も、稀にいらっしゃいます。そういう女性は、ただし、中には、この女性は斎の巫女の性質だということがこちただし、中には、この女性は斎の巫女の性質だということがこち

に聞こえる」といった共感覚表現を発することがあります。成長過程で、私と同じように、「声の色が紫に匂う」、「神託の味が赤十四歳頃には社家の儀式を担う巫女になっていきます。彼女たちも私の妹や従姉妹たちは2~5歳くらいには神託能力を示し、十三・

す。

な家に生まれたことが影響しているということは考えられまいても、その神懸り体質や知覚能力には、最初からその素養があっいても、その神懸り体質や知覚能力には、最初からその素養があっただ、それには、先祖代々の遺伝子から生育環境までが大いに影

力、岩崎様の様々な共感覚や学問についての知識を拝見しましても、お母様をはじめとする女系の方々の事実上の託宣能力、災害予報能岩崎様のご先祖における、教育者からの近衛兵や陸軍将校の輩出、

神 座 • 築遺跡、 やは ディカルで鋭敏な五感になっているのだと感じています。 幼 皇統のものよりも古かったり、そこから逸脱していたりしますから、 と思いますが れませんが)、吉備岡山の古墳 それから、 頃から視覚的に目にするものがそうである以上、 り岩崎様も家系の遺伝子を継がれたところはあるかと思います。 磐座、 熊山遺跡など)、 神社や遺跡の形式などは、 ここからは私の実感で、 (もしかしたら岩崎様はそういう体感をお持ちかもし 社家に残る神器 (造山古墳、作山古墳など) や遺跡 (楯 神道の外の方にはわからない 総じて大和奈良のもの、 (神剣、 神鏡、 五感もよりラ 神典など)、 現

能 力は、 岩崎様がお持ちの、 私の家系の男衆ですと、修験者の一部がお持ちであること 自然現象の察知能力や女性の月の周期の察知

えたり、 子になります。

を確認しています。

つくりつくり姫 ŀ 二〇一二年九月十八日

V 性 V のが現状です。 るのかが気になって生きては来ましたが、 神懸り実験などできるはずもない以上、うかつなことも言えな 巫 女家系の 神懸り能力が 一般女性 0 いずれにしても一般女 神懸り能力を上回って

ところです。 託を授かりそうな女性を探して抜擢する勇気は、 ただそれでも、 それに、 般参拝者の女性の中から巫女的素養があってご 処女懐胎神話などとの関係から、 私には生じない 処女以外が

> さわれ 確信できる ないものがあり、 (体で神道感覚を覚えてもらえそうな) 中学生以下の女 抜擢するとしても、 確実にこちらにそれ

外の言葉を得ることができて、 いると知ったのは岩崎様の著書やサイトからですので、 いった例になりますが、 私の共感覚は、 磐座から音の帯が出ていてそれをとらえて託宣したり、と 神託の言葉に色が付いたり匂いが付いたりして見 そのような知覚を巷で「共感覚」と呼んで ありたがく思います。 逆に神道の

神代の巫女 ; 二〇一二年九月十七日

あります。 神道の知識の面と巫女能力の出現率の面では、 気」をしている、 も差が大きいとは思いますが、 私も、 神懸り、 神託能力には家系が影響しているとは思いますし、 斎の巫女である、とわかる女性には出会うことが 時々、 この女性は私たちと同じ「空 一般の女性とはとて

ます。 リスト教) る、などと理解しているかというと、まずそうではないでしょうし、 ごく普通に神社参拝 ただ、そのような女性は、 などの年中行事をして生活していらっしゃるのだと思い (神道)、 それが巫女気質である、 お墓参り (仏教)、 クリスマス会 神道精神であ

余談なのですが、 巫女は、 男女雇用機会均等法の適用からは例外 仏教哲学

(特に中観、

唯識、

曹洞禅)

٢,

ニーチェ哲学的な絶対神

個

人は

月

を標榜していて、

日本の神道・アニミズムと、

いのですが、私も中学・高校生のとき、困りました。いのですが、私も中学・高校生のとき、困りました。問題ではないたいと思っていても、長時間・深夜労働にならないように、親族労働基準法は適用されるので、妹や従妹の巫女舞などは、本人が舞的に外されているので、女性限定での使用が許されているのですが、

ると考えています。内だけで教えていても、継承が難しいケースが今後はもっと出てく内だけで教えていても、継承が難しいケースが今後はもっと出てく

岩崎純一 --- 二〇一二年九月十八日

私の家系自体は、曹洞宗の家ですから、仏教色が濃いですが、私ところからは、さすがに私には、にわかには実感が難しいです。ご自身の社家に遺る神剣などを見てラディカルな五感を体得する

ちなみに、すでにご存知かと思いますが、近衛兵・陸軍将校時代りは曹洞禅に傾いているあたりは、家系の影響かと思います。とのハイブリッド哲学を目指しています。細かく見れば、臨済禅よの顛倒による汎神論・神の遍在(これが東大時代の研究内容です)

に

近

婿入りで、

祖父・曾祖父の苗字が全て異なり、

母系を辿ると

我が家系のどこを見ても「岩崎」

の苗字は出てきません。

妻問婚

うまくいきます。ご参照下さい。

皆様のような巫女の方々の共感覚の例を知ることができるのは、

ろから、家系の優劣の問題を超えて、古代からある動物的感覚の性調べても、女性のほうがかなり高く出るので、私はそういったとこそもそも、共感覚の保持率(性差)については、基本的には誰が大変ありがたいことです。

前の(もっと言えば、受が確認できるとなると、 可能性があると考えます。 発達障害の男児にはかなりの確率で見つかります。修験者にもそれ 察知能力は、 紹介のところで書いた、 サイト・ブログでもいくらでも書いてきたのですが、 受精卵 修験道・山岳信仰が、 自然現象の察知能力や女性 時代の) 根源的記憶を呼び戻して 男性 の脳の機能分化 0 Á 0 周 期

はレトリックだと映るのかもしれません。

力の保持者である」とする私の見方は、

まだ早計にすぎ、

般

節に

潜在的に共感覚や託宣能

差などを観察したいのですが、「女性は皆、

など) てると言うよりは、 どたどしい擬音語で叫ぶのみですが、 に乳ガンを言い当てていると思われる子がいました。 私が出会った自閉症の男児の中には、 から出る化学物質の変化を探知していると考えられます。 その女性を指差しながら「わーわー」などのた 女性の体表 着衣の女性を見て、 (皮膚、 言葉で言い 明ら П 当 腔 カコ

規定している、あるいは、マックス・ウェーバーやマルクスの言うころかと、心中お察しいたします。巫女舞・神託は、日本国憲法が巫女文化と現行法とが折り合わないのは、どうにも致し方ないと

…1。 治国家、立憲君主制国家ですので、何ともしがたいところかと思い「労働」でさえないとは思いますが、日本とて今は現代西洋型の法

吉備の斎の巫女 -- 二〇一二年九月十九日

精神が落ち着いたり多動が緩和されたりするようです。ます。逆に、発達障害者が山登りやアニマルセラピーに参加すると、が呼び戻されるという見方は、巫女の神懸りにも適用できると思い修験道の修行によって男性の発達障害(発達する前の認知世界)

はないので、その点だけは、異なるプロセスと理解しています。周期が察知できるようになっても、言語活動や知能が減退することただし、岩崎様もそうですが、修験者は、自然現象や女性の月の

神代の巫女 --- 二〇一二年九月二十一日

能力者だと自分では思っています。的に優れた女性というよりは、女性の潜在能力のストッパーを外す的に優れた女性というよりは、女性の潜在能力のストッパーを外す私も同じような考えですが、自分のことを、そういう感覚に家系

はなく「古来、女性は巫女であった」と思っておりますが、皇統安かの折口信夫と同様、私も、「女性には、巫女の女性もいる」ので

ります。 定以前 に浮かべるには、 時代のものであると感じます。 としての私) へと拡大するのですが、 の神託文化を継承する私 から見ますと、 吉備の古墳の空気を浴びないと見えないことがあ 小さい頃から学んでいる神懸りの光景を頭 例えば、 前方後円墳は、 (特に、 大和の前方後円墳からして新 神が降りている最中の女神 吉備で発祥して大和

土地から受け継いだ固定観念だと思います。いというような体験はあります。これは明らかに、家系や生まれたこのように、余計なものを目にして邪念が入ると、神託を得にく

す。今ではスマホもします。
ったりしても共感覚や託宣能力を失うことはないかと思っておりまっていますので、ここまで来ましたら、私が都会に出たり電車に乗ポットにはなりますし、斎女としての身体は小さい頃からずっと持ですが。ただし、それも私たちが本気になれば、どこでもパワースこういう古墳や神社などを、最近ではパワースポットと呼ぶそう

私の神託の力を伸ばしてくれたと思います。め、私をおかしく思う親族はほとんどいませんでした。そのことも、母や祖母から学んだ神々の名前をアレンジしたものだったりしたたたが(周囲には独り言に聞こえる)、母や祖母も同じような経験をし私は幼い頃に、イナジナリーフレンドを創造して会話していまし

つくりつくり姫 į 二〇一二年九月二十二日

なければ、 のでしょうね。 間 の感覚能力にとって、 絶対に巫女になれないことも確かです。 ただ、いくら身内でも、巫女としての修行が何も 家柄の影響がまったくないとは言えな

話です。 思議です。 から地方の一 そういえば、 巫女舞テストや神懸りテストをすると言っても、 般女性の抜擢をしているのは、どういう評価基準か不 内掌典については、 私たちの家系よりも比較的 難しい 古く

性 の主語を 的 は」とする以外に勇気が出ません。 に正しい可能性もあるとは思うのですが、 私としては、 「巫女体質に生まれた女性は」や 岩崎様の 「女性は皆、 潜在的に~」 「巫女の家に生まれた女 今のところ、「女性は」 の部分は、 根本

吉備 0 斎の巫女 二〇一二年九月二十三日

載中。 性 両道だけでなく、 府 書きになっているように 0 ある家系かどうか、 大本営が地方の男子の中から指名するときは、 衛兵の関連ですが、 岩崎による追記:二〇一六年五月二十三日)、 今は笑い話ですが、神懸り的勝利を誘発する可能 昭和天皇に霊験・ 岩崎様が岡山の (【注】: 現在はこの調査資料をサイトに掲 歩兵部隊の調査ノートでお 神験をもたらすことので 近衛兵を帝国政 心身屈強、 文武

> 雲地方以上の優遇措置がとられる形で、 きる血統かどうかも見られていて、 吉備地方へは、 名家の男子が近衛兵に採ら 大和、 筑 紫、 出

れています。

たらす家系と見られた、ということでしょう。 うな白羽の矢が立ったと思います。 託を巫女禁断令 理に合っていて利用しやすい人物や家系です。 言葉がありますが、 神頼みだったのが帝国政府のようですし、岩崎様のお家もそのよ ただし、吉備津彦命のように、 (明治 6 年) 岩崎様のお家はその逆で、 で禁止したのに、 あくまでも天皇・ いわゆる「憑きもの筋」という 私たちの巫女舞・ 戦争では苦しいとき 天皇に良い神験をも 朝廷 侧 がら \mathcal{O} 神 論

 \mathcal{O}

府は、 頭脳と身体を持つとされる男子を率先して登用したのは確かです。 衆も比較的よく共有しているので、 この 共感覚とは関係のない話になりましたが、 近衛兵のような天皇の親衛隊には、 あたりの歴史は、 私たちだけでなく、うちの一 小さい頃から聞かされ 神懸った家系の神懸った 要するに、 族の 当時の政 神 てきまし 職 男

関係性にもよります。 れたり、 私たち吉備の社家は、 極端な扱われ方だったようですが、これは現在の皇族との 国から全く手を出されなか ったり、 優遇さ

巫女禁断令を出すなどして、 \mathcal{O} は、 ものが邪教とされるようになり、 そもそも、 政 府が GHQの神道指令に屈した戦後にまで及びました。 国学の発展で私たち巫女の舞・神懸り それらが禁止され、 明治に入った時点で、 政府側からの圧力 憑依 新政府が 託宣そ

ち社家どうしの交流で一緒に訪れたくらいで、 ありませんが、 没落の影響もあり、 影響はほとんど出ていません。 やる池田厚子様との御縁はございません。 るのです。 の影響と、 として巫 私たちの家は、 池田動物園など皇室に関係の深い場所についても、 現在の皇統と各地の巫女神道の仲介役だった伯家神道の 女舞や託宣を続けていましたので、 神道上の交流の機会さえも失って) 表看板は国家神道に寄り添うふりをして、 完全に現在の皇統と縁を切って ただ、そういう政府の歪んだ神道観 神宮祭主でいらっし 巫女神道の根 今日を迎えてい (血縁は 奥で秘 元から 一幹には 私た

ようになっていました。幕府の寺院諸法度による後ろ盾を得て、伯家神道の上位に君臨するら、神道に多分に仏教・儒教・道教を取り入れた吉田神道は、江戸すが)、天皇が天照大神と一体になる儀式自体が形骸化したあたりかすが)をいる。

系の巫女神道でさえ、それに近い状況と思います。は、皇統とは無関係に存続するようになりました。おそらく、皇別が倒れてからは、吉備・播磨の神別系の巫女神道のような原始神道皇統・摂家・公家も、次々と門跡に出家して仏教色を帯び、幕府

~崎純一 --- 二○一二年九月二十四日

結局、この惨敗ぶりですし、戦争に勝てばよいというようなもの

奥義を理解していたとは思えませんけれども。ことだと思います。神道指令も、それはそれでまた、日本の神道のではないとは思いますが、大本営の目、神道観は誤っていたという

皇存在の原理としてそうだと考えます。 本国と日本国民統合の象徴とされる政治的天皇の問題ではなく、天帝国憲法において統治権を総攬する元首とされ、現憲法において日大正天皇以降の天皇を「天皇」と称しがたいと思います。これは、で終わった時点で、政府からは用なしとされたも同然でしょうし、何家神道としては、天皇と天照大神が一体化する神事が明治天皇

ばと思います。存在するのをご存知かと思いますが、それはまた後日にお話できれなり強硬に主張している吉備ゆかりの斎の巫女(「姫」姓)の家系がよの正と(大正天皇以降の天皇の神道上の正当性への疑念)をかこのこと(大正天皇以降の天皇の神道上の正当性への疑念)をか

陛 引く私にとってはありがたいことですが、 るのも、 系など、 ない天皇が総攬する日本国に神懸り的勝利を誘発する吉備の武 系の巫女神道や伯家神道の側からは、「もはや天照大神の神託を受け は いずれにせよ、 下をお守り申し上げたのに、 という思いも私にはあります。 致し方ないかもしれません。 あるはずがないではないか」という反発的なとらえ方にな 近衛 兵の 出 身家系の問題につい 政府と軍部の神道観がこんなことで むろんそれは、 せっかくご先祖様が天皇 、ては、 近衛兵の血 備 0 人家 别

第六章 神懸り体験の正体、「合気」としての共感覚

特設サイト 「神道・仏教研究」
二〇一七年七月三十日 擱筆、公開
二〇一二年九月二十五日 取材、発言、起筆

吉備の斎の巫女 --- 二〇一二年九月二十五日

思います。 養のある一般女性がいたら、 や神器の 私は思っていますが、これも、 因し 的知識の - 懸り: ない内的暗示、 知識をもとに神懸かりしているので、 体 ほうだけが不足しているにすぎないということになると 験 の正体は、 つまり、 斎の 脳と体の潜在能力のほうではなく、 私が生まれた家の神社に祀られる神々 巫 巫女が巫女自身に懸ける自己催 女の身体外の主体からの働き もし本当に斎女の素 こかけに 眠と 神

から託宣できないわけではないと考えます。ないから託宣できないのであり、斎の巫女の身体性が全て失われたですから、斎女の素養のある一般女性は、神道的知識に生きてい

災害、飢饉、疫病などが発生したとき、あの神ならどうするだろうでその神社で祀られることになったという点では共通しています。人物であったり、いろいろですが、生前の何らかの業績を称える形神社の神々は、元から神様であったり、没後に神として祀られた

思います。
せであれば、私たち斎の巫女から遠いところにいるわけではないとく考えることが、斎の巫女の神懸り・神託の原点だと思います。か、もしもあの人物がご存命だったならどう対応しただろうかと強か、もしもあの人物がご存命だったならどう対応しただろうかと強

管理しておられます。 磨方面に居を構えて、 書きになっていました。 族がいらっしゃいまして、 王の名と日本の国姓の姫を女系継承する皇祖母神のお家とされる一 化を伝承していると思われますが、 確かに、 県内 たいゆ 多氏・息長氏・渡来系秦氏関連の神社を統括 世代は私たちとほぼ同じです。 この一族が日本の巫女神道最古の母系文 かり のある別の社家として、 そのお一人が下記のブログをお 現在は、 日 \mathcal{O} 巫 女

やいます。
ヤとしてプリセットされたイデアを「生得真理」と呼んでいらっしリアリティなどがご専門で、女性、というより人間にプロトカルチ」の方は、巫女以外には、バイオ関係、生命情報学、バーチャル・

で、 巫女舞や神託を禁止して、 \mathcal{O} っそう秘儀・ この ように、 明治政府が神道国教化、 ような方が巫女神道の継承者として育てられるのは稀ですが。 この 耀姫様の 耀姫様もヨー 巫女がヨー 秘伝化し始めた頃、 族 (斎皇家) ロッパの血が入っているクォーターです。 ロッパのカバラの家系に嫁いだりしましたの 私たち巫女の儀式が危機にさらされ、 国家神道の は、 日本がヨーロッパにつけ込まれな 長い歴史の中で分派と再統合を 構築 不の過程 巫女禁断令で V

方を考える指標として真剣に読ませていただいています。である私としては、家系が違えど、とても面白く、巫女神道のありまでが本当か、色々な意見があるようです。ただし、同じ斎の巫女あるようですし、耀姫様の神道観に対しても、どこまでが嘘でどこ繰り返しているようで、各家・各古老の方々ごとに伝承にもずれが

http://d.hatena.ne.jp/mayumi_charron/(耀姫の日記

像)」(耀姫の日記)「巴紋と託宣の儀式から紐解く古代日本史。(卑弥呼と天照大神の実

http://d.hatena.ne.jp/mayumi_charron/20100218/1266474872

心身一体になることです。に祀られている人物たちに近付いてに祀られている神々や神々として祀られている人物たちに近付いてここにもありますように、私たちの神懸り体験というのは、神社

いると思います。
明は、私たちの斎の巫女の神懸りの実感をとてもうまく表現されてと言うわけではありません。) このとき、神の霊といった、オカルてと言うわけではありません。) このとき、神の霊といった、オカルーのでき、神憑りの技法を採用しているのです。(もちろん、これが全になる、神憑りの技法を採用しているのです。(もちろん、これが全になる、神憑りの技法を採用しているのです。)

故や災害への素早い対応のために温存しているわけです。事故のと人間の脳は、脳自体や全身の筋肉にリミッターをかけていて、事

す。前世の記憶もオカルト科学も使っていません。して神託を得る能力の伝承こそが、私たち社家のやっていることで生モードのおかげです。そのリミッターを意図的に外して、先回りきにスローモーションに見えるのも、温存した能力によるスロー再

にかかったふりをしても、見たらすぐにウソと分かります。やアルバイト巫女さんたちがウソの神懸り体験を演じたり、催眠術虚偽の霊能力などが入る余地はないですから、心理カウンセラー

考えます。 外れた状態だからで、彼らにとってはそちらのほうが普通なのだとソーパズルやルービックキューブを解けるのは、そのリミッターが自閉症・サヴァン症候群の方々が、尋常ではないスピードでジグ

かけて、 で、 的暗示、 と思われます。 から、オカルトになるのです。 ますが、ほとんどの男性は前頭葉によるリミッターをかけているの 排卵中や生理中はもちろん体表から出る電磁気や化学物質が変化し て使えたりする岩崎様の共感覚も、 それを、まだ外的要因(女性側からの「合気」)がないと解釈する 自然現象や女性の身体現象の察知に使えたり、 遠方から犬のように女性の排卵を察知することはありません。 岩崎様のような共感覚が男性にとって根本的に不要になった 自己催眠能力と同じことと思います。もともと、 狩猟や農耕から会社への出勤とサラリーの獲得に変わった もちろん、男性の仕事が、 そういった方々や、 超数学的能力とし 私たちの内 女性は、 数千年を

ここで私の言う「合気」とは、「合気道」の「合気」と同じと思っ

して女性を制する」能力は「覡(おかんなぎ)」では要求される能力男性の能力をあえて「合気」などとは申しませんが、「女性に触れずの同じ「合気」によるものと私は解したいです。うちの家系では、無心・無力で制する柔術ではありますが、岩崎様の知覚能力は、こていただいてよいです。合気道は、小柄な人が屈強な人をほとんど

術 ものをめぐる問題も、 気柔術と植芝盛平の柔らかな合気道を、 ませんが、 の精神をすでに身につけていらっしゃるように感じますので、 ともかく、 では光輪洞合気道が盛んで、 合気道でもなさるとよいかもしれません。 岩崎様のいわば「共感覚道」には、 岩崎様は和歌でもそれがお出来になりますし、 いろいろとあるにはあるのですが 岩崎様の地域もややそうかもしれ 私は感じます。 武田惣角の大東流合 私たちの周り 合気道その 「合気」 (総社 古武

と見たいところです。在能力の一つと見るべきかは、私の神道の立場としては、潜在能力在能力の一つと見るべきかは、私の神道の立場としては、潜在能力排卵や地震の察知が岩崎様の個人的・私的能力なのか、男性の潜

物はそれなりに特定できるようにはなります。 私たちの脳活動も、大学で専門家の方に調べていただくと、私た を吹く風の道が見えたり、もうすぐ亡くなることになる人や動 ただし、磐座に身体を置いたまま空間移動する感覚がありますし、 ただし、磐座に身体を置いたまま空間移動する感覚がありますし、 でも、 が「神懸り」と呼んでいる心身状態に入り込んでいるときには転 をが「神懸り」と呼んでいる心身状態に入り込んでいるときには転 をが「神懸り」と呼んでいる心身状態に入り込んでいるときには転 をないるいのが観測されます。でも、 ないことになる人や動

> 神懸り・憑き物体験の鋭敏化に一 いけない場所があります。 触っていいものといけないもの、 う。また、「おまけさん=生理」の最中は、 た追い追いお話しいたします。 ンシップなど以外で) それに重要なのが、 触れたことがないことも関係しているでしょ 私が少なくとも男性に このことは、 入ったり通ったりしていい場 役買っているのですが、 少なくとも私の場合、 衣食住のすべてにおいて、 (父親や兄弟とのスキ それはま 私の がと

神代の巫女 -- 二〇一二年九月二十六日

共感覚と「合気」の関連性は興味深いです。

が比較的容易になるからです。利用すると、神懸り(つまり、脳の記憶抽出や転換症状、自己催眠)これは雷や活断層の電磁気を利用したもので、これを私たち巫女も私の用いている神剣は、電磁気を帯びさせることをよくしますが、

がために、時に応じて利用しているということです。 に体感されるので、神懸り体験が脳と体の電磁波動だと知っているの「気」の感じが、雷などの自然現象で受ける電磁波動と同じようすために自然の電磁気を借りてきているというよりは、もとから自すただ、これは、自分たちの巫女としての力が弱まったのをごまかただ、これは、自分たちの巫女としての力が弱まったのをごまか

人間の伝承されてきた精神文化を離れて、神の世界、天上界、霊

けるとありがたいです。切って、巫女神道の秘儀によって見える光景とは別と思っていただ切って、巫女神道の秘儀によって見える光景とは別と思っていただをよくお読みになると思いますが、高天原や葦原中国は創作と割りしているわけではないということです。ですから、岩崎様も『記紀』界などの別世界が存在したり、霊がそれらの天界と人間界を行き来

る巫女舞の一例と言えます。 先ほどの「耀姫の日記」の以下の記事が、私たちが普段行ってい

「神社に祭られている神々の実用性。」(耀姫の日記)

http://d.hatena.ne.jp/mayumi_charron/20101009

とで、岩崎様は起こせる能力を身につけていると思われます。 重要なのは、そういう合気や電磁波動を自ら起こせるかというこ

岩崎純一 --- 二〇一二年九月二十七日

うことに、日々挑戦しながらも、悩んでおりますので、ご助言は大ではなく日本の神道精神の普遍原理として語ることができるかといどうもありがとうございます。自分の共感覚を単に我が事として

体にかけられているリミッターを外す能力であるとするならば、な私のような共感覚が、巫女の皆様の神懸り体験と同じく、脳と身

変助かります。

とを解明したいです。私は、その「リミッターを外す」ことを「箍争・有事でない時)においてそれを外すことができるのかというこぜ平時(地震、雷などの自然災害や動物の脅威などの緊急時や、戦

(たが)を外す」と呼んできました。

も、そのように考えることができます。 佐年かけて蓄積されたものであると考えると述べておられる点からがと思われます。耀姫様ご自身が、生得真理とは生命誕生から数十のと思われます。耀姫様ご自身が、生得真理とは生命誕生から数十年を受けるかもしれませんが)、唯識思想の「阿頼耶識」そのもお叱りを受けるかもしれませんが)、唯識思想の「阿頼耶識」そのもお叱りを受けるかもしれませんが)、唯識思想の「阿頼耶識」そのもお叱りを受けるかもしれませんが)、唯識思想の「阿頼耶識」そのもお叱りを受けるかも、そのように考えることができます。

の感覚にも沿っているものだと思います。とが合致するので、神懸りがいわば「自分懸り」であるとする皆様的に生まれ持った智恵と、自らが自らの阿頼耶識に溜め込んだ智恵的に生まれ持った智恵と、自らが自らの阿頼耶識に溜め込んだ智恵の感覚にも沿っているものだと思います。

声」である体験のことだと考えます。神懸り、神降ろしはまさにそれで、「外なる神の声」が「内なる神のでいて、人間は本来それを引き出せると言われるのですが、巫女の通説では、人間の阿頼耶識もアメーバ時代からの記憶を溜め込ん

きているのではないかと私が思える巫女であるということだと、私方々は、皆この阿頼耶識の存在と内容とを意識にのぼせることがで少なくとも私が個人的に評価している皆様のような斎の巫女の

自身は考えています。

あり、 どから、 今まで通り、 は無用だろうという考えで、 精神障害者や発達障害者の方々との交流、 疑念を覚える(安っぽい、ちゃちな宗教観だと感じてしまう) に大本)との関係については、私としては不満を覚えるところが多々 私に合気道を勧めて下さいましたが、合気道と教派神道系教団 植芝盛平の大本入信などを追っていても、 「合気」さえ体得できていれば、いかなる武道も宗教も私に 巫女の皆様との交流や、 現在のところは生きています。 真面目に生きていらっしゃる 自分自身の共感覚体験な 根本的なところで 私は、 特

吉備の斎の巫女 --- 二〇一二年九月二十九日

な光や声であることを自ら失念する統合失調症にまでは、 病的なリミッター外しとも異なっていますから、 目にかけたとしても、 れるおそれがありますし、 も恐れ入ります。 箍が外れる現象」 巫女の神懸りについては、 私たちは、 様がお持ちの深い そのようなご回答だろうとは感じていました。 いくら神降ろしの儀式をやっても、 よりは「箍を自分で外す能力」と言えます。 耐えられない方々が多いですが、 人間観· 私の神懸りの姿を一般の氏子の方々のお 一歩家を出ましたら、 宗教観や武道 への姿勢には、 注意が必要です。 精神病理と扱わ それが擬似的 制御不能の まず陥る 従

岩崎純一 --- 二〇一二年十月一日

憑依、 計上も、 換性障害、 現存する日本の巫 神託、 これらの全てが女性に多発するものとなっていると思い 身体表現性障害、 神通力などの体験は、 女、 沖縄 解離性障害に分類されていますが、 0 ユ タ、 精神病理学上では憑依障害、 東北のイタコなどの 神懸り、 統 ま

言われています。)れることが多いようです。また、解離性よりは転換性がほとんどと(統合失調症や気分障害は、診断基準に当てはまらないため、外さ

す。

の現代医学者らにとって最も不可解な文化のようです。(WHO)が ICD を策定するときに、いつも揉め事の種となっており、西洋(WHO)が ICD を策定するときや、アメリカ精神医学会(APA)東アジア・東南アジア圏のシャーマニズム文化は、世界保健機関

かなか難しいところです。
女性研究者やフェミニズム団体から猛反発を受けた考え方です。な女性研究者やフェミニズム団体から猛反発を受けた考え方です。なである」とするのが私の解釈ですが、これこそが私が一般の共感覚解釈を転回させて、「女性は本来的に憑依障害的、転換性障害的動物のですから、「女性の中に憑依障害、転換性障害の者がいる」というの学げた各障害は、一般女性においても一般男性よりも多発する

このほか、文化依存症候群や民族依存症候群と呼ばれるものがあ

ことはありません。

道のような口寄せにさえ認められるものと思います。あると解釈できると私は考えております。この傾向は、卑弥呼の鬼見ても非常に平穏なアニミズム的境地を体現した文化依存症候群でなどが知られますが、日本の巫女の転換的神懸り体験は、世界的にり、日本の対人恐怖症、朝鮮民族の火病、インドネシアのアモック

 \mathcal{O} する一家の子女にも巫女の素養がある女性がおり、 \mathcal{O} 代の神道の神託を現在も体験していると思われるのが、 巫女神道を探っておりますが、 住の現在は、 ンスだともとらえております。 内掌典と社家の斎の巫女ばかりである一方で、 私は、 有無が旧社格と無関係になってきている現状を、 自 分の共感覚の 別表神社から中小規模神社まで、色々な規模の ルーツを探る心が高じすぎまして、 別表神社においてさえ、 小規模神社を管理 皮肉だともチャ 巫女の神託体験 母系継 ほんの一部 東 神 承時 社の 京在

がうまく行われていかない可能性がある)と感じます。てもたらされるとだけ考えていたら、甘すぎる(社家内の神道継承ることだと考えておりますが、それが「神社の社格、家柄」によっ私は「斎の巫女の品格」は、神懸り体験自体を背負って強く生き

宣を行う巫女がよく現存していると感じます。吉備津神社、吉備津彦神社などは別にして、自己催眠術としての託模すぎて人の目(現代的世俗の風潮)に触れている岡山縣護國神社、吉備地域でも、その傾向はありそうなものの、やや特殊で、大規

るのですが、それはまた後日に書きます。先ほど述べた新宗教関連しかし、吉備地域については、私はこの地域に特有の心配事があ

のことです。

つくりつくり姫 -- 二〇一二年十月三日

験を引き出すという意味がわからないと、 でいらっしゃるがゆえに、 ますけれど。 親族でさえ忌避する人もいるとは思います。 かトリッキーに聞こえそうです。 いらっしゃいますね。 はとても正しい表現だと思うと同時に、 岩崎 様の「女性は本来的に憑依 岩崎様は、 阿頼耶識に最初から存在する転換性の神託体 本当に「一足飛び」に神道の本質に至る方 難解な言葉 (障害的、 (いわば神託) 相当直観的すぎて、 転 岩崎様のお言葉はなかな 換性障害的動物である」 わかる人ももちろんい の持ち主でも うちの

岩崎純一 --- 二〇一二年十月六日

確かにそうかもしれません。

的 \mathcal{O} 離性障害とを、 と見なされるほかないもの) 巫女は、 巫 なのでしょうか 一女の自覚的 例えば内的自己救済者のようなアニムスについても自覚 ある程度明確な形で鑑別可能だとすると、 な神懸り (西洋精神医学では憑依障害、 と ほぼ全ての統合失調症や多くの解 転換性障 - 懸り中

覚はありますか。をしていて、それをあとは自己催眠によって呼び出すだけという感をしていて、それをあとは自己催眠によって呼び出すだけという感または、神懸りしていないときにすでにアニムスに自覚的な生活

やアニムスに当たるものへの知的な言及は乏しいです。)
たないか、人格の存在に気づいていても統合し得ず、内的自己救済
同一性障害者の女性は、目下陥っている人格以外の人格の知識を持
意識状態への没入の瞬間を目撃してきましたが、ほとんどの解離性
(私は、多くの解離性障害の女性にもお会いして、人格変貌や変性

真の自己を、取って付けたように区別する作業もしたことがないでとしての顔と、インナー・セルフ・ヘルパーとしての内なる自己・

すし。

うですが。 ただ、学者をされているような巫女の方々は、やや違う認識のよ

は違うといいますか、セルフをヘルプすると解釈するのでしょうね。で、このあたりの解釈が、西洋の精神病理学では神道や和歌の心とに成りきって詠むというようなときも、渾然一体であることが大切和歌を詠むとき、例えば男神を降ろして詠む、防人(さきもり)

神代の巫女 --- 二〇一二年十月八日

統合失調症や解離性障害との違いと思われます。木の間から、どのように舞台袖を通って降ろしたかに自覚的なのが、活ですし、舞のときも、どの神をどのように、どの磐座から、どの一般の女性とは違って、深層心理、集合的無意識の奥底を掘った生どちらにも当てはまるという感じです。平時の生活自体が、まず

せん。

吉備の斎の巫女 --- 二〇一二年十月十三日

そこが、精神病理学や西洋魔術と、日本の神道の違いかもし

り的な「女神・女心降ろし」だと思うのですが。く内的自己救済行動ではなくて、岩崎様が巫に成りきっての、神懸七割は女性に仮託してお詠みかとお見受けします。これも、おそら岩崎様がお詠みになる和歌も、三割くらいが岩崎様・男性の歌で、

つくりつくり姫 -- 二〇一二年十月十一日

る男性的側面」などと私は感じているわけでもないです。ペルソナそのアニムスも、わざわざユングのような「女性の無意識におけ

岩崎純一 --- 二〇一二年十月十五1

れ

観念からさえも超然として詠んでいます。ついても、おっしゃる通りです。ユング的な「意識」・「無意識」のそう言われてみますと、かなり整理できてきました。私の和歌に

性性を強く保つという点に、極めて強く惹かれます。本質が、「アニマ」・「アニムス」の区別さえ超克しながらも、かつ女生まれるということが、よく分かってきました。日本の巫女神道の巫女の神託も、「内的自己」と「外的自己」の区別の消失によって

極致の近くまで達観できる方法だと考えています。は感じていますが、和歌の修練も、その巫女神道のアニミズム性のる(男性は思惟によってその極致に達しようとするほかない)と私この体得そのものは、男性には最後の最後で原理的に不可能であ

子脳理論のご研究もそのようです。の内掌典の皆様や尼門跡の皆様もそうでした。先ほどの耀姫様の量に詳しく、非常に面白い傾向だと思っています。以前関わった数名私の知る斎の巫女の皆様は、かなりの割合で最新の物理学や数学

白い光景だと思っています。な言説を唱える西洋の物理学者や数学者も出てきて、それは相当面な言説を唱える西洋の物理学者や数学者も出てきて、それは相当面を追っていますが、神典・仏典でも読んだかと思うような禅問答的かくいう私も、最新の素粒子物理学、地球電磁気学、超数学など

るかというと、それは怪しいと考えていますが。の視点がアニミズムの境、少なくとも汎神論的な世界観に入ってい道教や陰陽道、陽明学に手を出している学者はいます。しかし、そ直観論理にしても、多値論理・ファジィ論理にしても、けっこう

完七章 神懸りと物理学上の電磁波動の関係について

二〇一七年七月三十日 擱筆、公開二〇一二年十月十七日 取材、発言、起筆

特設サイト 「神道・仏教研究

岩崎純一 --- 二〇一二年十月十七日

吉備の斎の巫女 --- 二〇一二年十月十九日

今の量子脳理論などは、巫女の神懸り体験と相当整合性がありま

すから、自然な流れだと思います。

な知覚世界に行きますから、脳のミクロの電磁気的な情報処理過程粒子(光子・電子などの素粒子)を観る、聞く、匂う」というよう 巫女の神懸り体験でも、全記憶の超高速検索をやっていたり、「素ログでお書きになっていた自閉症者の先見性と同じようなことです。 岩崎様が、自己紹介のところでお書きになった超高速計算や、ブ

への関心が生じるのは必然だと思います。

質の微妙な変化をとらえていらっしゃるものと思います。 てたり、 てくる行為ではありませんから、 鋭敏化であり、 れたりしている神々や過去の賢者の智恵を借りる自己催眠、 岩崎様のお母様が、 私たち斎の巫女の 地震を察知したりなさるのも、 どこかにある霊界・天上界の神々を自らの体に持つ 神懸り 数日前からご近所の方々や動物の死を言 体験は、 整合性があるのは確実なのです。 社家に伝承されたり神社に祀ら なんらかの電磁波や化学物 知 に い 当 覚の

跳ね返す能力があるからです。

「は同じ電磁気的な体質(男覡の体質)をお持ちで、私たちに対して精神感化されたためしがないのも、岩崎様の脳や身体が私たちとほれでしょうし、岩崎様がほとんど私たち巫女の神懸りや身体現象に出崎様の、地震・台風や女性の身体現象を察知できる共感覚もそ

中に、そういう男性がいらっしゃいます。 さるタイプということです。私たちの家では、修験道に励む男衆のできるタイプということです。稲じますと、ご自身は呪いや祟りに引ったかいらず、それらを人にかけると本当にかかってしまうタイプ、人かからず、それらを人にかけると本当にかかってしまうタイプ、人を本当に呪ってそれに対応する禍(まが)を引き起こすことさえでを本当に呪ってそれに対応する禍(まが)を引き起こすことさえでいるが、そういう男性がいらっしゃいます。

て生きてきました。というよりも、生まれてこの方、ずっと気づいており、強く意識しというよりも、生まれてこの方、ずっと気づいており、強く意識し、私自身がそのような体質の人間であることは、薄々分かっている、

私の能力も、自分ではオスザルの能力、チンパンジーのオスの能外の動物のメスのそれらに近いのではないかと考えています。かでみたり、「全知覚・総合知覚の発露」と呼んでみたりするわけで「知覚の鋭敏化」について、私の場合は、そのまま「共感覚」と呼

ます。いません。その点だけは、私とて深い畏怖のようなものを持ってい力だと述べているのですが、斎の巫女の皆様の神懸り体験にはかな力だと述べているのですが、斎の巫女の皆様の神懸り体験にはかな

と言ったほうが適切かと思います。 光速という概念が思い浮かぶわけで、 ロメートル」と言われますが、 (あるいは、 回しですけれども。 超高速や「素粒子を観る、 人間の顕在意識) における名称を秒速 30 万 km と言う」 聞 あれは < 匂う」という言葉からは、 ほとんどの物理学者は前者の言 よく「光速度は秒速三十万キ 「【質量ゼロの速度】の 人間界 (超

っているだけでなく、「止観によって自分の時間も止まる」と言って分の思考・観察・直観を一度は止めてみることだ」ということを言で、いずれにしても、単なる「停止」や「観察」の意味ではなく、「自あります。これは、「止」と「観」という瞑想の二側面を言った言葉あります。これは天台宗でよく言われますが、「止観」という言葉が

いる仏僧がいます。

ん。 体 相 それらの構造体自 同 るわけで、 いるエネルギーがない、 が って観測される仏僧の神経伝達物質やニューロン発火それ自体は、 者 ゼロ、 対性理論と量子力学の適用を当然受けますから、 (自分の脳を観測する仏僧自身や、仏僧を観測する科学者) 一である」との究極の悟りが生じることになるわけですが、 いかなる思い出の想起や、 (無限大の高速度、 間 が止まるということは、 つまり、 そこで「無心・ それと等価のエネルギーがゼロ 体の質量や抵抗の存在によって光速になり得ませ 無限大の「走馬灯)) にはなり得ません。 つまり、 無思考 アイデア、発想・構想、 光速自体になることですから、 思考してしない)ということにな (瞑想) は全思考・超高速思考に (思考に使用して 電磁波動それ自 ひらめきも、 によ 質量 観測

おらず、 生じさせていると考えれば、 考は神経伝達物質や脳電位の順列組み合わせのみによっては生じて る」など) ここで、 は ・一神教的まなざしで観測しなければ、そして、 本当はそのような 多くの神仏と人間との を信じられるかどうかという話ですが、 それら仏僧たちの言うこと(「自分の時間が止まって見え 場」 信じられるわけです。 であると考えます 狭間にある 「合気 (場)」それ自 電磁場というも 人間の思惟・思 仏僧の脳を西洋 体が

神代の巫女 --- 二〇一二年十月二十三日

測される者」に分裂すると、 えられるのでしょう。 神懸り体験は、 女舞でも、 係であると同時に、 面 白い解釈だと思います。 どちらかがどちらかの上に立って「観測する者」と ミクロ 「私が神に入る」 世界では電磁波動の最も良い共鳴としてとら 神と巫女の関係も、 それは神託の失敗です。最も心地よい 関係でなければなりません。 「神が私に入る」 巫 関

ただけませんが。か巫女舞が終わった直後の私が近づくと壊れることが多いのは、か巫女舞が終わった直後の私が近づくと壊れることが多いのは、ただ、スマホやコピー機などの電子機器類に、巫女舞に入る直

い前

岩崎純一 --- 二〇一二年十月二十五日

教的神託の成功」と認識されています。 だと考えます。 うより、 者」の分裂、 神代の巫女様がおっしゃっている、 私の哲学史観) 神託の失敗というものは、 もちろん、 から申しますと、 ユダヤ人の脳によっては、 「観測する者」と 私の専門である哲学 ユダヤ教の発祥そのもの それは 「観測される とい

まりは あって、 ミズムに近い よく、 日 私から見ると考えられない宗教の見識です 日本神道とユダヤ教との同一視や近縁性の主張をする、 ユ 0 同 祖論 は ユ を唱える日本人がいますが、 ダヤ教発祥以前のオリエント 日本神道のアニ の多神教文化で つ

相対性理論は言うまでもなく、ニュートン力学・古典物理学を超

までも一神教信仰の賜物であると述べる物理学者が多いです。観の超克と汎神論的世界観への回帰という意識はないらしく、あく徒)が発見しておりますが、それとて彼ら自身には、一神教的世界克する多くの近現代の新物理理論は、ユダヤ系物理学者(ユダヤ教

響しています。 響しています。 言われて思い出しましたが、私も電子機器類に近づくと、よく停 言われて思い出しましたが、私も電子機器類に近づくと、よく停 言われて思い出しましたが、私も電子機器類に近づくと、よく停

つくりつくり姫 --- 二〇一二年十月二十五日

リモコンになれるという言い方でもよいかと思っています。剣・神鏡なども、計ってみると異様な電磁気を帯びています。体が巫女舞や神託をしているときの私たちの体も、私たちの社家の神

吉備の斎の巫女 --- 二〇一二年十月二十六日

る名称を秒速三十万キロメートルと言う」というのは、一見物理学【質量ゼロの速度】の人間界(あるいは、人間の顕在意識)におけ

知識として持っている巫女もいます。のあたりの感覚なら、うちの巫女たちは皆共有している気がします。者に対する嫌がらせのようで、かなり正しい表現だと思います。こ

も考えられます。「天然のスーパーカミオカンデ」、「波動や粒子を受け止める器」と用を生じないのでわかりませんが、私たち斎の巫女の体も、いわばニュートリノも、質量はあるものの、強い相互作用と電磁相互作

感を覚えます。

「話はやや変わりますが、以前、岩崎様が二冊目のご著書をめぐる話したや変わりますが、以前、岩崎様が二冊目のご著書をお読みにが、岩崎様がになったり先生のご著書をお読みにになったのを変わりますが、以前、岩崎様が二冊目のご著書をめぐる話はやや変わりますが、以前、岩崎様が二冊目のご著書をめぐる

思います。このあたりにつきましても、またお話させていただければとます。このあたりにつきましても、またお話させていただければとイジ化・ヒーリング宗教化への違和感とほとんど同じものだと思いこれは、以前岩崎様とのお話で出た、黒住教や金光教のニューエ

岩崎純一 --- 二〇一二年十月二十九日

に跳ね返ってきて悪いことが起きる」という解釈が主流ですが、こ「因果応報」という言葉も、「人に悪いことをすれば、そのうち自分

は分からないと思います。因よりも先に起きることがある」ことが体得できていないと、これる」が正しいわけです。「原因、即、結果」であるとか、「結果が原の解釈にはかなりニュートン力学的な浅薄さが漂っていると私は思

いうようなことは、すでに観測されています。とちらよりも「自分の手が実際に動いた時刻」が早い時刻だったと手を動かそうと思ったと自覚した時刻」よりも前で、かつそれらの実験により、「自分の手を運動させる脳電位の発生時刻」が「自分が大間の自由意志についても、ベンジャミン・リベットなどの検証

的・東洋的身体というものに、深い感銘を受けます。 私から見れば、こういったことを体得なさっている皆様の日本

第八章 巫女が詠む和歌の呪力・魔力について

特設サイト 「神道・仏教研究」二〇一七年七月三十日 擱筆、公開二〇一二年十一月二日 取材、発言、起筆

つくりつくり姫 --- 二〇一二年十一月二日

原理だと私は考えています。 岩崎様と同じく和歌を見ててんかん型脳波が発生するのと同じつ音波が実際に脳波や身体に影響を与えることで生じるもので、例ことができるものでした。これは、ある一定の音の数や並び方を持ことができるものでした。これは、ある一定の音の数や並び方を持いがのも本来は聞き手・受け取り手(恋の和歌の受け取り手や、というのも本来は聞き手・受け取り手(恋の和歌の受け取り手や、というのも本来は聞き手・受け取り手(恋の和歌の受け取り手や、

とのできるものでした。が男に詠んで浴びせて心身の失立状態にしてから追い返すようなこ詠んで自分が妻にしたい女性を暗示で縛ったり、反対に女性・巫女『万葉集』より以前の歌垣の世界、妻問婚・女系時代の頃は、男が

言葉と同じ作用を生み出すことができます。もあるのですが、私たちの場合は、巫女舞の旋回パターンで和歌のく、原点からずれてしまいスピリチュアリズム化してしまった流派誤解を恐れずに言えば、合気道の「遠当て」と呼ばれるものに近

かもしれないと思います。れますので、鬼道・呪術そのものという扱いで色々な型があったのいますので、鬼道・呪術そのものという扱いで色々な型があったのいますが一般的だった頃は、短歌以外にも長歌や祝詞の原型が見ら

力ともやや違って、魔術的リアリズムのような感じがあり、やはりが、私の体感では、岩崎様の共感覚的な催眠術能力は、万葉的な呪催眠効果と同じような催眠が私たちのほうにかかることがあります岩崎様の和歌によっても時々、私たちの巫女舞や和歌が生み出す

岩崎様 が影響して かしたらこれに近いと思います。 の根 いる気がしてい 底にある、 現代の短歌結社文化や神道 、ます。 岩崎 様の 「対女性共感覚」 仏教への 反発心 Ŕ ŧ

二〇一二年十一月五

歌 0 真 髄 と 私 \mathcal{O} 和 歌の特徴をよく突いていらっしゃる気がし

共感覚を、 経あたりではあります。 ていることもあり、 して詠むことができたのは、 もありまして、 単なる私の修辞 私は二十代半ばからは、 歌人たちが天皇にあまりおべっかを使わずに存分に発揮 しかも、 技巧上 最も好きな歌人は藤原定家、 和歌史上において、 \mathcal{O} 和 『新古今集』の時代とその前後だと考え やや京都趣味に寄りすぎているところ 歌観、 趣味嗜好だけを取って見るなら 私が持っているような 藤原家隆、 九条良

れ ŧ カュ 心を種としてよろづの言の葉とぞなれりける 表現も多く、 をもやはらげ猛きもののふの心をもなぐさむるは歌なり」 ずして天地を動かし目に見えぬ鬼神をもあはれと思はせ男女のな 方で、 ぱら呪術や金縛り術として使われた時代から、 の仮名序のものですし、 この頃の勅撰集は、 そもそも和歌の真髄を標榜した名言、 和歌は万葉・古今集のずっと以前 芸術至上主義的、 (中略) 象徴主義的 「やまと歌は人の 共感覚文学の姿 力をも入 は 記な誇張 冒古

> を呈していたの は確 かでしょう。

に

いては、 りますが、とりわけ巫女の詠む神懸りとしての和歌の共感覚性に る歌道は、 京都で栄えますから、 もっとも、 勅撰集とは別に探究してきたところです。 勅撰集の陰に隠れていますけれども。 和 歌は吉備地方の隆盛の 吉備生まれの身としましては、 間 隙 の時期に最もきらびや 巫女神道におけ 皮肉では

詠むと、 ないかとも思います。 などは、巫女的美意識 「風が更ける」、「月を片敷く」という直覚体験なしにこういう歌を 定家の「さむしろや待つ夜の秋の風更けて月を片敷く宇治の 普通はこういった露骨な共感覚表現に耐えられない (または、その観察者) の絶唱歌でしょうが ので 橋 姫

ギ系の歌壇を見てみますと、 葉の世界こそ素朴な自然主義だ、 和歌分析をすると、 そういう短歌観です。 定家はその感覚が分かっていた人ですが、それが分からないまま 新古今集はきらびやかな修辞技巧ば プロからアマチュアまで、 とこうなるわけです。 かりで、 アララ 万

いうの に万葉集などの和歌に呪われたり取り憑かれたりしたことがないと、 る力を持つものですが、 託や呪いの言葉が抜け始めたのが『古今集』だと思います。 族らの天皇へのおべっかが入ることで、 私から見ると、それはむしろ逆で、 ば かりは分からないと思うのです。 Ŕ 本当は人心や動物の気や風や雷を起こしたり 皆様のように神託に襲われたり、 貴族政治の息が 万葉歌に込められていた神 カコ 制 かったり貴 私のよう したりす 枕詞と

つくりつくり姫 --- 二〇一二年十一月九日

す。 神 いるのは確かです。 ますが、それぞれの同時代の勅撰歌よりは、 を天皇や家臣にアピールする文化ではないですから、 ますし、 は吉備・ 々の言葉が私の口をついて出たり私の手で書かせる自覚はありま 女の 元から勅撰集のように共感覚的な修辞技巧などの文学能力 和歌は、 播磨などの私たちのような社家に秘伝として継承されてい 斎王歌壇以来、 修辞技巧ではなくて、 伊勢をとっくに離れており、 託宣でも詠みますから、 万葉的な魔性を帯びて 陰に隠れてい

では、でかいると思いば、なのではにいていただければ、ある程度の確率でかかると思いま践してみればわかりますが、我が家に伝わる韻律と巫女舞で唱えも目立つので、金縛りや神託はかかりにくい気はしますね。ただ、も目立つので、金縛りや神託はかかりにくい気はしますね。ただ、でような歌では、共感覚表現が美しいと同時に、ややわざとらしさのような歌では、共感覚表現が美しいと同時に、ややわざとらしさが、

巫女禁断令のときも、巫女の歌詠みは軽視されました。 に、巫女の和歌も神降ろしも邪教扱いとなったのです。これは、岩質淵による国学以降は、賀茂社家自ら中世歌道から国学へ乗り換え照大神の託宣儀式のほうが早くから形骸化していたのですが、賀茂照大神の託宣儀式のほうが早くから形骸化していたのですが、賀茂照大神の託宣による歌詠みが保たれていて、肝心の天皇への天瞬時に詠む、歌垣時代の託宣が長らく行われていたと思いますし、

吉備の斎の巫女 -- 二〇一二年十一月十三日

神懸りの儀式による歌詠みは、全国的に見ても吉備地方にはよく

残っているようです。

を詐称する卜占業なども多いと思われます。かり守っているシャーマンも多くいると思いますが、一方で、神託なりいると言われていますが、実態はよく分りません。伝統をしっ言葉のフレーズを託宣するシャーマンである巫堂(ムーダン)がか朝鮮半島では、口寄せ系や、郷歌(ヒャンガ)のなごりのような

第九章 宮中祭祀と巫女神道との距離感

伊勢の斎宮歌壇と賀茂の斎院歌壇では、神降ろししながら和歌を

神代の一

巫女

į

二〇一二年十一月十二日

二〇一二年十一月十七日 取材、発言、起

特設サイト 「神道・仏教研究」二〇一七年七月三十日 擱筆、公開

神代の巫女 --- 二〇一二年十一月十七日

性もあります。と同じ十~二十代の子女たちも多いですが、私たち地方の社家よりと同じ十~二十代の子女たちも多いですが、私たち地方の社家よりかり減っています。この方の頃から、実際に内掌典の脳や身体たりから減っています。この方の頃から、実際に内掌典の脳や身体には転換性、身体化に該当する知覚融合体験は起きなくなった可能と同じ十~二十代の子女たちも多いですが、私たち地方の社家よりとものは、身体化に該当する知覚融合体験は起きなくなった可能では転換性、身体化に該当する知覚融合体験は起きなくなった可能では転換性、身体化に該当する知覚融合体験は起きなくなった可能では転換性、身体化に該当する知覚融合体験は起きなくなった可能では転換性もあります。

つくりつくり姫 --- 二〇一二年十一月十八日

表的存在となってしまいました。葵祭自体は廃れるべきではないで強く、「神懸る身体=巫女神道」の性質をまったく持たない巫女の代すが、神道関係・社家の巫女ではなく、実業家の令嬢である傾向が賀茂の斎王代などは、京都ゆかりの家柄から推薦で選ばれていま

すが。

吉備の斎の巫女 -- 二〇一二年十一月二十一日

思います。ここに巫女神道を見ることは難しいです。も、斎王代の話題性(見た目)と祭祀の型(見た目)に心があると葵祭は、直接のご関係者の意識は別にしても、自治体や地域住民

世ん。

で表された最後の斎の巫女集団の一つであることに変わりはありま
「職員ではなく、賢所を守るための天皇の私的使用人ですから、内
「職員ではなく、賢所を守るための天皇の私的使用人ですから、内
「職員ではなく、賢所を守るための天皇の私的使用人ですから、内
「職員ではなく、賢所を守るための天皇の私的使用人ですから、内
「大されるなどというのは珍しく、今でも多くが皇室・旧華族関係の
「本された最後の斎の巫女集団の一つであることに変わりはありま
「本されるなどというのは珍しく、今でも多くが皇室・旧華族関係の
「本されるなどというのは珍しく、今でも多くが皇室・旧華族関係の
「本されるなどというのは珍しく、今でも多くが皇室・旧華族関係の
「本されるなどというのは珍しく、今でも多くが皇室・旧華族関係の
「本されるなどというのは珍しく、今でも多くが皇室・旧華族関係の
「本されるなどというのは珍しく、今でも多くが皇室・旧華族関係の
「本されるなどというのは珍しく、今でも多くが皇室・旧華族関係の
「本されるなどというのはありま

は、もうほとんど見かけないです。のまま生涯神に仕えるお頭の女性を絶対に残します。そのような家のまま生涯神に仕えるお頭の女性を絶対に残します。そのような家私たちの家系では、処女懐胎神話を守る意味もありますが、処女

岩崎純一 -- 二〇一二年十一月二十三日

にするだけで興ざめしてしまう気質ですが、それはそれとして、高私もそこは同じような考えで、「巫女の法的解釈」という話題を耳

気になるものの、あのテレビ番組は大変参考になりました。谷朝子様については、確かに神道というより、別の思想的な偏向が

は気が晴れるものです。 私的使用人としての掌典職も、 二元性」、つまりは、 治国家・立憲君主制国家である現在の「日本国」を、 観点から見るので、 申し上げながら、 「神体としての日本」と「政体としての これらのうち、 気になる掌典職の法的解釈ですが、 後者の議論と考えれば、 宮内庁職員も、 皇室の 私は 神道精神上 西洋型法 「国体の 内廷の 日 本

ない が、多くの内掌典の方々も、 や吉備の社家の斎女が、 びた今となっては、 私も、 かと考えます。 巫 女神道の本流は、 その血筋を引く、 巫女神道の本流であるべきだとは思います 斎 王 その精神は受け継いでおられるのでは (斎宮、 あるいは精神を継承する播磨 斎院) にあり、 それが滅

神代の巫女 --- 二〇一二年十一月二十五

された巫女かもしれません。ある意味では、宮中三殿の巫女の皆様は、数奇な運命に最もさら

もちろん、宮内庁からは独立してはいても、それは無理な話ですが、ての日本から離れた神道を温存することも考えうるかもしれません。が個人の思いとして神道の心に寄り添われるなら、国体・政体とし現在の政治の動向・方針などを見ていますと、もし内掌典の方々

す。神道感覚それ自体の伝承以外に斎の巫女の仕事はないと考えていま神道感覚それ自体の伝承以外に斎の巫女の仕事はないと考えていまな行動は、本来は巫女の役割ではないと考えますし、神懸り感覚、私としては、日本教育再生機構に関わっていった高谷朝子様のよう

た点で頼もしいという意味以上でも以下でもないのです。女的・神道的身体を持たない女性として生きる道を自主的に選ばれます。それは、皇統の伝統をお守りになっていないのではなく、巫ます。それは、皇統の伝統をお守りになっていないのではなく、巫ます。それは、皇統の伝統をお守りになっていないのではなく、巫ます。それは、皇統の伝統をお守りになっていないのではなく、巫ます。それは、皇統の伝統をお守に入事は、近域を規制を持たないのです。

ないからです。の巫女であっても、現代の内親王・女王や内掌典はそうではあり得体化できるよう、神託によって心から支えることなので、斎王は斎華化する斎の巫女の本来の仕事は、天皇と天照大神とが一

考えます。岩崎様の夢をくじくようで、とても申し訳ないのですが。神道の神懸り体験や共感覚体験を女性全体に普及するのは不可能との政治や教育、神社神道の巫女文化を見ていますと、私たちの巫女神道と日本の歴史をほとんど理解していないと思えるここ数十年

吉備の斎の巫女 --- 二〇一二年十一月二十六日

いつも岩崎様のお考えを拝見していますと、日本の女子教養教育

す。

す。

な国民を神社や祭祀でお迎えするというのがつとめだと考えていま秘儀・伝統を守りながら、さまざまな価値観・宗教観でいらっしゃもそこまでは考えたことはないです。とりあえずは、自らの社家のとしての巫女性・巫女道のような道筋を感じるのですが、私として

ただ、斎王や内掌典についてのお考えは、私にとても近いので、議論の中でのみ、慰めに語ることにしていますので。どちらも国民に対して多くを隠している立場である以上、こういう皇室神道と私たち巫女神道との乖離のことは、気にはなりますが、

岩崎純一 --- 二〇一二年十一月二十八日

勝手ながら安心しています。

私の内心をよく突いておられると思います。日本の女子教養教育としての巫女性・巫女道というのは、まさにご立派な姿勢だと感服いたします。

第十章 岡山の神道系新宗教の隆盛

二〇一七年七月三十日 擱筆、公開二〇一二年十二月五日 取材、発言、起築

特設サイト 「神道・仏教研究」

岩崎純一 --- 二〇一二年十二月五日

お話しさせていただきましたが。 また後日書きますと述べていたことが以下です。以前にも何度か

方向に舵を切る人が絶えないことです。いわゆる神道霊学、秘教神道に舵を切ったり、金光教、黒住教、ほの由緒ある神社神道系の社家の中に、巫女に限らず宮司や禰宜にも、私が目下、吉備の神道について不安視しているのは、今でも岡山

と感じます。

ジ人間化・ヒーリング宗教者化とでも呼びたい傾向も出てきている
教化に言及していますが、神社神道本流の宮司や禰宜のニューエイ
教化は言及していますが、神社神道本流の宮司や禰宜のニューエイジ

神託して見ていただくまでもなく(?)、歴史がそのこと の土と空気 しく、県内社家の巫女の間でも話題になると伺っていますが、 新宗教、ニューエイジ系集団の勃興率の異様な高さは全国的にも珍 宗教が発生しやすい土地であること)を示しているので、 ご存知の通り、 (風土) 前者の四 がそうなっているかどうかを、 |宗教は岡山 発祥であり、 それこそ皆様に この ほ (岡山は新 悩ましい か岡 岡山 Щ 0

もおります。団の信者である同級生はたくさんいました。当然、東大に進んだ人団の信者である同級生はたくさんいました。当然、東大に進んだ人私は、私立の中高一貫校卒ですが、一家・一族丸ごとこれらの教

も悪くもこの話題から除かれる性質のものと考えますが。るのでしょうか。ただし、神道大教や神宮教、出雲大社教は、良く近代の神道改革を乗り切ることのできた岡山の巫女神道の社家はあ国家神道と同じくらい、教派神道・神道系新教団とも関わらずに

□備の斎の巫女 --- 二○一二年十二月七日

り切ったものと私は見ています。の一族は、金光教や黒住教、神習教などの影響を受けずに近代を乗の一族は、金光教や黒住教、神習教などの影響を受けずに近代を乗での神懸りを経ないとわからないことかもしれませんね。ただ、私なぜ岡山における新宗教の発祥が多いのかは、それこそ死ぬ覚悟

字丸ごと信者であるところもあります。 しかし、現在でも周囲はこれらの信者だらけです。金光教は、大

私たちの言う神道とは前者を伝承する精神のことを言うので。す。仮に前者の神話だけが創作で、後者の体験が事実だとしても、祖個人の霊体験とはまったく異なる性質のものであると考えていまる神話)の想像力・創造力に富んだ虚構性や脚色は、江戸末期の教遡って申しますと、日本神話(『記紀』や私たちの社家に伝承され

光教については、

今では信者も外部の県民も、

これを神道と認

もそれを助けたのだということは言うまでもありません。です。ただし、当時は金光教も神道と言えたからこそ、白川伯王家金光教も禊教も、皮肉にも白川伯王家の後ろ盾で急成長した新宗教金光教も禊む、皮肉にも白川伯王家の後ろ盾で急成長した新宗教・一次の系譜のほんぶしんなどは、自他共に認めるとおり、まったく神識することが最も難しい教派神道系の団体だと思います。天理教や

以降は、 あるかと思います。 団を町民・村民レベルで継続的に信仰しがちな土地柄ということは などの国策に対する反骨精神の残存もあって、そのような教祖・ 祖・神職や詐称教団を生み出しやすく、 逆せよ」との天命を自分個人が受けたという神託体験を捏造する教 岡山という土地は、 造性を証明してしまう) る文物なども、『記紀』の記述の反証となる(つまり、 ただ、吉備地方の遺跡群や、 発掘・研究禁止も指示されました。 「新教団を立ち上げて、 ものが含まれますし、 私たちの社家に秘伝・埋蔵され また、 (事実上) 既成神道に反 このようなことか 明治以降の国家神道 国学・近代化の時代 『記紀』の 7 教 捏 い

(斎の巫女)との関係が完全にとだえるという結果になりました。ため、皇室神道(内掌典、斎皇女)と私たちのような原始巫女神道ていませんが、間接的に受けています。以前も触れましたが、新政ちなみに、私の社家は、国家神道の影響も直接的にはあまり受け

岩崎純 二〇一二年十二月 九 日

仏教 して挙げられますので。 ましたが、 村民側もそれらを信仰しがちな土地柄という視点は初めて聞き (特に浄土真宗) 体験を捏造する教祖 合点がいきました。 へ の 弾圧と神道・儒教の優遇などが、 神職や詐称教団を生み出しやすく、 普通は、 池田光政の神仏分離政策 原因と 町

道 のだと思います。 義戦争に使える国家道徳に神道を作り替える、 いでしょうか。 斎 示 0 った政治的混乱の影響が大きかったのでしょうね。 事務局祭神論争、 巫女たちの神託を、 女神道 本来は、 巫女の神験の影響自体を神道から排除して、 への間接的な影響としては、 それで結局、 大和朝廷への古代吉備王国の貢献度や、 そして国家神道・教派神道制度への方針転 国家神道側が恐れたというのが真相ではな 巫女神道には神道の場からご退場いた 大教宣布・ という方針になった 近代化や帝国主 神道国教化、 発掘禁止 吉備に残る 一の指 換と 神

いは見られます。 府や戦後の政府への反抗の仕方)や教派神道連合会との距離感の もちろん、 岡山 県に限らず、 教派神道の教団ごとの 方針 明 治新

た ンティストや世界連邦主義者には、 た大本の しかし、 学関係者の方々との交流のある私から申し上げますと、 信 例えば、 者が相当数含まれます。 人工言語 (岩崎式言語体系) これ 戦後に教派神道連合会に加盟し は、 出 口王仁三郎がエスペ を制作していて言 エ スペラ

> 道を残すことは可能である。 府だけを統一言語や統 えばよい」と主張しています。 に翻訳することができるため、 ランティストだったことに起因していますが、 「日本語や日本国を廃止して、 一国家・政府として残したとしても、 日本神道の概念は完璧にエスペラント 祝詞をあげるのもエスペラントを使 エスペラントや世界連 これらの 方々 邦 国 日 富家・政 0 本神 部

は、

すが、 これらは、 を今でも唱える神道天行居です。 社が、神道霊学に基づくユダヤ陰謀論(ユダヤ人に対する霊的国 さえ不満・不足を感じてこれを脱退した友清歓真が創設した宗教結 このような主張をする大本の信者は、 未来にも実現不可能な内容です。 一見するとニューエイジ的・近未来的な発想ではありま 岡山県にも今なお多いです。 そして、この大本の教義に

ます。 いても、 に合気道を勧めて下さいましたが、 も宗教も私には無用だろうという考えで、 共感覚体験などから、 いらっしゃる精神障害者や発達障害者の方々との交流、 しまう私は、 そういえば、 これらは、 根本的なところで安っぽい印象や、 今まで通り、 私の言語観や神道観とは全く相容れないものです。 神懸り体験や共感覚の議論のところでも、 「合気」さえ体得できていれば、 巫女の皆様との交流や、 植芝盛平の大本入信などを見て 現在のところは生きてい ちゃちな感覚を覚えて 真面目に生きて ١ ر かなる武道 自分自身の 皆様が私

真っ当であるとする人もいれば、 以前話に出た日の巫女のご一 族の耀姫様の神道史観につい それが史実をどこまで反映してい

です。すぎないのではないか、と疑う人もいるなど、賛否両論があるようるのか、現在の(旧)教派神道系の教団並みのニューエイジ思想に

とする説があります。 唱えられています。 に近いのは確実であるからで、 矛神を信仰する一 語学においても、 私は様々な言語 族が、 記学閥の 東アジアの扶余や高句麗で飢饉に苦しんだ、 なぜならば、 動向を追っていますが、 九州に渡り、 日本語とこれらを合わせて扶余語族 日本語自体が、 吉備に辿り着いたという説は 扶余語や高句麗語 面白いことに、 天日 言

誕生することになります。 誕生することになります。 ではとんどが耀姫様のご一族の神事)で使われる、変則日本語に 事(ほとんどが耀姫様のご一族の神事)で使われる、変則日本語に 事(ほとんどが耀姫様のご一族の神事)で使われる、変則日本語に またし、正統の言語学ではほとんどタブーです。一部の社家の神

語 耀 は 日 も極論過ぎると疑っておりますが、しかし例えば、耀姫様の言語観 本語クレオールタミル語説」 学的 姫様 これとは反対に、 成されるか、 本語観において「大野の法則」などがどう受け止められているか、 分析と耀姫様がお唱えになっている生得真理との理論的統合 のご一族の といった点に関心を持っています 「高天原言葉」 日本語は南方起源だとする説に、 などがあります。 やお手元にある神典 私は、 典などの これに 大野晋の の通時言 について 日

ず

れにせよ私は、

「日本語は、

世界的に極めて古い、

多言語

 \mathcal{O}

ハイブリッド文明」というのが真相だと考えます。イブリッド言語」であり、「日本文明は、南北の様々な超古代文明の

その深みと重みには耐えられないと思います。ニューエイジ化した教派神道の教導者陣による神道教育程度では

に見られる神道観は色々と危ないと感じる今日この頃です。ダヤ陰謀論と日ユ同祖論の両方が展開されたりと、一部の岡山県民ともかく、神道かどうかよく分からない新宗教が興されたり、ユ

つくりつくり姫 -- 二〇一二年十二月十日

嵐、 らえていますよ。 11 \mathcal{O} 降は関わりはありません。 合は血のつながりもあるとされますが、 共通点があると感じたことはありません。 ようですし、 私も岩崎様と同じく、 旭川荘など、 うちの一 黒住教系の施設 黒住姓を先祖に持つ家ですし、私たちの場 族としては、 川崎医科大学総合医療センター への訪問歴はありますが、 黒住教は政治・営利団体とと ややこしい分派 日本会議とも関係が深 があ 川崎学 神道上 いって以

道ではない新宗教」であると映っています。 降は、私たちの巫女神道から見れば、天理教や金光教と同じく「神性が宿っていましたが、天照大神に万物創造主の性質を持たせて以黒住教は、元は朝日(初日の出)を拝む日拝の神事にアニミズム 廃止して世界統

言語

(エスペラント) だけを用いるようにしても

も見かけます。

大本の主張とほとんど区別はつきません。

日本語を

共産主義者も多いですし、

日本語廃止論者や世界連邦国家論者

天 日

〈皇を宇宙万物の創造主とする一神教思想からしか出ませんので、

本神道を世に残せるという、これらの方々の信念は、

天照大神や

吉備の斎の巫女 --- 二〇一二年十二月十一日

ります。 岩崎様の教派神道のニューエイジ化に対するご不満やご不安は、 岩崎様の教派神道のニューエイジ化に対するご不満やご不安は、 おます。 とくに岡山県内の私たち斎の巫女がこれから県内の教派神道や神 とくに岡山県内の社がよります。

ちなみに、金光教や黒住教の信者にも、エスペランティストは多にして、先ほどの大本のエスペランティストの方々の言語論や神道にして、先ほどの大本のエスペランティストの方々の言語論や神道はぼ全てが秘伝である耀姫様のご一族の皇別系巫女神道の「高天はぼ全てが秘伝である耀姫様のご一族の皇別系巫女神道の「高天

いって、私たちからすれば神道とは認めがたいです。

従

得ないのは当たり前のことですので。 私たち巫女神道において、天照大神も天皇も万物創造主ではあり

教は、そもそも神道、巫女神道とは相容れないのです。金光教や黒住教にも軍人の信者が多くいましたが、一神教的な天皇戦前は、大本を中心に、教派神道信者の軍人も多かったですし、

神代の巫女 -- 二〇一二年十二月十四

私は神道でさえないと考えておりますので。

系と言っても、様相がまったく違いますし、天理教とその分派は、と思っておりますので、関わりそのものがございません。教派神道と思っておりますので、関わりそのものがございません。教派神道を別の教派神道系新教集団は、私たち斎の巫女の伝承とは無縁のもの教派神道については、少なくとも岩崎様が挙げておられる岡山県

教を神道と称することも不自然だと思います。 教を神道と称することも不自然だと思います。 うかを、タイムマシンで過去に戻って検証しなければ、それらの宗吉備王国時代からの神事を伝承する私たち斎女の「神懸り」と同じ接や、金光教の発祥のきっかけである金光大神の立教神伝が、古代授や、金光教の発祥のきっかけである黒住宗忠の天命直

く、それ以前の古代エジプト・オリエントの多神教世界だと思って日ユ同祖論も、日本の神道とつながるのは、ユダヤー神教ではな

いますので、私としては関わっていません。

一。一。一章変はとても悪いですが、私たちの巫女神道は、いろいろな教派言葉はとても悪いですが、私たちの巫女神道は、いろいろな教派

岩崎純一 --- 二〇一二年十二月十六日

なのかよく分からないという思いで見てきました。なのかよく分からないという思いで見ない頃から、これらのどこが神道もないようですね。私も、かなり幼い頃から、これらのどこが神道がである神道大教や出雲大社教は別にして、とりわけ岡山発祥の教かでありは、成立過程にニューエイジ性が伴っていないことが明ら

第十一章 日の巫女の王の伝承と日本最古の皇別系巫女神道

二〇一七年七月三十日 擱筆、公開二〇一二年十二月二十一日 取材、発言、起質

特設サイト 「神道・仏教研究」

神代の巫女 -- 二〇一二年十二月二十一日

ています。に近いと思われる伝承が、播磨・吉備地域のいくつかの社家に残っに近いと思われる伝承が、播磨・吉備地域のいくつかの社家に残っ逆に、オカルト日本史と思われそうで、実は『記紀』よりも史実

れる史実)と、それに基づく神事が伝承されています。 る社家には、神武天皇以来の現在の皇統が意図的に作られる以前 内の神代 (こうじろ) つまり、『記紀』の創作、天照大神や神功皇后の創作より以 (『記紀』 総社の秦 作者たちが、 (『隋書』 に出てくる秦王国の有力候補地) の出身の、 唐に対抗するため、 またはそれらの土地にゆかりのあ あえて覆い隠したと思わ や阿曾や、 前の神話 県

神 別 真人(まひと)である息長氏の一族であり、忌み家として存続して 氏族・皇室神道系の巫女神道のお家であり、そして驚くべきことに、 のお家は、私たちのような、最初から現皇統と血縁関係を持たない 麓に居を構えていらっしゃいます。 ご家系は、私たちと同様、 きた皇祖母神のお家とされる点です。 その中でも、 (天神・ 天孫・ この前にもお話に出ましたが、耀姫様の日の巫女の 地祇) 系の巫女神道ではなく、 女系世襲のお家であり、 ただし、 注意すべきなのは、 あくまでも皇別 現在は六甲山 そ \mathcal{O}

く高貴で、「斎王(斎宮、斎院)」ならぬ「斎皇」という呼称もお使族は皇室神道に近いのです。当然お立場上も、私たちどころではな元から皇統とほぼ無関係な私たちの巫女神道と異なり、耀姫様の一つまり、いくら皇室神道が巫女神道色を失っているとは言っても、

道 皇室神道の斎の巫女のものに近いです。 になって の斎の巫女であるということです。 姫 様 いるほどです。 の社家のそれらのほうが、 そして、 私たちが伝承する祭祀 代 格式上も舞の型の上でも、 マの 「斎皇」 は、 皇室神 秘 儀よ

界では見られますが。
り、天皇と斎王の役割が重複するようになったため、という説も学武家政権の登場により、天皇が祭祀を担うだけの非政治的存在とな武家政権の登場により、天皇が祭祀を担うだけの非政治的存在とな

されていることになると思います。

ことになります。の中では、有史以前から土着していた人々よりは新しいお家という高位かと思われますが、「アニミズムの精神を持った日本列島の人々」つまり、耀姫様のご一族は、「日本神道の家」としては最古かつ最

る総社市福谷の姫社神社に行けばわかりますが、祭神は「阿加流比原型であるとされる「姫社(ひめこそ)」が点在しています。現存す源はとても古く、西日本には、現在の神社(じんじゃ)それ自体の社(こうこそ・かむこそ)」と読む人もいますが、これらの言葉の起「神代」は、吉備地方や私たちの社家では「こうじろ」と読み、「神

この

ような伝承です。

神のルーツとも言われています。しひめ)、輝夜姫・かぐや姫(かぐやひめ)」です。この姫が天照大売神・天照赤留日女尊・明かる姫(あかるひめ)」=「照日女(てら

する家があり、そのお一人が先ほどの耀姫様とされます。この「あかる姫」(あるいは当時、単に「姫」)を降ろす巫女を有

嘘でどこまでが本当か、 再統合を繰り返しているようで、 ところです。 の伝承」であるという点はしっかり述べておられ、 氏族だったとしながらも、 もずれがあるようですし、 ただし、ご当人も、 前にも書きましたが、 その一 色々な意見があるようです。 その最大の根拠が未だなお「一族の故老 耀姫様の神道観に対しても、 族が中央集権国家大和朝廷を支える 各家・各古老の方々ごとに伝承に 一族は、 長い歴史の中で分派と 検証が待たれ

それでも、これらは、神武天皇の東征神話に比べて、格段に物証

のある話で、私たちの社家も注目しています。

「太陽と人間の結婚」を伝承しています。私たちの社家(天神・天孫・地祇氏族系)でも、大体以下のように日の巫女のご一族(皇室神道系)もそうおっしゃっていますが、

して阿加流比売となった。 を照らした。すると、 いう太陽の神に見初められて、 をして遊んでいたところ、 世、 アジア大陸の東にあった国のある池で、 女性は孕んで赤い玉を産んだ。 太陽の光が水鏡に反射してホト 姫は、 妻となった。 やがて天日矛 人間 (あまのひほこ) の女性が その玉は成長 (女陰) 水浴

七宝焼き仕上げにした美術品の体裁を取っているようです。 近年作られた分霊品で、 る剣 天日矛 ご親戚には刀鍛冶の家もあるとのことです。 舞が神事の (天日槍) 私たちの神事と似たようなものです。 中で最も重視されているようです。 は武器の神で、 普段持ち歩けるように金銀の装飾を施 耀姫様のご一族では鉄の 耀姫様の 神道の)神剣は 家柄な 神剣を

 \bigcirc 古式に則って、 甘南備山 (神名火山) の山頂の磐座の上に祭っ

下の点は、

磁気を帯びさせている。

て雷雲を招来する神事を行って、

落雷によって生じた電流を用いて

る。 状態になれるので、 \bigcirc 敏感な人は、 振ると磁気刺激を受けて脳が反応して簡単に催眠 神事の進行上重要な実用的アイテムになってい

吉備 斎の巫女 二〇一二年十二月二十三日

巫 重 は カュ て 女の なの ありますが、 なりあるようですし、耀姫様の主張も検証が必要な部分があるに いる斎の巫女ですから、学術界、 姫様は、 です。 族 は、 卑弥呼の鬼道と高句麗道教との深い関連性から、 ネット上で最も厳しく 古代の皇別巫女神道の継承の仕方としては極めて貴 度大陸に渡ったあとに太陽信仰を帯びて里帰りし 市民運動家からもバッシングが 『記紀』 以 前の巫女神道を説 日の

た縄文系の一族という説も唱えていらっしゃいます。

しょう。 ない伊勢がもはや行っていない、 かったり、 私たちの先祖である斎の巫女たちに巫女禁断令をうまく適用できな では迷走してきた新政府が、 すこういう社家が吉備・ 明治天皇を頂点に据えて神道国教化や国家神道の建設をもくろん 事実上神懸りの 播磨地方に残っていた事情もあったからで 神事を黙認するなどしたのは、 吉備地方の伝承にうっかり手を出せず、 天照大神の神託を授かる祭祀を残 斎王のい

して作られたもの、 て神武東征神話が作られ、 ちなみに、 カュ の桃太郎伝説は、 というのが、 それらを下地にして子供向けの 私の地域での伝承です。 天日矛一 族の東進 神話 を下地にし 御 伽

近 いですし、 以下のような耀姫様のご体験は、 前の電磁気のお話ともつながると思います。 私の幼少期の神降ろし 体

たので、 定すれば、 に位置する場所に建っていますね。 ました。 ました。 7 歳の頃総社の姫社神社を訪れて、 中国地方の数少ない活断層のひとつ、 なぜ心地良かったの 自然に体が動いて、 おそらく脳に良い結果が出てくると思います。」 か、 拝殿で剣舞を奉納したことを思い出 今日活断層の分布を調 土地が帯びている環境磁気を測 あまりにも心地良い場 畑ケ鳴断層の南 て納得し 物所だっ 西端

http://d.hatena.ne.jp/mayumi_charron/20100122/1264163279 日 本神話 の中に登場する 耀姫 (あかるひめ)」 (耀姫の 日 記

つくりつくり姫 --- 二〇一三年一月十二日

明は、やや私の認識とは違いがあるようです。りだと思うのですが、その遠因が神仏習合にあるというようなご説とが、明治政府の巫女禁断令につながったといったご主張はその通とが、明治政府の巫女禁断令につながったといったご主張はその通権姫様の家系の、姫社をめぐる古老の伝承は、今一度検証される

勝利勢力の一部に過ぎない点の説明は、論理的だとお見受けします。それでも、『記紀』の創作性がどこから来たかとか、現在の皇統は

心に、 です。 なって記紀が創作した神功皇后に名前を塗り替えられることなく、 こに祀られているのが耀姫です。 が支配した土地です。 日本最大級だった前方後円墳を生み出した、強大な力を持った豪族 鬼 鐸文化圏があったため、 台国の一分の人々が東進を開始したようです。当時、 「台与亡き後の混乱期に、 い時代の祀神の名がそのまま今に残されている貴重な神社のよう ノ城を築いていったようです。 再び新天地を求める動きが起こり、これと結びついた旧邪馬 日 矛耀姫ペアを信仰する集団が発端となって栄えたのが、 その発祥の地は姫社神社とされています。そ 戦闘の最前線となっただろう吉備の地に、 九州の日向あたりに住んでいた人々を中 他の地域の神社のように、 吉備と言えば、 作られたときには 東の地には銅 後世に 吉

備王国だった可能性がうかがえます。」

http://d.hatena.ne.jp/mayumi_charron/20100218/1266474872

整合性があり、適切だと思います。自己催眠の技術であって、統合失調症などではないとしている点で自己催眠の共感覚論との関連で言えば、自分たち巫女の神懸りが、

神代の巫女 -- 二〇一三年一月十三日

誇らしく「古代吉備国発祥の地」の看板がありました。 姫社神社(祭神はアカルヒメ=阿加流比売、天日矛の妻)には、

岩崎純一 --- 二〇一三年一月十七日

姫社神社に行かれたのですね。

社を乗っ取って神宮寺を建立したケースもあれば、一部の門跡など神仏習合についても、実際は色々ありますからね。仏教勢力が神

は皇族が寺を乗っ取って居座っています。

神仏のパズル遊びのように思えてきますし、言い方は悪いですが、 適当に当てはめたとしか思えない本地垂迹の流派もあります。 本地垂迹も、 いざ神仏の組み合わせ作業をやり始めたら、 段々と

く何でもやっている」感覚でしょう。 結局、 神道と仏教とキリスト教の違いもよく分かっていない、「何とな そういうものではなくて、現在までほとんど宗教的ドグマもな どっちもどっちだと思いますが、庶民レベルでの神仏習合

ますし、 「宗教の融合」や ロウィーンの騒ぎには興醒めしており、これらを「神仏習合」や そうは言っても私は、 昨今の烏合の衆のような、 「和の精神」と呼びたくはないと思っています。 前近代の神仏習合のほうに深い感銘を受け 初詣、 神社参拝、 クリスマス、

> らかでしょう)」、 「天皇は神子と呼ばれたことがなく、 位が下とされた時代もありました(これは卑弥呼 日の巫女の王 の例を見ても明 (後の斎王) ょ

ŋ

命じたのはなぜですか?」 「桓武天皇が日本書紀 31 巻を焼き捨て、他の箇所も書きかえるよう

https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1296395

282

ないかと思います」、 け継ぐ神道上の正式な天皇と言えるかどうか、微妙な立ち位置では 「憲法上の象徴天皇ではあっても、 残念ながら天照大神の精神を受

わないのでしょうか?」 「天皇が神の子孫というのは、 史実ですが、 なぜ最近は神の力を使

335 https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1095475

儀式を、 は、 ながら正式な本物の天皇と考えることは出来ません。もちろんこれ ありません。 「明治天皇までは行われてきた、天皇が天照大神と心身一体になる 日本国憲法上の象徴天皇であることを認めないという意味では 大正天皇からは行っていないので、 憲法上と宗教上は考え方が違ってきます。」、 私達から見れば、 残念

吉備の斎の巫女 -- 二〇一三年一月二十一日

に至ったとしていますが、 が原因で、 しいものではあります。 姫様は、 耀姫様の家系 当の天皇・ 皇族勢力は、 (日の巫女の一族) それはそれで、 これですとあまりに古い伝承で、 仏教徒化と神道の伝統の喪失 興味深いのですが、 から低い評価を受ける 検証が

耀姫様は

一
巴紋と託宣の儀式から (耀姫の 日 記 紐解く古代日本史。 (卑弥呼と天照大神の 実

http://d.hatena.ne.jp/mayumi_charron/20100218/1266474872

の立場 妹 \mathcal{O} だとしても、 も恐れられた一族ということになります。 できないのです。 ただし、 族がそのような立場になったことはなかったと思われます。 明治政府が私たちの家系の巫女 驚くべき言葉で喝破なさっていますが、 神託 (神々を降ろす巫女舞を舞うことのできる立場) 以前からお話に出ていますが、 をも恐れた経緯ととても似ていますので、 日の巫女の王の一族にしかできない発言で、 そして、 日の巫女の王の (私の曾祖母、 耀姫様のご報告は、 族は、 たとえ私たち巫女神道 祖母、 明治政府から最 あながち軽視 からはそう 母やその姉 私たちの 当時

二〇一三年一月二十三日

0 知 ま 日 れ りました。 本国の皇統側の正史においては『古事記』という形の中に組み込 私 族が伝承する神話 は、 1 この日の巫女の一族のことは、 るにすぎないという見方かと思います。 現 在 0 族の長である耀姫様の主張としては、 (というより実話) 和歌と巫女神道の両 があって、 それが現行の ご自身 面 から

> 照大神、 ることになります。 に展開される血統で、 事実上初期から形骸化していたらしく)、仏教化した皇室神道のもと すると、 ともな神託による天照大神の影もなく(しかも、 日 「姫」姓を持って現皇室・現皇統の上位に君臨する女系王統であ (T) 巫 現在の男系男子の皇統は、 女の 神功皇后、 族の全てのご主張が史実に寸分違わず正確妥当だと 卑弥呼・・・) 日の巫女の王 (日巫王) すなわち女神耀姫 の母系巫女神道家系こそが、 千年以上に渡って伊勢斎王のま 斎王の神託自体 줒 真

 \mathcal{O}

神道を継承していないことになります。 皇室神道 来は斎王の上に立つべきでない現皇統が上に立って、 現 在から短く見積もっても、 (とその斎の巫女たるべき神宮祭主や内掌典) 斎王制度が終焉を迎えた頃には、 以後千年 は真の巫女 間 は、 本

護っているのではないかという極論になってしまいます。 出した天照大神を祀る伊勢神宮の八咫鏡の、 そうなると、 内掌典は、 宮中で何の意味のない物体 さらにそのコピー) (宮中が 追 を

は、 同 申しますと、 0 かう道中や、 た巫 族のみがその正統であり、 <u>ー</u>の それにしても、 それはそれで深い悲哀とささやかな微笑があるのです。 う旨の、 女神耀姫であって、 女神道の哀しき美を思うと、「卑弥呼も神功皇后も天照大神も 伊勢において斎王が多くの侍女に囲まれて詠んだ歌に 斎王になって初斎院や野宮で暮らす時期や、 カントやヘーゲル並みの神概念の導入のような、 もっぱら斎王が詠んだ和歌の情趣という立場か 天日矛の子孫であり、 古くは高句麗=高天原に端を発する」 現在の日の巫女の 伊勢に向 そうい イレ

って見ています。 史観が生まれ出るものかどうか、にわかには信じがたく、驚きを持ギュラーの全く存在しない一直線的解釈から、真の斎王・巫女神道

うともがく託宣精神」が必要だと思っています。人々に対する真摯な優しさと、心から貧富の差を縮め災害を鎮めよ私は、斎の巫女には、ここの皆様がお持ちのような「ごく一般の

ます。
上記ページにもあるように、秦氏に所属する商人や職人を一手に上記ページにもあるように、秦氏に所属する商人や職人を一手に上記ページにもあるように、秦氏に所属する商人や職人を一手に上記ページにもあるように、秦氏に所属する商人や職人を一手にます。

別といった安易な二元論から超然としてとらえたいと思います。を含めた古代吉備の巫女神道についても、虚構・脚色と史実との区大陸(唐、新羅)対策としての書だったのと同様、耀姫様のご一族色の書、よく言えば扶余・高句麗・百済、そして大和朝廷側からのただし、私としては、『記紀』の創作理念が、悪く言えば虚構と脚

別・天神系巫女神道との別れ第十二章 天孫系巫女神道の秘儀・秘伝化および皇室神道や皇

特設サイト 「神道・仏教研究」二〇一七年七月三十日 擱筆、公開二〇一三年一月二十三日 取材、発言、起答

神代の巫女 --- 二〇一三年一月二十六日

です。 す。 すると、 とおりになると思います。 の天皇が正当性を否定されるべきものであると、私たちには読めま 下までの 125 代分の天皇のうち、 族、 このご一族の言い分をすべて史実とすると、 現皇統と血縁関係が見出せない神別系巫女神道家の私たちから すなわち、多氏系息長氏が誕生したときまで)を除くすべて 耀姫様ほかご一 族のご見解はあまりにも驚かされるご見 簡単に言いますと、 初期の数名の天皇 神武天皇から今上陛 岩崎様のおっしゃる (この皇別のご

ラエルの多神教の商人たちの中には日本に渡った人たちもいる、とですが、耀姫様も、日ユ同祖論を否定して、古代オリエント・イス遺る伝承は、かなり多くの学者の間でオカルト扱いされているようー部だけ取り上げますが、一応、先ほどの耀姫様の記事から、私

ど史実に忠実だとは思いますので。いう程度の適切な説明をしているあたりは、『記紀』などよりもよほ

おり、実に心地よいご発言をされる方ではあります。
ホツマツタヱ、カタカムナ文献に対しても真っ向から否定されて

多神教時代のイスラエルと日本神道との共通点のことです。れるようになったのか、不思議です。私の社家で言われているのも、それにしても、いつからイスラエルの部分がユダヤにすり替えら

象) (瞿豆つ日己)「巴紋と託宣の儀式から紐解く古代日本史。(卑弥呼と天照大神の実

http://d.hatena.ne.jp/mayumi_charron/20100218/1266474872像)」(耀姫の日記)

です。 T にすれば、 とされる巫女集団に対して、身分を知っていながら下手なことを口 触れることなど出来はしませんでした。日巫王 ねる太陽の巫女の家柄ですから、 き込まれないようにしながら、 系の継承を認めず、 ように、一族の長として表向きは男子を立てますが、 「私達の一 力中枢からは一 マト王権が成立した時代の、 私達の一族は、 不敬罪を理由にその場で首を斬り落とされかねない時代 族はというと、 一定の距離を置いて、くだらない政権争いなどに巻 朝廷や重臣達を経済的に後ろから援助しても、 平安京建設の頃からの史料を見れば明らかな 姫姓を持つ母系の継承を行う、 代々古い文化を伝承してきました。 日の巫女の一族と皇室の関係は、 新政府の教部省といえども、 (天照大神) 長の地位の男 秦氏を束 の血筋 手を 江

、時代で言えば、皇室と将軍の関係みたいなものだったようです。」

戸

摘と思います。 この論は、私たちの家系と似た経緯を辿っていますし、的確な

けていたようです。」統を失っていったので、日の巫女の一族から、かなり低い評価を受「それ以前の問題として、古い時代から皇室は仏教徒化して古い伝

別がかなり早期に始まったとのご見解をお持ちのようです。ませんが、耀姫様としては、仏教色に染まる皇室と巫女神道との決皇室の仏教徒化がそのまま皇室神道の衰退と同義となるとは限り

もあるようです。」すが、古事記には起こった出来事がそのまま載せられているケースすが、古事記には起こった出来事がそのまま載せられているケース「日本書紀では、天皇の威信に傷が付かないように配慮されていま

はないです。このあとの部分は、岩崎様がおっしゃったとおりです。この一文も、母系巫女社会ではよくある見方ですので、不自然で

っています。」た舞がほとんどです。託宣の舞の旋回の動きを知る人は減ってしま「今では、一般の神社の神事で見られる巫女舞は、奉納を目的とし

たちのこれまでの議論と重なるかと思います。 この ような、 巫 女神道の現状についての懸念はそのとおりで、 私

五.

では あ が 想定した神代の時 が 築くためには、 玉 ま 徹底して避けて、 け て人心を惑わしたとか、 室 室に対して臣下の礼を取っていた歴史があるという認識を、 室と日本の皇室が対等な外交をするうえで、 天照大神よりも古い神々がいるかのように神話を組み立てたりと、 ぼ間違いないと認識していたものの、 伝承されていた神話に登場する天照大神 うな有名人が含まれています。 じ す。 ていたとされる、 側に持たれては困ると考えていたようです。そこで、 らゆる逃げの工夫を凝らしているように見えます。 あると考えたようです。 の王室から臣下に近い扱いを受けていたとされる卑弥呼が、 一にも、 は卑弥呼 つつは、 その代わりに神功皇后という架空の人物を創作して、 天照大神と卑弥呼が同一の存在と看破されたとしても、 私達の 日 日本の歴史を中国と同じぐらい古く見せかける必要 巫王 そんな人物は知らないかのような態度を取ってい 代の神話に登場する天照大神だったようです。 卑弥呼に言及することを、 族の代々の ピミヲ) 魏の王室から鏡を贈られたり軍事援助も受 そこで創作したのが、 と呼ばれ 日本書紀の編纂者達は、 日の巫女のなかには、 中国王室と対等な外交関係を た、 (女神) 古代の日本を代表するよ 皇室の祖先が中 日本書紀の 紀元前六百年頃を であることは、 また、 中国 過去に、 鬼道を用 なかでは 側 中国王 中国王 一国の王 妊娠 の文献 当時 万 中 ほ

> かのような神話を創作していったようです。」 てきた太陽神の神話と絡めて、 と同じぐらい古く見せるために、 不自然な事績を創作していったようです。 に臣下の礼を取った倭の五王についても、 ているにも 世紀 ない姿勢を貫いているようです。 ノオの間に起こった出来事を、 初の 出来事を、 かかわらず朝鮮半島に出兵したといった、 邪馬台国の時代に百年ほど時間をずらして、 紀元前の日本に 神話の時代に高句麗国から伝わ 卑弥呼と敵対する狗奴国の男王ス また、 日本の天皇の歴史を中国 記紀はこれを天皇とは認 同様の発想で、 神代 . の時 兀 世紀: 代があった 中国王朝 後

8

サ

この おかしくはないと感じます。 あたりも、 細かな点を見 れば疑問はありますが、 論調として

は

度の正式立ち上げに失敗して、 原因だったようです。 況 天皇が、 ことを余儀なくされた原因のひとつは、 「卑弥呼と台与が合祀された亀山古墳に、 に陥ったらしいのです。」 皇位継承者を巡る争いで、 創建されたばかりの伊勢神宮内宮の、 天照大神をまともに祭祀出来ない 深刻な対立状態に陥 伊勢神宮の時の斎宮と持統 天照大神を極秘裏に祭る ったことが 斎宮制

宮歌壇の成立と消滅) この あたりは、 岩崎様やつくりつくり姫さん とも重なりますね 0) 和 歌関 連 の視点

みに偽装されている意図は明らかでしょう。」や漢字用法を詳しく知る人物でなければ、謎解き出来ないように巧は存在しない、古い時代の高句麗語と高句麗道教の世界独特の概念天照大神(の女神部分)は、同一人物ということになるのです。今天以上の観察から、私耀姫の視点から見ると、卑弥呼と神功皇后と

「故老からの伝承(代々伝わるお爺さんお婆さんの昔話)によると、「故老からの伝承(代々伝わるお爺さんた。」によっていたのが、斎女の一族だったようです。明治になって、神的に東ねていたのが、斎女の一族だったようです。明治になって、神的に東ねていたのが、斎女の一族だったようです。明治になって、神の長の男子の世襲を認めない、古い体質を持っていた秦氏を精現在の天皇家を作ったのは蘇我氏で、その経済支援団体が秦氏で、現在の天皇家を作ったのは蘇我氏で、その経済支援団体が秦氏で、現在の天皇家を作ったのは蘇我氏で、

この 照大神の 視できなくなってきたのも確かです。 を少しでも受けた私たちとしては、 女神道の 前 の の岩崎様の あ たりは、 断罪 神 託を司る女系社家=日の巫女の斎皇家?の分断) (巫女禁断令など) や白川伯王家の追放 言語学的視点からのご説明を聞いて、 日の巫女の一族側の説という感じもありますが、 興味深いものではあります。 やはり、 明治新政府による巫 (天皇と、 あながち軽 の影響 天

つくりつくり姫 --- 二〇一三年一月二十八日

ておられるようです。や誇張をお感じになりつつも、古代吉備王国発祥のヒントは見出し下記の有木巨智麿氏も、耀姫様とそのご一族の伝承について、や

に私は、有木神社にもよく参りました。の、途絶えたので、有木氏が世襲するようになっています。ちなみ吉備津神社の神主は、代々吉備津彦命の子孫が世襲していたもの

「173の鏡に映る神と宇宙」有木巨智麿

は、 ち神別氏族系の巫女神道から見ると、 花山天皇の子孫の男王家系にすぎないことが目立つわけです。 そう評価すればするほど、 よりも、 女の王」、「皇祖神日巫王」など色々と名乗っていらっしやり、 まに名乗っていらっしゃいますが、かなり精査は必要だと思います。 柄」、「多氏」、「多氏大王家」、「息長氏」、「息長斎皇家」などさまざ 一族についても、 例えば、 耀姫様は、「耀姫」、「天照耀姫 皇室神道と蜜月であるどころか、 族は真人 伯家神道を評価する神道史観は出てくるでしょうけれど、 耀姫様の視点では、 (まひと) であり、 「日の巫女の 白川伯王家は神仏習合血統である皇統の、 一族」、「秦氏を束ねる太陽の巫女の家 仏教色や儒教色に染まった吉田神道 (あまてるあかるひめ)」、 現在まで広義の皇室神 当時の息長氏始祖は皇族であ やはり皇別氏族系の巫女神道 道 日 また、 私た の巫 角

であることに変わりはないわけです。

強い口調で)物が言えるはずのこの一 どめとして近代に宮中から追放されましたが、 ぎる結末となっています。 王家の追放のあおりを受けて皇室との縁が切れる、 よりも 白川 伯王家は、 (アカルヒメの託宣によって、 すでに近世期に吉田神道家の陰に隠れてい 族が、 耀姫様の文体並みに圧倒的に 中継ぎ役だった白川伯 皇室に対して伯 という弱々しす て、 王家 لح

統

1

そのあたりの整合性についての言及がないといった点は見受けられ 11 神道との縁はなかったと見たほうがよいという立場もあり得ると思 るようです。 莂 ・ます。 この点などは逆に、 諸蕃を、全部ひとまとめに扱っていらっしゃるところがあり、 少なくとも『新撰姓氏録』 実はもっと早くから皇室と皇別氏族系の巫女 で分けて記録されている皇別、

よく判別できていません。 別 の巫女神道に近いものなの まり、 耀姫様が継承されている皇別の巫女神道が、 か、 皇室神道に近いものなのか、 私たち まだ の神

は、 を突いているところはあると思います。 当代の ħ でも、 『記紀』 耀姫 様の力強 作者が見れば焦ってしまうような、 剛胆とも感じられる巫女神道の 歴史の神髄 解 釈

岩崎 純 二〇一三年二月二日

> も興味深いのです。 渡来系巫女神道の観点から見れば見るほど、 そもそもつくりつくり姫様のおっしゃる通り、 らっしゃるとの伝 耀姫 (皇別氏族) 様が多氏系列の子孫である(とされる) の 一 承は、 派であることが目立つという点は、 それはそれで正確であると仮定しても、 日の巫女の家系とて皇 息長氏の斎の 極めて古い原理的な 私にとって 巫 女で

ような神別系巫女神道の伝承が残り、こちらのほうが日本列島土着 のアニミズムと直結している可能性が見えてくるわけです。 お書きになっているような伝承) 代に遡っていくと、 そうかと言って、 今度は当然、 天照大神よりも前の神代七代や造化の三 皇別系巫女神道の伝承 がパタリと姿を消す一方、 (耀姫様が 皆様の 神の 時

ことが、よく分かります。 そのものが、本当に人工的に設定・創造されて生まれたものである 人々の巫女神道である可能性はある)、 系のものであること こうしてみると、 皇別系巫女神道が、 (無論、 大陸に渡ったあと里帰りした縄文系の 現皇統や天照大神、 太陽信仰を中心とする渡来 「記紀」

らしいなどと公表なさっているわけです。 皇が無礼であるから日の巫女の先祖が首を切ってやろうかと思った 皇でさえ、日の巫女の一族に頭を下げるほかなかった を下げるほかない)わけです。 それにしても、 耀姫様ほか 日 雄略天皇の時代から、 の巫女の一 族のご主張によれば、 あまりにも天 (現在でも頭 天

斎の巫女たちの先祖が、 それならば、 なぜその混乱期に、ここの皆様のような神別氏族 自分たちよりも圧倒的に身分が高い 日 \mathcal{O} 巫

皇別、 ちが別の 統 あるいは、 神道破壊者であるはずの現皇統に対し、 な かったかという原理的な問題が残るのです。『新撰姓氏録』以前から、 女 0 カュ 巫女王統を出さなかったか、 0 たの 神 族にひれ 別の意識は存在したようですからね 『記紀』 皇統も皇別神道も見限って、 か。 そこまでの 伏 を捏造して別の皇統・王統を建てることを考えな Ļ その 無礼 天皇観に追従 者 ひいては、 血統、 神別氏族から新しい巫女皇 反旗を翻さなかったの 誤 った男系男子家系、 現皇統 神別氏族の男性神官た の欺瞞性に怒ら か。 巫女

斎皇 力者であったのではないか、 者というよりも、 筋 言うならば、 ではないのではない まり、 その秘密を日の巫女の一族が握っているのではないか、 (天照大神、 ここの 現皇統は日の巫女のご一族が非難するほど無礼者 それ自体が誰も逆らうことのできない 神功皇后、 皆様の斎の巫女の家系は、 か、 実は日の巫女の一 という壮大なテーマです。 卑弥呼・・・)自体になれなかっ 族は、 どうして皇統や斎王 巫女神道の伝承 時 Ö 明確に 政治権 たの の血

别 1 \mathcal{O} 皇に楯突く) させるに至らしめた、 「義には皇族の内部の 巫女神道 氏 7 注目点は、 ない、 系巫. ばかりを告げ、 が単 女神道を、 ことは不可能であるのだから、 という点です。 天照大神を降ろして天皇に都合の悪い託宣 -独行動で天皇に楯突くチャンスであったの 人間であり、 そんな最も畏怖された日の巫女の一族とて、 巫女神道 最後は天皇・宮中自身をして天照大神を追放 ということは、 上の問題とは無 実は『記紀』の外に飛び出る(天 ここの皆様の 日の巫女の王家は、 関係に、 政 (天皇の 治的 だ、 神別 楯突 氏族 死 神

さえつけていたと見るのが妥当だと考えられます。

がもたらされるわけです。 係を結んで、れっきとした巫女神道(斎宮)の凋落と現皇統の安定、といには、神別天神氏族の最高権威の藤原氏が、天皇と外戚関

たことは、私も間違いないと思います。 ただし、息長氏が長期に渡って播磨・吉備を本拠とした豪族だ

ても興味深い影響を与えていることは確かです。ませんが、真偽のほどは別にして、私個人の考察や神道史観にとっ現皇統はほとんど初期から血統が間違っていたことにならざるを得様(日の巫女の一族)の巫女神道史観の全ての内容を肯定した場合、いずれにせよ、スサノヲが本来の初代天皇であるといった、耀姫

ある」 です。 室神道や神社神道の精神 や脚色を挟んだものであったとしても、 人や皇室への私個人の崇敬の念とは無関係の、 が相容れない時代であると私は考える。 耀姫様に受け継がれている伝承が、 という私の思いを、 (もはや精神ではない) と巫女神道 部分的には代弁して下さってはいるから どこかでご先祖 それはそれで、 ただしそれは、 神道精神上の見解で 「現代は、 天皇陛下個 古老の虚 0 精 皇 神

照 サ 助 7 扱わ そのほ っする 大神のモデルとなったものの、 ノヲ れ \mathcal{O} ような比売許曽 かに る立場ではなかったとしている点です。 時代から実在してい 興 、味深い点は、 (ヒメコソ) て、 耀姫様は、 アカ スサノヲを超えて殊更に上位とし \mathcal{O} ル 巫 女集団 ヒメこと真の斎宮がその天 斎宮制度によって男王を補 が、 ア マテラスとス

神道史観です。 嘘の神道で精神支配しようとしたのではないとする点も、私と同じ むち、藤原不比等らが権力を持った当時の朝廷が、日本人を騙して 見せかけようとして創作された神代の女神である、との認識、すな 見せかけようとして創作された神代の女神である、との認識、すな また、過去の信仰実績が確認できない、『記紀』神話の女神天照は、

耀姫様の、「卑弥呼と神功皇后と天照大神(の女神部分)は、司っの氏子が容認したという展開は、十分に考えられるところです。大宗教改革について、当時の日の巫女と、それに賛同する秦氏など大宗教改革について、当時の日の巫女と、それに対抗して別の律中華思想の大国である唐を模範としつつ、それに対抗して別の律

究極の神託なのかもしれません。る意味で、数奇な運命を辿ってきた皇別系巫女神道が生み出した、人物」であり、現在においてそれは「私」であるとする見解も、あ耀姫様の、「卑弥呼と神功皇后と天照大神(の女神部分)は、同一

吉備の斎の巫女 --- 二〇一三年二月三日

 \mathcal{O} 口 私たちの社家が、 から皇統を立ち上げるという可能性も、 そうならなかった原因として、 『記紀』 はおっしゃるとおりで、 0 天孫降臨 『記紀』やのちの『新撰姓氏録』に対抗して、ゼ 天孫族における「天孫」 神別氏族 注意点すべき点は、 (天孫・地 理論上はあったはずです。 祇 から、 同じ「天孫」 の血が濃い) 『新撰姓

時の付き添いの神々の子孫よりも下位に置かれます。ちろん独立した特別扱いですし、天照大神直系の天孫が、天孫降臨る点です。神武皇統も、広義の天孫の一系統ですが、皇別氏族はも氏録』の天孫氏族における「天孫」まで、かなりの格下げが見られ

だと思います。 め、 先は、 巫女の一族側に立って、 対しては強い態度に出るようになり、 の王)に仕え、その天照大神の神託を天皇に伝える立場であったた もちろん、これは藤原氏の策略でもあったはずです。 皇別系の巫女神道にはひれ伏していたようですが、天孫氏族に 神功皇后の審神者 天孫系の巫女神道の排除に取りかかったの (さにわ) であり、 今度は天皇・皇別氏族・日の 息長斎皇家 藤 日 原氏 。 巫 \mathcal{O} 女 祖

の王も超えた」と何度も思ったと思います。藤原氏一族は一時期、心の中で「自分たちは、天皇も、日の巫女」

一的な斎の王統・斎宮の整備などが間に合わなかったと考えられまらの皇統との蜜月関係の発展により、神別系の巫女神道としての統こうとしたとしても、藤原氏を中心とする天神氏族の台頭と、それこうとしたとしても、藤原氏を中心とする天神氏族の台頭と、それまそらく、私たちの社家の祖先は、皇統、そして皇別氏族に楯突

本流の巫女神道からも離れていったと考えられます。 をで、私たち神別天孫系かつ藤原氏の末端の分家の巫女神道が、耀 平安時代や室町時代にも、また『記紀』時代と同じようなことが起 ところが、私たちも、その藤原氏の血を引くとされているのです。

の形になったと考えています。がつくようになり、巫女舞や神託をとことん秘儀・秘伝化した現在女神道とほぼ全ての縁を切られてしまい、そのうちに心地よい諦めの成立と伯家神道の没落によって、私たちは皇室神道や皇別系の巫のして、最終的には、これまでにも触れましたように、国家神道

と多く存在するでしょうね。

斎王=斎皇の系統、藤原氏本流の天神系巫女神道)。あるいは、もっなります(現皇統・宮中三殿の内掌典の系統、皇別系の日の巫女の系の巫女神道には、三系統以上の上位の巫女神道が存在することに以上がすべて正しいとしますと、今、私たちのような天孫・地祇以上がすべて正しいとしますと、今、私たちのような天孫・地祇

岩崎純一 --- 二〇一三年二月六日

とがよく分かります。 氏 大和朝廷以外の た三つ巴の神道勢力が出来上がり、 女神道色が薄れつつあった皇室神道) ここの皆様の視点をお借りしますと、そういった皇別氏族系 息長氏) 皇室神道と皇別系の巫女神道に天神氏族系の巫女神道が加 0 地に残っていったという構図なのでしょう。 日の巫女の家その他の社家は、 さらにそこに、 天孫・ 天神氏族藤原氏の台頭が影響 に近いお立場だったというこ 地祇氏族系の巫女神道が なおさら現皇統 わっ 교 多

めとする八百万の神々)を捨てている皇室神道や多くの皇別氏族系そうなると、今現在は巫女神道色(強いて言えば、天照大神を初

はいかないとなると、私などはもう気が遠くなります。せいかないとなると、私などはもう気が遠くなります。一筋縄ですが、それも、『記紀』の時代だけではなく、それ以降の時代にも行皆様のような神別天孫・地祇系の巫女神道ではないかとさえ思えま神道や神別天神系の神道から最も遠い道を歩んでいる巫女神道は、

考えます。 考えます。 さいたの時代に必要なのは、男系男子を中心とする現皇室や皇 これからの時代に必要なのは、男系男子を中心とする現皇室や皇 の正がでそれらの中から、女系女子が担ってきた非政治的な祭祀・ で、一方でそれらの中から、女系女子が担ってきた非政治的な祭祀・ で、一方でそれらの中から、女系女子が一族の実験を握る皇別系巫女 別系・天神系の神社神道、女系女子が一族の実験を握る皇別系巫女

思います。

思います。

のドグマであるような巫女文化として遺ることが望ましいと、私はのドグマであるような巫女文化としてではなく、神楽を舞う巫女心とする神道の中にある巫女文化としてではなく、神楽を舞う巫女

第十三章 ホトをめぐる秘儀と現代日本社会

二〇一七年七月三十日 擱筆、公開二〇一三年二月十三日 取材、発言、起筆

特設サイト「神道・仏教研究」

耀姫

様

のご回

神代の巫女 --- 二〇一三年二月十三日

継承者ではあると思います。ても、とりあえず現状では、安心して拝見していられる巫女神道の理主義を唱えることは意図していないと宣言なさっている点だけ見何はともあれ、耀姫様は、イスラム原理主義と同じような神道原

ても、 える修験者の男衆の方々も間近で見ておられます。 道の達人でいらっしゃり、 女性の身体現象を察知できたりする共感覚 岩崎様がお持ちの、 耀姫様の神道史観は参考になると思います。 自然現象 岩崎様と同じく男覡 (地震、 台風など) (対女性共感覚) (おかんなぎ) を察知できたり 耀姫様も、 につい と言 合気

火門・・・)をめぐる伝説について考えてみたいです。神道と神別巫女神道という区別を超えて、ホト(女陰、火陰、火戸、神道側からの見解をお示しになっています。ここは一つ、皇別巫女を箸で突いて死んだ」というパターンは定番ですが、耀姫様が巫女日本神話では(私たちの社家に伝わる神話でも)、「ホト(女陰)

は本当にそんな死に方があったんですか?」「日本神話で「ほと」を突いて死ぬ女が何人かいましたが、古代に

https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1095321

た、 他の巫女達は祭祀の中心から排除されていったのです。その過程で 心の神道へと変化していき、 の発想が生まれた結果、 たらしいのです。昔の皇室神道は、 を祈願して行う神事だったことが、 わって行ったため、 が下ってくると、しだいに現代の新嘗祭に近い豊穣祭の姿に移り変 る箸(丸い木の棒)で突く神事が行われていました。ところが時代 受大神) ホトを突く神事の意味も見失われていったと思われます。」 「高句 女性継承の巫女神道でした。ところが、 麗でも大和の地でも、 のホトに見立てて、 「ホトを箸で突く」のが、 男性が神前で神を敬う所作を行う祭祀が中 これを隧神の男性のシンボルを象徴 かろうじて斎宮制度は残ったものの、 **隧穴を豊穣を司る大地母神** 巫女が託宣することを中心とし 分からなくなっていってしまっ 翌年の多産 (五穀豊穣) 中国の影響で男性上位 (現在 の豊

が間違えているのを目にしますが。
が間違えているのを目にしますが。ということですね。多くの日本人
がる儀式で死んだ(と創作した)」ということですね。多くの日本人
すで使うような)箸が刺さって死んだ」のではなく、「ホト(に見立
「ホト(女陰)を箸で突いて死んだ」というのは、「ホトに(今の食

吉備の斎の巫女 -- 二〇一三年二月十六日

ったく執り行っていないと思います。自体を使用する神事です。後者の秘儀については、内掌典はもうまーつは隧穴・洞穴をホトに見立てた神事、もう一つは私たちのそれ東盟祭に似た神事を継承しています。これには大まかに二種類あり、東忠祭の社家でも、ホト(女性器)に見立てた隧穴・洞穴を祀る

伝承内容としては、
の女神は、吉備津神社、吉備津彦神社、岡山神社でも祀られていまの女神は、吉備津神社、吉備津彦神社、岡山神社でも祀られていま例えば「百襲比賣命(ももそひめ)」にまつわるものがあります。こ

られた。」
には、ボーの異様さを恐れた村民たちに舟を押されて沖へ流れ着いては、ホーの異様さを恐れた村民たちに舟を押されて沖へが恥じて、モモソヒメを木舟に乗せて海に流した。何度も浜や島に「モモソヒメは、ホトの形が異様で、毛も大変長かったため、親神

というものです。

私は、木舟には乗りませんが、それを模した儀式です。私たちの秘儀も、こういった伝承にまつわるものになっています。

から生まれたとされるミヅハノメについても、その陰毛や頭髪とさカグツチ(火産霊)を踏んでホトにやけどを負ったイザナミの尿

長さの一 でもあるかもしれません。 たことがうかがい知れます。 て伸び、桶からはみ出るとされる一方、 れるものを「神毛」として桶や箱に入れて納めている神社がありま たいていは 本に戻るとされ、 一本だけ入れるもので、 ホト、 神意の荒ぶるときは何股にも毛が分かれ 陰毛、 神意の穏やかなときは元の 頭髪が呪術に用いられてい 弥都波能 売神社には、 今

岩崎純一 --- 二〇一三年二月十七日

それらに男性たちがどのように関わってきたか、深い関心を持ってこのような神話・伝承を、女性(巫女)たちがどのように伝承し、

見ています。

にし という流れかと思います。 者らの手によって、 なるかと思います。 系の巫女神道から父系の皇室神道へと持って行った、ということに の男性神官、 の儀式そのものだった高句麗の東盟祭や日本の隧穴の祭祀を、 耀姫様の神道史観に基づけば、 (男性視点からの笑い話に作り替え)、 後世の我々男性が、 気がついてみれば今日の新嘗祭のようになった 巫女神道のホト信仰や斎宮の雰囲気が、 「ホトに箸が刺さって死んだ」こと 多産豊穣祈願の祭祀で、 そのまま神道の正統を母 斎の巫・ 男性作 当時

れへの対策として日本の神代を古く大きく見せるために『記紀』以確かにそのような側面もあるかもしれませんが、唐の侵略のおそ

ます。 尊女卑の思想ではなく、 め方を変える記述も行われたという点には、 する記述と同時に、 降 の史書を創作するに当たり、 ホト・ かなりの致し方なさや深刻さを、 陰毛の信仰を中心とする女神の 男系男子の皇室神道の正当性 面白さや諧謔だけ 私は感じ 身 を標榜 体 の男 : の 崇

 \mathcal{O}

国史に書くということには、 からさえも程遠い) 観念は、 ったかと推察します。 視点からの女性蔑視の文学に思えるでしょうが、 現代の 現代感覚からは程遠い 我 々の目には、 でしょうし、 『記紀』 男女双方にとってもっと深刻な面もあ におけるホト信 (皆様が男覡であると見て下さる私 ホト信仰とホトの儀式をわざわざ 仰の 当時の男女の身体 作り替えが男性

よほど例外的な倫理観を持っていない限り、 巫 らしますと、 いと思いますので。 能 男性 女神道の軽視という意味ではなく、倫理道徳的な観点という意味 力を私が持っているとはいえ、 もちろん、いくらご紹介したような共感覚、 どこかの時点でお笑いに持って行かなければ、 気がします。 (というより、 現代において『記紀』 そもそも、 ほとんどの氏子・国民の男女) 皆様のようなホー 現代人男性の一人としての感覚か を深く語る際には、 私に限らず、 1 女性の身体への察知 ・の秘儀の光景には、 かえって扱いに が耐えられな 女性蔑視や ほとんど

のは確かだと思います。

 \mathcal{O}

ろで、 天皇陛下・ご皇族の親しみやすさや宮中の現代的祭祀のほうである ではないですし 私たちの秘儀は、 ら虫の糞までもが、すべてつながっていると考えますので。 絶対に賢所に持ち込んではならないのです。「清」 は、こちらのほうが保っていると感じています。 れた裾を直そうものなら、 ほうが相当厳しいご生活だと思いますし、私たちよりも「清」と「次 「まけ」については、 女性の 方々から誤解されるおそれがあります)、紹介しやすいのは現在 一方で、 区別が二元的で、 浄化可能という感覚も持ち合わせています。 生理現象・性行動との兼ね合いという意味では、 私たちの場合、 (紹介したくないというより、 安易に一般の方々や海外に紹介できるようなもの 西洋的思考がずいぶん入っていると思います。 厳然と「穢れ」 もうアウトで、すぐにお着替えです。 磐座・神座に誤って少し持ち込んだとこ 一であるとの意識がありますし、 とくにキリスト教徒 私たちは、 の手で「次」 アニミズム感覚 内掌典 御饌か

いです。 なく)、それ自体が呪力を持ち、 儀の中は、 し負けて、 たことがありません。 巫女の処女性 巫女自身が神懸りして神となるので、 史記のネタとして捧げるというような感覚は 奉納の意識というよりは(これらを男神に捧げるのでは ・純潔性と、 ホトや陰毛、 畏怖すべき神であるという意識が強 尿にまつわる私たちの 男性からの 度も持 視線に押

神代の巫女 --- 二〇一三年二月二十三日

念だと感じています。そう思っているわけではないです。巫女舞や託宣の上で、必要な観け」を穢れとする風習はありますが、男性たちが汚いと言ったから、ホト自体が神性を帯びるということですね。私たちの場合も、「ま

ん。

く国民側からの誤解によって生まれたものとも言えるかもしれませく国民側からの誤解によって生まれたものとも言えるかもしれまづ子様へのインタビュー番組のように、国民向けの神道の説明に基づ内掌典の近代的・西洋的な二元性は、先にお話に出ました高谷朝

ニズムを理解していらっしゃると考えてよいと思います。典ご経験者の方々は、巫女神道の根底に流れる東アジアのシャーマ性意識状態)をもはや起こせなくなっているとしても、多くの内掌内掌典の秘儀そのものは、実際に自己催眠(転換性や憑依型の変

吉備の斎の巫女 -- 二〇一三年二月二十五日

畏怖を呼び起こす部分はカットされて、男衆たちが桶のホトの毛をもし男性視点で生み出された伝説であるなら、ホトに対する恐怖・が荒ぶると八岐大蛇のように分かれて伸びるというものですからね。ミヅハノメ伝説でも、ホトの毛一本を桶に入れるだけでなく、神

- ないのぞには、「ご葉の句点」ないでしまった。に見下ろして笑う、というような伝承が優先的に遺るはずです。

強い内容になっています。や巫女が長い毛を誇って見せたなど、自虐的な笑いの要素のほうがや巫女が長い毛を誇って見せたなど、自虐的な笑いの要素のほうが形伝説とつながりがありそうなのですが、この伝承も、むしろ女神が伝説とつながりがありそうなのですが、この伝承も、むしろ女神が伝説との家には、「七難の揃毛(そそげ)」という話と、それにま

荒々しくて機織り女を襲ったといったものではないですね。神たちの手元が狂ったという面があるのです。スサノヲが性的にみの機織り女たちのホトの儀式の最中に、スサノヲが邪魔をして女とのでしまいますが、これも、「刺さった」というよりは、天照大神とな神が自分から出てきて踊り、周囲が爆笑したという設定です。そ女神が自分から出てきて踊り、周囲が爆笑したという設定です。そ

よく表していると思います。
でも、「火陰」、「火戸」、「火門」などの当て字はその畏怖の感情をいう認識、下手をするとヒトが火を噴くというような認識は、まだ魔をすると地震・雷などの禍(まが)が起きて大変なことになると魔をすると地震・雷などの禍(まが)が起きて大変なことになると

岩崎純一 --- 二〇一三年二月十七日

は、 皆様のご意見を伺って、 したし、 私も、 非 神道: 高谷朝子様の神道観にも如実にそれを感じてきたのですが、 内掌典のご生活における「清」と「次」の厳然たる区別に 的・非アニミズム的・非汎神論的な違和感を覚えてきま かなり謎が解けたような気がします。

は、

中側の され、 ということなのかもしれません。 計するようになり、 明しやすい皇室神道」を模索する方針が芽生え、そういう神道を設 斎の巫女神道と違って西洋的・現代的性質を帯びるようになった、 国民に紹介されるものの、 最初は、 深層意識の中に「マスコミや国民や海外にも分かりやすく説 日本最後の秘伝生活のように取り上げられて、 マスコミなどの手によって内掌典などの巫女生活が詮索 結果的に、 今度はそれが災いして、 ここの皆様のような非皇室神道系の いつのまにか宮 テレビなどで

うな気がします。 祀にせよ、 の祭祀にせよ、 そう考えると、 全般についての意識が異なってきている理由も、 内掌典と皆様のような斎の巫女との間でホトをめぐる秘 中山太郎が記録したような実際のホトを使用する祭 隧穴・ 洞穴を利用する東盟祭や日の巫女のご一 つかめてきたよ 族

体に対する倫理観念は、 \mathcal{O} かも知れないと思います。 あるいは、先にお書きになっている通り、内掌典が司る祭祀には、 ト自体を用いる秘儀自体が存在していないでしょうし、 むしろ一般の女子学生の巫女の方々に近い 自らの身

その ホトを用いず、 他の祭祀についても、 代わりにホトに見立てた凹み部分や窪地を用 やはり祭祀の奉納の意識、 巫女の ホ いる \vdash

> ミズムの対象であり、 処女性を捧げるという意識が強いと思います。 相違が生じてきているのを実感します。 ホト自 体が神性を帯びるとする皆様の秘儀と ホト自体もまたアニ

部 神道・仏教研究

二〇一七年八月四日 二〇一七年七月二十 应 公開 日

 $\overline{\overline{\bigcirc}}$ 特設サイト 一七年九月十四日 神道・仏教研究 最終更新



神道・仏教の研究

網羅的に在野で研究しています。曹洞宗という文人・武人の家系ですが、個人的には、神道と仏教を曹洞宗という文人・武人の家系は、軍人(近衛兵・陸軍将校)・教育者・私(岩崎純一)自身の家系は、軍人(近衛兵・陸軍将校)・教育者・

神道・仏教研究

何でも取り入れて生きています。 教も西洋哲学も言語学も精神病理学も物理学も数理論理学も IT も教を網羅的に在野で研究しています。和歌・神道精神を中心に、仏陸軍将校)という文人・武人の家系ですが、個人的には、神道と仏怪軍将校)という文人・武人の家系は、教育者・曹洞宗・軍人(近衛兵・

研究の発端としては、

- そもそも私は哲学出身で、個人レベル・在野の立場での哲学・

思想の構築をやりたいという夢があること

(資格としての申職こよる権内型祭祀を中心とする見代日本の申出さや違和感を覚えるなどして、中退。)れたり、教授陣の展開するポストモダン哲学や授業内容に物足りな(東大でニーチェ哲学や東洋哲学を学ぶも、東大哲学学閥の姿に疲

参加していない。)
参加していない。)
参加していない。)
(資格としての神職による奉納型祭祀を中心とする現代日本の神社(資格としての神職による奉納型祭祀を中心とする現代日本の神社

探究したいと考えたこと(→和歌・古典) ■ 斎の巫女の方々と和歌を詠む中で、その背後にある神道精神を

通点・ 神 病理学上の転換性障害・身体表現性障害・憑依障害など) の巫 相違点に注目していること(→精神病理学・精神疾患研 女の神懸り体験とその他の知人女性の精神・身体症状 との共 究 (精

盤としており、 記 いること(→言語学・言語体系考案、寿羅穂里阿文明・寿羅穂里阿 の症状を持つ女性、 私が考案している人工言語が、とりわけ託宣する斎の巫女や上 これらの皆様と共に仮想文明・仮想神道を考案して 自閉症やサヴァン症候群の男性との交流を基

神道 私自身が様々な特殊な知覚の保持者で、 脳科学上の研究対象・

被験者や斎の巫女の方々からのご関心の対象となってきたこと(→

知覚・共感覚)

ること(→郷土 私の家系の男子の戦史や故郷岡山県の軍事史の全貌を見渡すこ 人間 (日本人) (岡山県) の軍事行動と精神・ 研究) 思想・宗教との関係を探

などが挙げられます。

【関連するこのサイト内の特設サイト】

岡山近衛兵将校子孫会 \mathcal{O} 羅 『新純 流派 星余情和歌集』 冏 文明 家元・団体の総覧』 (岩崎式文明 精神病理学·精神疾患研究 伝統和歌の会「余情会」 論 大日本帝国陸軍岡山 寿羅穂里阿神道 岩崎純 歩兵第 岩崎式日本語 『旧派歌道・ 10 連隊 0) 共感覚 歌学

> データベース(文字、 ユニティ東京 道、 超数学理 論 元素周期表の色彩記憶など) 数字、 円周率、 音階、 将棋、 超音波知覚者コミ 地図、 動 車

鉄

ねて -』紹介ページ 『巫女神道探訪記 日本的アニミズム感覚の源流を訪

二〇一二年九月十六日 取 材、 発言、

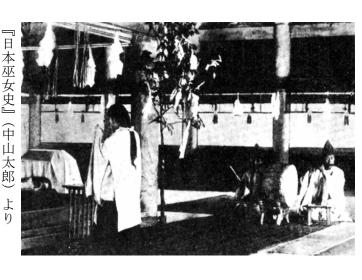
二〇一七年八月四日 公開

二〇一七年九月四日 最終更新

特設サイト 神道 仏教研究

現在、 本文は全てこの前の位置に収録。 (二〇一八年七月六日に追

記。)



※

巫女の方々のご許可・ご確認を得

て一部書き換えた箇所があります。 プライバシー保護のため、

【参照】「当サイトで扱う巫女神道の比較表.

- $\overline{}$ 「巫女神道」 とは 何か
- 巫女の自己紹介
- ●社家の巫女神道の概要

- 回 巫女の方々への岩崎純一の自己紹介
- 家系の遺伝子と巫女の神託能力・共感覚との 関係
- 神懸り体験の正体、「合気」としての共感覚

子) 七

五

- 神懸りと物理学上の電磁波動の関係について
- 巫女が詠む和歌の呪力・魔力について
- 宮中祭祀と巫女神道との距離感

九

- 岡山の神道系新宗教の隆盛
- $\widehat{\pm}$
- 天孫系巫女神道の秘儀・秘伝化および皇室神道や皇別 日の巫女の王の伝承と日本最古の皇別系巫女神道
- ホトをめぐる秘儀と現代日本社会

天神系巫女神道との別れ

関連するこのサイト内の特設サイト

字、 羅穂里阿文明 岡山近衛兵将校子孫会 \mathcal{O} 元素周期表の色彩記憶など) 『新純星余情和歌集』 流派・家元・団体の総覧』 円周率、 寿羅穂里阿神道 音階、 精神病理学·精神疾患研究 岩崎式日本語 伝統和歌の会「余情会」 将棋、 大日本帝国陸軍岡山歩兵第 10 連隊· 超音波知覚者コミュニティ東京 岩崎純一の共感覚データベース(文 地図、 自動車、 鉄道、 『旧派歌道・ 超数学理 歌学 寿

第五部 神道・仏教関連リンク

二〇一七年七月二十四日 起筆

二〇一七年九月十四日 最終更新二〇一七年八月四日 公開

特設サイト「神道・仏教研究」

古代吉備王国関連リンク

●「173の鏡に映る神と宇宙」有木巨智麿氏

巫女神道関連史記

●『日本巫女史』中山太郎

巫女神道関連リンク

耀姫の日記

)Twitter 耀姫(あかるひめ)@AkaTamaYoriHime

●Yahoo 知恵袋(akatamayorihime さん)

巫女の方々によるバーチャル神社の試み

●Google+ 耀姫あかるひめ(画像集)

天照神宮

】耀姫 生得知識 研究所

神道を教育している大学・研究機関の関連リンク

쮯発信の拠点形成』 ●國學院大學 21 世紀 COE プログラム『神道と日本文化の国学的研

六部 岡山県巫女特別協力資料(一)

『日本神道道統図』

- 吉備系巫女神道とヤマト系神社・国家・教派神道の

比較年表 -

旧吉備王国(郷里岡山県および兵庫県、広島県、山口

県など山陽地方)系巫女神道・巫女歌道

令和新時代

最終協力版

別添資料を見よ。

第七部 岡山県巫女特別協力資料 (二)

『吉備・ヤマト相関図』

合・『記紀』神話・六国史の歴史観の比較年表 - 旧吉備王国・吉備王国系巫女神道とヤマト王権連

県など山陽地方)系巫女神道・巫女歌道(令和新時代)旧吉備王国(郷里岡山県および兵庫県、広島県、山口行『『『希』行書・プロリアの景をできます。

最終協力版

別添資料を見よ。

岡山県巫女特別協力資料

子)

『吉備巫女神道に対する弾圧策の実相とその再興計画』

吉備系巫女神道に対するヤマト系神社・国家・教派

神道の対応の比較

県など山陽地方)系巫女神道・巫女歌道 旧吉備王国 (郷里岡山県および兵庫県、広島県、 令和新時代 山口

別添資料を見よ。

最終協力版

第九部 岡山県巫女特別協力資料

七

『巫女神道吉備派道統総覧』

吉備系巫女神道の理論的再興 近現代の巫女弾圧策で壊滅、 逃亡、秘教神道化した

県など山陽地方)系巫女神道・巫女歌道 旧吉備王国 (郷里岡山県および兵庫県、 広島県、 令和新時代 山口

最終協力版

別添資料を見よ。

交流初シンポジウム」の後援 「定説への叛乱 in 岡山 (吉備) 岡山・東京歴史研究

二〇二〇年四月十二日 起 筆、 擱筆、 公開

Twitterへの投稿の転記

なる。 る。 広告を出すようだ。 も神社本庁・岡山県神社庁から警告があった。対して、 地元吉備に関する面白いシンポジウム(リンク先)を後援してい コロナで延期になったが、それ以前に圧力で頓挫しないか気に 主催者に岡山県庁から妨げが入り、私と IJAI の巫女のもとに 山陽新聞は

https://iwasakijunichi.net/4/1/1/4/4-1.pdf

だが少なくとも埴輪吉備起源説、 げる予定はない。 神天皇陵説など(リンク先資料で解説) は邪馬台国吉備説(吉備王=ヤマト大王・天皇説) は未だ保留中だ。 登壇者の方々と私とで学説はほぼ一致するが、全てではない。 造山古墳先行築造説、 は圧力がかかっても取り下 造山古墳応 私

著作者の一部および著作権者が岩崎純一であるもの

第九編

著作権者が岩崎純一であるもの

第

部

巫女神道ノー

https://iwasakijunichi.net/okayama-miko/

日本と同山の定数へ報記する議師左右
●産の5・0至代と指令文庫への担くて書きて新任命から
田田俊徳外生 一般のであるとなっては、て書きて新任命から
出版を開発生 一般のであるとなっては、
一般のでは、
一般の

定説への叛乱(概要まとめ)

造山古墳の桜 古墳の王 群者 滋養伝承

万葉集、登山 無関係 の歌等 大龍9、小畑 古代山城 月 9 単回度令 不明

鬼の城

 \mathcal{O}

日本と間山の定説へ叛乱する講師たち

第 章 「巫女神道の比較表_

$\overline{\bigcirc}$
三年八
月六日
起筆

一〇一七年八月六日 公開、 最終更

7 ŧ 11 私たちは、 、ます。 \mathcal{O} が、 播磨と吉備によく残っているようです。 尚 Ш 岩 崎純 .県内の巫女神道が中心ですが、原始的な巫女神道そ 氏 0 サ 1 卜 \mathcal{O} 巫 女神道の比較表」に協力し

巫 女神 道 \mathcal{O} 比 較表

http://iwasakijunichi.net/shinto-bukkyo/miko-shinto.htm (二〇一八年七月二十九日追記:現在は『全集』 に収録。)

第二章 訪ねて - 』 『巫女神道探訪記 日本的アニミズム感覚の源流を

二〇一三年八月六日

二〇一七年八月六日 公開、 最終更新

心身状態を調査なさるため、 以下 は、 岩 崎 純 氏 が 巫 女の共感覚・ 私たちをご訪問下さったときの議 総合知覚や祭祀 神事中の

*追シンボジウムは最初4月19日の予定でしたが、コロナウイルスの広がりで、急遽4月21日に変更されました。 定説への振乱in岡山(吉備) 町山・東京歴史研究交流初シンポジウム開催 回山:東京歴史研究スポックプム開催 当古代日本のはは最かという意味に発する。 まで日本の生命やは「種かではく無いに重要する。一、一 野社に加える場合が多ずり着くた。 の野山の世界でも発見する。ほのはは古代以までおくて見るな であった。 であった。 であった。 は、これらに関いてきない。 は、これらない。 は、これらな シンポジウム交流会事務局: 〒108-0022 東京都港区芝連4-6-12-110 お開い合かせ: (202) 23-3451-7163 (集帯)49)-964-2272 平立方 6月21日 タイムスケジュール
1000 内線 1015 内線では 1015 内線 1015 内k 1015 had 1015 <定説への叛乱について―挨拶に代えて> 呼びかけ人 平血物人 2020年6月21日(吉日)

うところもあります。

岩崎氏のサイトに載せていただいています。 それ以降の交換ノートをまとめたものです。私たちの発言・記述も、

http://iwasakijunichi.net/shinto-bukkyo/miko-tamboki.html 『巫女神道探訪記 (二〇一八年七月二十九日追記:現在は『全集』に収録。 日本的アニミズム感覚の源流を訪ねて

れぞれわかりやすく比較できると思います。

「巫女神道の比較表」

http://iwasakijunichi.net/shinto-bukkyo/miko-shinto.htm

http://iwasakijunichi.net/shinto-bukkyo/miko-tamboki.html 『巫女神道探訪記 日本的アニミズム感覚の 源流を訪ねて

三章 巫女神道史観の比較

二〇一三年八月六日

 $\overline{\overline{\bigcirc}}$ 二〇一七年八月六日 一七年九月二日 公開 最終更新

(二〇一八年七月二十九日追記:現在、リンク先は『全集』に収録。)

教育者・曹洞宗・軍人(近衛兵・陸軍将校)という文人・武人の

では、 生まれになった耀姫様と、 家にお生まれになった岩崎純一氏と、皇別系巫女神道の斎皇家にお 持っている神道観・仏教観は三者三様で、 神別系巫女神道の家に生まれた私たちと 同じ所もあれば違

ップのリンクからいろいろとお読みいただくのがよいと思いま

神道に関しては、 以下をお読みいただくと、共通点、 相違点がそ す。

第四章 日の巫女の王 (斎皇)

二〇一三年八月六日

二〇一七年八月六日 公開

二〇一七年九月二日 最終更新

(二〇一八年七月二十九日追記:現在、 リンク先は『全集』に収

在は、 日の巫女の王の血を引くとされる女系一族がいらっしゃいます。 ٧ く知らない、 一族です。 岡山県(古代吉備王国)にゆかりのある巫女神道の一 兵庫県の六甲山麓に本拠があります。私たちでさえ実態をよ 皇別系 (現皇統と血のつながりがある) の巫女神道の 族としては、 現

『日本書紀 私たちは、 の神代 神別系の巫女神道といって、 (かみよ) **| 虚構・脚色の世界を通さなければ** 現皇統とは『古事記』 B

る社家です。 血がつながらない、つまり、ほぼ生物学的に血縁がないと考えられ

イトにやり取りを載せていただいていますので、ご覧下さい。議論の中でしょっちゅう史実性について分析していて、岩崎氏のサ日の巫女の王のお家について知りたい方は、私たちも巫女神道の

「岩崎純一のウェブサイトが扱う巫女神道の比較表」

http://iwasakijunichi.net/shinto-bukkyo/miko-shinto.htm

『巫女神道探訪記 ― 日本的アニミズム感覚の源流を訪ねて ―』

http://iwasakijunichi.net/shinto-bukkyo/miko-tamboki.html

日の巫女の王家の関連リンク

http://iwasakijunichi.net/shinto-bukkyo/link.html

第五章 ●●社家の祭祀・神事

二〇一三年八月六日 起筆

二〇一七年八月六日 公開

二〇一七年九月二日 最終更新

(二○一八年七月二十九日追記:現在、リンク先は『全集』に収録。)

ございませいが、呂前は犬せておりますのと、必義・必云り要素●●社家(私たちの本家・分家)の祭祀・神事の概要です。申し

は大まかにしか書いていません。分家ごとの細かな違いも省きます。訳ございませんが、名前は伏せておりますのと、秘儀・秘伝の要素

岩崎純一氏がご訪問下さったとき以降の記録である『巫女神道探

『巫女神道探訪記』(議論交換ノートのネット用改訂版訪記』にも載っています。

http://iwasakijunichi.net/shinto-bukkyo/miko-tamboki.html

○ 暦 ::

【社家内の生活で使用する暦】 旧暦(太陰太陽暦の宣明暦)

【巫女舞、神託の儀式で使用する暦】 旧暦 (太陰太陽暦の元嘉暦)

儀鳳暦、大衍暦、五紀暦など)

※ 外向けには新暦(グレゴリオ暦)を使用。

〇装束

【巫女舞(巫女神楽)、神託の儀式のとき】 千早、水干、裳、舞衣、

白足袋または裸足

※ これらを身につけるのが斎の巫女の特徴。

【磐座、神座、遺跡、古墳、川の中などの場所での儀式のとき】 上

記(の略装)に裸足

失礼)、足元が不安定な大自然の中で動きやすく舞いやすくするため。※ 略装にするのは、簡略化のためではなく(それは神々に対して

【氏子・参拝者の方々にごく普通にお目にかかるとき】 白衣、袴

※ いわゆる一般の巫女装束。

【普通の外出時】 洋装

※ 外出時以外は、稀に平安装束を着る。

音楽 : 雅楽

○ 小道具 : 榊、幣、神剣、神鏡、鉾、鈴、笹など

〇 巫女舞の場所

【神社、舞台で舞う】

(これのみ、公開神事です。非公開神事のような意識変性はめった

れが起きないような動きをしています。)に起きず、また、自分にも氏子・参拝者の方々にも感化によってそ

【川の水に浸かったり潜ったりして舞う】

己催眠である点でそれらとは違います。)ところ、カタレプシー=強硬症に似た状態が観測されましたが、自場合もあります。じっとしている状態を医学的に調べていただいたおとどでの巫女舞とは動きが違い、小道具を持ってじっとしている、に宿る神に処女として一体化する秘儀です。舞うと言っても、舞(これは、川の水から体に神をもらう、分かりやすく言えば、川の(これは、川の水から体に神をもらう、分かりやすく言えば、川の

【山、磐座、土の上、雪の上で舞う】

からある地名の霊山で舞うことが多い。)(甘南備、神代、荒神、鬼、雨乞、天柱など、二千年や千年以上前

方、 感• が観測されましたが、 性障害や身体化障害、 * やがて、 虚脱感が出始めます。 旋回の仕方があり、 巫女舞では、 完全な自己催眠状態になって、 伝承されている一定の重力の用い方、手足の運び 自己催眠である点でそれらとは違います。 カタプレキシー(情動脱力発作)に似た状態 それらを繰り 医学的に調べていただいたところ、 返すと、 風、 最初は巨視感・離人 木々の揺れ、 転換 Ш

「神懸り」とか「憑き物」と呼びます。の流れなどが声や神託だと思える状態になり、そのことを私たちは

「神懸り感覚」の一部とが、とても近いものであると見ています。います。このため、岩崎純一氏の述べる「共感覚」と私たち巫女のまでに強く、五感の鋭さや直観能力には乏しいことだけはわかってい)女性を調べたところ、前頭葉のはたらきだけがアンバランスなこの動きが一番苦手な(何度舞っても変性意識の入口にかからな

その他の儀式

磐座での着座による神懸り、禊、

滝

時々、鳴釜神事のような地域の公開神事にも参加。

男性がする修験道のような荒行まではしない。

* *

注意点

こととされています。
ても、私たちの巫女舞、託宣の姿を写真や映像に撮ってはいけない客との遭遇などの偶然を除いてはありませんが、身内の人間であっ字との遭遇などの偶然を除いてはありませんが、身内の人間であっ